| 科目名 | 【人間の尊厳と自立】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 小泉　浩一 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | 1年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護福祉士として、介護にかかわる具体的な支援を行う前に、人間への尊厳といった「人はそれぞれがすばらしい、尊重すべき存在である」ことを踏まえるための知識を得る。<br>②社会福祉の歴史を踏まえつつ、自立に対する根本的な理解と知識を得る。 |
| 到達目標 | ①人間の尊厳を踏まえた支援を志向することができる。<br>②社会福祉の歴史を踏まえつつ、人権に配慮した介護の必要性と実際を理解し、介護実践に生かすことができる。<br>③介護福祉士の国家試験合格のための基盤をつくる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 救護施設、地域包括支援センター、生活介護事業所（障害者）といった社会福祉の現場で、約23年の実践経験がある。<br>また、現在も、救護施設等でのスーパービジョン、グループワーク実践等に携わる。授業においては、実務経験や社会福祉現場との関わりを随時授業に取り入れ、理論や歴史的経緯との関連性などへ言及し、将来の社会福祉・介護実践に生かすことを念頭に置く。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 小泉 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション、人間を理解するということ①<br>半年間：学びについて、人間を理解するために必要なこと（バイオ・サイコ・ソーシャルなど）等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 2. | 小泉 | 講義 | 内　　容：人間を理解すること②<br>人間を理解するために必要なこと（多様性）等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 3. | 小泉 | 講義 | 内　　容：人権思想・世界人権宣言<br>人権とは、世界人権宣言、人権獲得の歴史（フランス革命、アメリカ独立宣言、ワイマール憲法）等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 4. | 小泉 | 講義 | 内　　容：日本国憲法と人権<br>憲法とはなにか、日本国憲法制定の経緯、日本国憲法の三原則（平和主義・平和主義・基本的人権の尊重）、憲法第25条「生存権」等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 5. | 小泉 | 講義 | 内　　容：各法律の尊厳規定、人権に影響を与えた人々①<br>各法律の尊厳規定として、社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法を学ぶ。<br>また、人権に影響を与えた人々として、ガンジー、ミケルセン、キング牧師、マンデラ等を学ぶ。<br><br>到達目標：上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 6. | 小泉 | 講義 | 内　　容：人権に影響を与えた人々②、人は人をどのように援助しようとしてきたか①<br>人権に影響を与えた人々として、ナイチンゲール、糸賀一雄を学ぶ。<br>また、人は人をどのように援助しようとしてきたかについて、イギリスの歴史（エリザベス救貧法など）等を通して学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 7. | 小泉 | 講義 | 内　　容：人は人をどのように援助しようとしてきたか②<br>人は人をどのように援助しようとしてきたかについて、引き続きイギリスの歴史（セツルメント・慈善組織協会［COS］、貧困調査など）等を通して学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 8. | 小泉 | 講義 | 内　　容：戦後の福祉理念の移り変わり<br>第二次世界大戦後の福利理念等の移り変わり：ベヴァリッジ報告、児童憲章、ノーマライゼイション理念の発展、女性の人権、バイステックの7原則、社会的包摂等を通して学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |
| | 9. | 小泉 | 講義 | 内　　容：QOLと生命倫理、人権に関連する用語<br>QOLとADLについて、生命倫理（尊厳死など）、インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記内容を理解し、説明することができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 小泉 | 講義 | 内　　容：自立した人間とは<br>　自立とはなにか、身体的自立、精神的自立、経済的自立、社会的自立、自律との関係等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>　上記内容を理解し、説明することができる。 |
| 11. | 小泉 | 講義 | 内　　容：介護における自立<br>　残存能力の活用、意欲を高める関わり、選択肢を増やす関わり等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>　上記内容を理解し、説明することができる。 |
| 12. | 小泉 | 講義 | 内　　容：権利擁護・権利侵害<br>　社会福祉における権利擁護・権利擁護、成年後見制度の考え等を学ぶ。<br><br>到達目標<br>　上記内容を理解し、説明することができる。 |
| 13. | 小泉 | 講義 | 内　　容：補足、復習①<br>　これまでの授業内容を補い、再度重要な箇所を丹念に説明し、理解を深める。<br><br>到達目標<br>　上記内容を理解し、説明することができる。 |
| 14. | 小泉 | 講義 | 内　　容：補足、復習②<br>　これまでの授業内容を補い、再度重要な箇所を丹念に説明し、理解を深める。<br><br>到達目標<br>　上記内容を理解し、説明することができる。 |
| 15. | 小泉 | 講義 | 内　　容：前期試験（単位認定試験）を行う。<br>　前期試験を実施し、解説を行う。<br><br>到達目標<br>　上記内容を理解し、説明することができる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規 |
| 参考文献 | 授業時に随時指示する。 |
| その他<br>（留意点等） | |

| 科目名 | 【人間関係とコミュニケーションⅠ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 関根　一春 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | 1年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。<br>②介護実践における介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎知識を理解し、チームケアについて理解する。 |
| 到達目標 | ①人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解できる。<br>②介護実践場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につけられる。<br>③介護実践のために必要な人間関係を理解し、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につけられる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 高齢者・障害者分野にて、在宅・施設で20年勤務してきた実務経験にもとづき、対象者本人・家族、ケア提供をおこなうチーム・メンバーとのかかわり方やコミュニケーションのあり方などを含めて講義します。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 関根 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション・人間の尊厳と自立①<br>人間の尊厳の意義と利用者主体について学ぶ。<br><br>到達目標<br>人間の尊厳とは、どのようなことなのかを理解できる。<br>利用者主体とは、どのようなことなのか理解できる。 |
| | 2. | 関根 | 講義 | 内　　容　人間の尊厳と自立②<br>社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷について学ぶ。<br><br>到達目標<br>歴史的背景と援助のあり方の変化を理解できる。 |
| | 3. | 関根 | 講義 | 内　　容　人間の尊厳と自立③<br>人権尊重と権利擁護を学ぶ。<br><br>到達目標<br>人権を尊重すること、権利を擁護することの意義を理解でき、説明できる。 |
| | 4. | 関根 | 講義 | 内　　容　人間の尊厳と自立④<br>人権尊重と権利擁護を学ぶ。<br><br>到達目標<br>人権を尊重すること、権利を擁護することの意義を理解でき、説明できる。 |
| | 5. | 関根 | 講義 | 内　　容　人間の尊厳と自立⑤<br>自立の概念と多様性について学ぶ。<br><br>到達目標<br>自立とはどのような状態をいうのかを理解でき、説明できる。 |
| | 6. | 関根 | 講義 | 内　　容　人間の尊厳と自立⑥<br>介護を必要とする人々の自立と自立支援を学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護を必要とする人々の自立を確認し、必要とする自立支援のあり方を理解でき、説明できる。 |
| | 7. | 関根 | 講義 | 内　　容　人間と人間関係①<br>人間関係における自己理解（自己覚知・自己開示）と他者理解を学ぶ。<br><br>到達目標<br>人間関係のなかで自分と他者を理解すること必要性を理解できる。 |
| | 8. | 関根 | 演習 | 内　　容　人間と人間関係②<br>自己理解（自己覚知・自己開示）と他者理解を体験し、理解を深める。<br><br>到達目標<br>座学で学んだことが、実際に活用できる。 |
| | 9. | 関根 | 講義 | 内　　容　対人関係におけるコミュニケーション①<br>コミュニケーションの特性や構造について学ぶ。<br><br>到達目標<br>言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて理解でき、説明できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 関根 | 演習 | 内　　容　対人関係におけるコミュニケーション②<br>　言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを体験し、理解を深める。<br><br>到達目標<br>　座学で学んだことが、実際に活用できる。 |
| | 11. | 関根 | 講義 | 内　　容　対人援助関係におけるコミュニケーション①<br>　援助者としてのコミュニケーションの基礎について学ぶ。<br><br>到達目標<br>　言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて理解でき、説明できる。 |
| | 12. | 関根 | 演習 | 内　　容　対人援助関係におけるコミュニケーション②<br>　援助者としてのコミュニケーションを体験し、理解を深める。<br><br>到達目標<br>　座学で学んだことが、実際に活用できる。 |
| | 13. | 関根 | 講義 | 内　　容　組織におけるコミュニケーション①<br>　組織においてどのようなコミュニケーションが求められるかについて学ぶ。<br><br>到達目標<br>　組織の条件とコミュニケーションの特徴について理解でき、説明できる。 |
| | 14. | 関根 | 演習 | 内　　容　組織におけるコミュニケーション②<br>　組織においてどのようなコミュニケーションを体験し、理解を深める。<br><br>到達目標<br>　座学で学んだことが、実際に活用できる。 |
| | 15. | 関根 | 試験 | 前期定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 『最新　介護福祉士養成講座１　人間の理解【第2版】』　（中央法規出版　2022年2月刊行） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 講義の進捗状況により、講義内容が変更になる場合がある。 |

| 科目名 | 【人間関係とコミュニケーションⅡ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 関根　一春 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | 1年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介掻実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーシヨン能力を養うための学習とする。<br>②介護実践における介護の質を高めるために必要なチームマネジメシトの基礎知識を理解し、チームケアについて理解する。 |
| 到達目標 | ①人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解できる。<br>②介護実践場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につけられる。<br>③介護実銭のために必要な人間関係を理解し、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーシヨン能力を身につけられる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 高齢者・障害者分野にて、在宅・施設で20年勤務してきた実務経験にもとづき、対象者本人・家族、ケア提供をおこなうチーム・メンバーとのかかわり方やコミュニケーションのあり方などを含めて講義します。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 関根 | 講義 | 内　　容　介護実践におけるチームマネジメントの意義①<br>ヒューマンサービスである介護サービスと他のサービスとの相違点を学ぶ。<br>到達目標<br>介護サービスと他のサービスの相違点を理解でき、関連性を説明できる。 |
| | 2. | 関根 | 講義 | 内　　容　介護実践におけるチームマネジメントの意義②<br>介護実践にチームマネジメントが必要とされる意義を学ぶ。<br>到達目標<br>チームマネジメントの必要性を理解でき、説明できる。 |
| | 3. | 関根 | 講義 | 内　　容　介護実践におけるチームマネジメントの意義③<br>介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を学ぶ。<br>到達目標<br>チームマネジメントの取り組みを理解でき、説明できる。 |
| | 4. | 関根 | 講義 | 内　　容　ケアを展開するためのチームマネジメント①<br>ケアを展開するために必要なチームとその取り組みを学ぶ。<br>到達目標<br>ケアを展開するためのチームのあり方や機能について理解でき、説明できる。 |
| | 5. | 関根 | 講義 | 内　　容　ケアを展開するためのチームマネジメント②<br>チームでケアを展開するためのマネジメントを学ぶ。<br>到達目標<br>チームでケアを展開するために必要な取り組みついて理解でき、説明できる。 |
| | 6. | 関根 | 講義 | 内　　容　ケアを展開するためのチームマネジメント③<br>チームの力を最大化するためのマネジメントを学ぶ。<br>到達目標<br>チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォロワーシップについて理解でき、説明できる。 |
| | 7. | 関根 | 講義 | 内　　容　人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①<br>介護福祉職のキャリアと求められる実践力を学ぶ。<br>到達目標<br>キャリアに応じて求められる実践力、チームケアのために必要な実践力について理解でき、説明できる。 |
| | 8. | 関根 | 講義 | 内　　容　人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②<br>介護福祉職としてのキャリアデザインを学ぶ。<br>到達目標<br>キャリアデザインについて理解でき、介護福祉士としてのキャリアデザインがイメージできる。 |
| | 9. | 関根 | 講義 | 内　　容　人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③<br>介護福祉職のキャリア支援・開発を学ぶ。<br>到達目標<br>キャリア支援・開発について、どのようなことがあるかを理解でき、説明できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 関根 | 講義 | 内　　容　人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④<br>自己研鑽に必要な姿勢を学ぶ。<br><br>到達目標<br>自身のキャリアを想定した自己研鑽のあり方・姿勢についてイメージできる。 |
| | 11. | 関根 | 講義 | 内　　容　組織の目標達成のためのチームマネジメント①<br>介護サービスを支える組織の構造を学ぶ。<br><br>到達目標<br>質の高い介護サービスは組織的に支えられていることを理解でき、説明できる。 |
| | 12. | 関根 | 講義 | 内　　容　組織の目標達成のためのチームマネジメント②<br>介護サービスを支える組織の機能と役割を学ぶ。<br><br>到達目標<br>組織がどのような役割・機能を果たしているかを理解でき、説明できる。 |
| | 13. | 関根 | 講義 | 内　　容　組織の目標達成のためのチームマネジメント③<br>介護サービスを支える組織の管理を学ぶ。<br><br>到達目標<br>組織がどのような構造になっているか、どのように管理されているかを理解でき、説明できる。 |
| | 14. | 関根 | 講義 | 内　　容　まとめ<br>これまでの講義内容の振り返りと確認。<br><br>到達目標<br>人間関係とコミュニケーションを理解し、実践できるようになる。 |
| | 15. | 関根 | 試験 | 後期定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 『最新　介護福祉士養成講座１　人間の理解【第2版】』　（中央法規出版　2022年2月刊行） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 講義の進捗状況により、講義内容が変更になる場合がある。 |

| 科目名 | 【高齢者福祉と障害者福祉】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 半田　仁 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | 1年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①社会保障の制度・施策としての高齢者福祉と介護保険制度の基礎的な知識を身につけることを目的とする。<br>②高齢者保健福祉制度の基本的なしくみ、介護保険制度の内容を理解し現状と課題をとらえる能力を養う。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①高齢者福祉と介護保険制度の基礎を理解することができる。<br>②高齢者保健福祉制度、介護保険制度について多角的な視点で現状の課題をとらえることができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 通所介護および特別養護老人ホームにて介護職員として携わった際の社会の理解における高齢者の現状と今日的課題をとらえることの重要性を具体例として講義や演習の中にとして活かしていく。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 半田 | 講義 | 内　　容　高齢者保健福祉の動向<br>高齢者保健福祉における施策の視点の変化と動向に変化をもたらした歴史を含め社会背景について学ぶ。<br><br>到達目標<br>歴史および社会背景から高齢者保健福祉における施策の視点の変化と動向を理解することができる。 |
| | 2. | 半田 | 講義 | 内　　容　高齢者保健福祉における今日的課題と展望<br>高齢者保健福祉における現在の社会の課題について多角的な視点からの思考過程を学ぶ。<br><br>到達目標<br>歴史および社会背景から高齢者保健福祉における現状を理解し展望に向けて複数の情報を区別して整理することができる。 |
| | 3. | 半田 | 講義 | 内　　容　高齢者保健福祉に関連する法体系<br>高齢者保健福祉に関連する法体系の概要について学ぶ。<br><br>到達目標<br>高齢者保健福祉に関連する法体系の概要について理解することができる。 |
| | 4. | 半田 | 講義 | 内　　容　老人福祉法と高齢者の医療に関する法律<br>高齢者保健福祉に関連する各法律の役割について学ぶ。<br><br>到達目標<br>高齢者保健福祉に関連する各法律の役割について理解することができる。 |
| | 5. | 半田 | 講義 | 内　　容　介護保険制度創設の背景と目的<br>歴史および社会背景から介護保険制度創設の背景と目的について学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護保険制度創設の背景と目的について理解することができる。 |
| | 6. | 半田 | 講義 | 内　　容　介護保険制度のしくみの基本的理解<br>介護関する保険の制度としてしくみについて学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護保険制度のしくみについて基本的な理解することができる。 |
| | 7. | 半田 | 講義 | 内　　容　介護保険サービス<br>介護保険サービスの利用手続きについて学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護保険サービスの利用手続きの流れとサービスの利用について理解することができる。 |
| | 8. | | 講義 | |
| | 9. | | 講義 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | | 講義 | |
| | 11. | | 講義 | |
| | 12. | | 講義 | |
| | 13. | | 講義 | |
| | 14. | | 講義 | |
| | 15. | | 講義 | |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 60% | 30% | 10% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 介護福祉士養成講座編集委員会 編集『最新　介護福祉士養成講座　２　社会の理解　第2版』（中央法規、2022年） |
| 参考文献 | いとう総研資格取得支援センター 編集『見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ 2026』（中央法規、2025年） |
| その他<br>（留意点等） | 前後の講義との関係性から科目全体を通してさらには介護の基本や生活支援技術における福祉用具や他の科目との相互理解を深めていくように学習を進めてほしい。 |

| 科目名 | 【介護の為の心理と音楽】 |
|---|---|
| 担当者 | 平野夏子・高橋透馬先生 |

| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護福祉学科 | 昼間部 | １年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 30 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | 【高橋】心理学の３大基礎領域とされる動機づけ・知覚・学習を学ぶことによって、人間共通の行動傾向を理解したのち、知能、性格等のパーソナリティ理論、および発達理論により個人差について学ぶ。<br><br>【平野】①高齢者が児童期・青年期に慣れ親しんだ音楽について学び、介護実践に役立てる。<br>②音楽療法理論に基き、音楽を心身の活性化やリラクセーション、コミュニケーションの促進に活用する方法を学ぶ。 |
| 到達目標 | 【高橋】①心理学の基礎的理論を理解する。<br>②心理学の知識を用いた人間理解の方法を理解する。<br><br>【平野】①音楽療法的な視点を持って音楽レクリエーションを計画することができる。<br>②音楽を活用してコミュニケーションを促進することができる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 【高橋】地域精神保健福祉の臨床現場で主に精神障害をお持ちの方に対する相談支援業務を行ってきました。<br>現場での実践経験を授業に取りいれることができればと思っています。<br><br>【平野】音楽療法士として30年以上にわたり介護施設および認知症病棟で音楽療法を実践し、豊島区認証の認知症カフェにおいて<br><br>も音楽を活用した実践を行ってきた。<br>この経験をもとに、介護の現場で音楽を有効に活用する方法を、体験的・実践的な授業の中で学んでもらう。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 高橋 | 講義 | 内　　容　感覚と知覚<br>生活直接関連し、高齢者や障害者に顕著にみられる行動を理解する上で、重要な感覚、知覚、認知について学ぶ。<br><br>到達目標<br>基礎的な情報処理である感覚、知覚、認知について理解する。 |
| | 2. | 高橋 | 講義 | 内　　容　記憶と学習<br>学習のメカニズムについての心理学における、研究、実験、理論について学ぶ。<br>また、心理学では記憶をどのように整理し、どのようなことを明らかにしているかを学ぶ。<br><br>到達目標<br>心理学における、記憶と学習の理論について理解する。 |
| | 3. | 高橋 | 講義 | 内　　容　動機づけの心理学<br>自身の行動のもととなる動機づけの理論について学ぶ。<br>また、対人援助での葛藤状況、福祉現場において、関わる人同士の食い違いについて考えるための心理学的基礎理論を学ぶ。<br><br>到達目標<br>行動のもとになる動機づけや欲求、欲求不満や葛藤状況、原因帰属スタイル等について理解する。 |
| | 4. | 高橋 | 講義 | 内　　容　パーソナリティ（知能、性格）<br>対象者理解の為に必要なパーソナリティについて、心理学ではどのように捉えているのかを学ぶ。<br><br>到達目標<br>心理学における性格の代表的な二つの考え方（理論）として、類型論と特性論について理解する。 |
| | 5. | 高橋 | 講義 | 内　　容　発達心理学<br>幼少期から成人に至るまでの発達（発育）のみならず、心理学では高齢者の発達をどのように捉えているのかを学ぶ。<br><br>到達目標<br>生物学的成熟のみならず、高齢者の認知発達について理解する。 |
| | 6. | 高橋 | 講義 | 内　　容　社会心理学<br>物理的な環境ではなく、人間という環境にはどのような特徴があるのかを理解する。また、現場の福祉従事者が直面する感情労働と職場のコミュニケーションの問題を取り上げる。<br><br>到達目標<br>対人認知、自他理解に関する諸理論について理解する。 |
| | 7. | 高橋 | 講義 | 内　　容　まとめ<br>これまで授業で取り上げきれなかったテーマについて補足、まとめを行う。<br>学んできた心理学の知識を総合的に理解する。<br><br>到達目標<br>これまで学んできた心理学の知識を総合的に理解する。 |
| | 1. | 平野 | 講義 | 内　　容　音楽療法的音楽活動とは<br>音楽療法について概要を解説し、実際に行われている活動の中から「回想法」と「パタカラ体操」を紹介する。<br><br>到達目標<br>音楽が高齢者の心身に良い影響を与え、介護の役に立つことを知る。 |
| | 2. | 平野 | 講義 | 内　　容　音楽を用いた身体活動の目的と方法<br>音楽を用いた簡単な身体活動を紹介する。<br>活動の目的について解説し、教科書に付属しているCDを使用して、音楽を用いた身体活動を練習する。<br><br>到達目標<br>付属のCDを用いた身体活動の方法を知る。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3. | 平野 | 講義 | 内　　容　楽器を用いた音楽活動の目的と方法<br>音楽療法で使用される楽器について紹介し、介護現場で使用する際の注意事項を学ぶ。<br>簡単な楽器活動を紹介し、実際に体験する。<br><br>到達目標<br>介護現場で活用できる楽器について学び、使用上の注意事項を理解する。 |
| 4. | 平野 | 講義 | 内　　容　童謡唱歌を用いた音楽活動の目的と方法<br>高齢者が幼少時に慣れ親しんだ童謡唱歌を紹介し、回想法や、高次脳機能訓練に活用する方法を紹介する。童謡唱歌について検索する練習をする。<br>教科書に付属しているCDを使用して、童謡唱歌を用いた音楽活動を練習する。<br><br>到達目標<br>童謡唱歌について検索できるようになる。付属のCDを用いた活動の方法を知る。 |
| 5. | 平野 | 講義 | 内　　容　流行歌を用いた音楽活動の目的と方法<br>昭和初期、中期、後期に分けて高齢者にとって馴染みの深い流行歌について概説し、流行歌を活用した音楽活動を紹介する。<br>認知症グループでの実践事例と、流行歌を活動で使用するポイントを解説する。<br><br>到達目標<br>流行歌について検索できるようになる。<br>流行歌を活動で使用する際のポイントを理解する。 |
| 6. | 平野 | 講義 | 内　　容　音楽レクリエーションの進め方<br>これまでに学んだ音楽活動を用いて、1時間前後の音楽レクリエーション・プログラムを作成する方法を学ぶ。<br>実際に活動を進行するにあたってのポイントを学ぶ。<br><br>到達目標<br>教科書に紹介されている音楽活動と付属のCDを活用して音楽レクリエーションの計画ができる。 |
| 7. | 平野 | 講義 | 内　　容　音楽活動の実践<br>教科書に紹介されている音楽活動を1つ選び、実践方法を練習する。<br>活動の目的を相手に伝え、わかりやすく参加しやすい活動を提供する方法を、学生同士で話し合って工夫する。<br><br>到達目標<br>活動の目的を対象者に伝え、教科書付属のCDを用いて活動を実践する。 |
| 15. | 平野<br>高橋 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 武知治樹・加藤俊徳：監修『ＣＤ／ＱＲ音源付ですぐに使える！高齢者のための音楽レクリエーション　音楽療法のプロが教える』（メイツユニバーサルコンテンツ、2022年） |
| 参考文献 | 甲谷至：著『歌うことが口腔ケアになる』（あおぞら音楽社、2008年）<br>二・大塚裕一・宮本恵美：著『はじめよう♪音楽リハビリテーション』（あおぞら音楽社、2016年）<br>長倉裕 |
| その他<br>（留意点等） | 時事的なトピックや、学生の学習進捗にあわせて、柔軟に内容を変更する。 |

| 科目名 | 【介護の基本Ⅰ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 宮里　裕子 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的（ねらい） | ①介護の成り立ち、介護の概念、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉の社会的な状況をとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本理念を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①介護の成り立ち、制度の流れ、制度化以前の介護を説明できる。<br>②介護の基本理念を学び、尊厳を支える介護、自立を支える介護が展開できる。<br>③介護福祉士の誕生の理由を知り、役割を考えられる。 | | | | | | |
| 実務経験と授業内容への活用 | 介護福祉士として長年介護現場で勤めており、実際の福祉制度・介護の変遷の現状を伝える事ができる。<br>高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 宮里 | 講義 | 内　　容　オリエンティーション　介護とは何か<br>現在の日本の人口、高齢者社会のイメージは？　外国人介護者の必要性など<br><br>到達目標<br>日本の福祉の現状をイメージできる。 |
| | 2. | 宮里 | 講義 | 内　　容　テキスト・参考資料提示<br>介護福祉を取り巻く状況①　介護の成り立ち<br><br>到達目標<br>日本で介護職ができた流れを理解する。 |
| | 3. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>介護福祉を取り巻く状況②　介護需要の変化の理解<br><br>到達目標<br>日本の高齢化、家族・地域社会の変化を理解し介護保険制度への成り立ちを理解する。 |
| | 4. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>介護福祉を取り巻く状況③　介護ニーズの複雑化と多様化<br><br>到達目標<br>求められている介護の重要性を理解し、介護人材の質を考えられる。 |
| | 5. | 宮里 | 演習 | 内　　容　参考資料提示<br>認知症キャラバンメイト養成講座の実施<br><br>到達目標<br>認知症を理解し、キャラバンメイトとしての行動ができる。 |
| | 6. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>介護福祉の歴史、社会福祉政策を知る①<br><br>到達目標<br>介護保険制度の必要性を知り、制度の中での介護福祉士の役割を理解する。 |
| | 7. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>介護福祉の歴史、社会福祉政策を知る②<br>1970年代～1990年代の流れ<br>社会福祉士及び介護福祉士法の制定<br><br>到達目標<br>介護保険制度の必要性を知り、制度の中での介護福祉士の役割を理解する。 |
| | 8. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>介護福祉の歴史、社会福祉政策を知る②<br>1990年代～2000年代の流れ<br><br>到達目標<br>介護保険制度の必要性を知り、制度の中での介護福祉士の役割を理解する。 |
| | 9. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>介護福祉の歴史、社会福祉政策を知る③<br>2000年以降、介護保険法について、介護福祉士の定義規定の変遷<br><br>到達目標<br>介護保険制度の必要性を知り、制度の中での介護福祉士の役割を理解する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>　介護福祉の基本理念<br><br>到達目標<br>　介護福祉の基本となる理念を理解する。 |
| | 11. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>　介護福祉士に求められる職業倫理を考える。<br>　ノーマライゼーション、QOL,利用者主体を考える。<br><br>到達目標<br>　介護福祉の根本的な考え方を確認できる。 |
| | 12. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>　介護福祉士に求められる職業倫理を考える。<br>　尊厳・自立を支える介護とは。<br><br>到達目標<br>　その人らしい生活を支援する意義・役割を理解できる。 |
| | 13. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>　介護福祉士の役割を機能、社会福祉士及び介護福祉士法を学ぶ①<br>　介護福祉士の定義を知る。<br><br>到達目標<br>　自身の資格取得に向けて、資格取得の義務を把握する。 |
| | 14. | 宮里 | 講義 | 内　　容　参考資料提示<br>　介護福祉士の役割を機能、社会福祉士及び介護福祉士法を学ぶ②<br>　介護福祉士の義務規定、関連する諸規定を知る。<br><br>到達目標<br>　介護福祉士の義務規定を理解し介護福祉士の役割を考える。<br>　介護福祉士の資格取得方法を知る。 |
| | 15. | 宮里 | 試験 | 内　　容　筆記試験<br><br>到達目標<br>　学んだ内容を理解度を測る。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座　３　　介護の基本Ⅰ　２版　中央法規出版株式会社 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 授業の進行により、講義内容が変更になる場合がある。 |

| 科目名 | 【介護の基本Ⅱ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 宮里　裕子 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的（ねらい） | ①介護福祉士の役割を学び、資格取得後の求められる介護人材を理解する。<br>②自立支援の考え方、ＩＣＦの視点に基づくアセスメントを学ぶ。<br>　エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援に応じた環境整備や介護予防の方法を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①介護福祉士の役割と機能を理解し、自立支援の考え方を展開できる。<br>②ＩＣＦに基づきエンパワメントの視点を実践できる。<br>③介護福祉士取得時の到達目標を理解でき、卒業後が意識できる。<br>④自立支援の環境整備ができ介護予防を実践できる。 | | | | | | |
| 実務経験と授業内容への活用 | 介護福祉士として長年介護現場で勤めており、実際の福祉制度・介護の変遷の現状を伝える事ができる。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 宮里 | 講義 | 内　　容　介護福祉士の活動の場と役割を理解する①<br>　地域や施設・在宅の場における介護福祉士の役割を知る。<br><br>到達目標<br>　あらゆる場においての介護福祉士の役割を考えることができる。 |
| | 2. | 宮里 | 講義 | 内　　容　介護福祉士の活動の場と役割を理解する②<br>　医療的ケア・人生の最終手段・災害時の支援を知る。<br><br>到達目標<br>　あらゆる場においての介護福祉士の役割を考えることができる。 |
| | 3. | 宮里 | 講義 | 内　　容　介護福祉士に求められる役割とその養成<br>　介護福祉士養成教育、期待される介護福祉士像について<br><br>到達目標<br>　期待さえる介護福祉士像を理解し、卒業後の専門職としてのイメージを作る。 |
| | 4. | 宮里 | 講義 | 内　　容　介護福祉士の倫理<br>　介護に携わる人が持つべき職業倫理を学ぶ<br><br>到達目標<br>　倫理判を学び、介護の場面でどう生かせるかを考えられる。 |
| | 5. | 宮里 | 講義 | 内　　容　日本介護福祉士会の倫理綱領について考える①<br>　職業倫理とは。法令遵守、身体拘束禁止、虐待防止、プライバシー保護について<br><br>到達目標<br>　自分たちの専門性を正しく使うことの理解を得る。 |
| | 6. | 宮里 | 講義 | 内　　容　日本介護福祉士会の倫理綱領について考える②<br>　職業倫理とは。法令遵守、身体拘束禁止、虐待防止、プライバシー保護について<br><br>到達目標<br>　自分たちの専門性を正しく使うことの理解を得る。 |
| | 7. | 宮里 | 講義 | 内　　容　日本介護福祉士会の倫理綱領について考える③<br>　介護福祉士の義務規定、倫理綱領、行動規範について<br><br>到達目標<br>　自分たちの専門性を正しく使うことの理解を得る。 |
| | 8. | 宮里 | 講義 | 内　　容　自立に向けた介護①<br>　自立支援の考え方を学ぶ<br><br>到達目標<br>　自立支援の具体的な考え方を理解する。 |
| | 9. | 宮里 | 講義 | 内　　容　自立に向けた介護①<br>　自立支援の考え方を学ぶ<br>　エンパワーメント、ストレングス、自己決定権について<br><br>到達目標<br>　自立支援の具体的な考え方を理解する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 宮里 | 講義 | 内　　容　自立に向けた介護②<br>　自立と生活支援について、就労、家族、地域、生活環境について<br><br>到達目標<br>　自立を支援するための環境整備を考えることができる。 |
| | 11. | 宮里 | 講義 | 内　　容　ICFの考え方について<br>　ICFのとらえ方、相互関係性について、ストレングスを見出す<br><br>到達目標<br>　ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用できる力をつける。 |
| | 12. | 宮里 | 講義 | 内　　容　自立支援とリハビリティーション<br>　リハビリティーションの概念とは、リハビリティーションの実際について<br><br>到達目標<br>　リハビリティーションにおける介護福祉士の役割を理解する。 |
| | 13. | 宮里 | 講義 | 内　　容　自立支援と介護予防①<br>　介護予防の概要、取り組みについて<br><br>到達目標<br>　介護予防における介護福祉士の役割を理解する。 |
| | 14. | 宮里 | 講義 | 内　　容　自立支援と介護予防②<br>　介護予防サービス、高齢者の身体特性と介護予防について<br><br>到達目標<br>　介護予防における介護福祉士の役割を理解する。 |
| | 15. | 宮里 | 試験 | 内　　容　定期試験<br><br>到達目標<br>　学習後の習得度の確認 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座　4　中央法規「介護の基本Ⅰ」 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | |

| 科目名 | 【コミュニケーション技術Ⅰ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 森　伸彦 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | １年 | 前期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①「コミュニケーション」とは、家族、友人、地域等の集団に属し、社会を形成して暮らす私たち人間にとって欠くことのできない基本的な活動である。そして介護福祉職は介護を必要とする方が安心して暮らすことができるための重要な役割を担うが、コミュニケーション技術Ⅰでは介護の枠にとらわれず、「人」と円滑にコミュニケーションが図れるようになるためのスキルの習得を目指す。 |
| 到達目標 | ①コミュニケーションの意義と目的、考え方を理解することができる。<br>②介護の現場のみならず、あらゆる人と円滑に関われるコミュニケーションスキルを習得することができる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士を取得して以降、施設、在宅での現場経験が25年以上、介護支援専門員としては17年以上のキャリアを持つ。<br>現場以外におだい介護サービスのクオリティマネジャーとして全事業のサービスの質を管理。<br>施設や在宅の現場などで培ってきた経験と技術を偏りのない普遍的な内容に置き換え、現場で活用できる術を教える。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 森 | 講義 | 内　　容　ロジカルなコミュニケーションと自己覚知<br>「コミュニケーション」を論理的に捉え、その重要性と目的を学ぶ。<br>個人、グループワークを通して自己覚知を深める。<br><br>到達目標<br>コミュニケーションを論理的に理解することができるようになる。<br>自己覚知の概念を理解し、自身の強みや弱みなどを客観的に分析することができるようになる。 |
| | 2. | 森 | 講義 | 内　　容　介護におけるコミュニケーションの意義と目的<br>介護の実践場面におけるコミュニケーションについて、マズローの基本的欲求階層説を基にして、人間の基本的欲求とそれに対応するコミュニケーションの方法を考察する。<br><br>到達目標<br>介護におけるコミュニケーションの意義と目的を論理的に理解することができる。 |
| | 3. | 森 | 講義 | 内　　容　介護におけるコミュニケーションの展開過程とSOLERモデル<br>コミュニケーションの展開過程について段階別に学ぶ。<br>会話の基本動作である「SOLER]モデルを用いたコミュニケーション技術を紹介。<br><br>到達目標<br>介護におけるコミュニケーションの展開過程を理解し適切な対応方法を理解することができる。<br>SOLERモデルを活用したコミュニケーション技術を習得できる。 |
| | 4. | 森 | 講義 | 内　　容　介護におけるコミュニケーションの対象<br>コミュニケーションの対象となる利用者、家族のおかれている状況を理解し、事例を通して実際のコミュニケーション技術を学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護福祉職の職務とコミュニケーションの対象を理解し、それぞれの特徴と対応方法を習得することができる。 |
| | 5. | 森 | 講義 | 内　　容　コミュニケーションの基本技術「傾聴」<br>傾聴の基本概念とその重要性について学ぶ。<br>ペアワークで傾聴技術を練習。<br><br>到達目標<br>傾聴の意義と目的を理解し基本技術を習得することができる。 |
| | 6. | 森 | 講義 | 内　　容　コミュニケーションの基本技術「受容」<br>介護における受容の基本概念とその重要性について学ぶ。<br>ロールプレイなどを通して実践に則したシミュレーションを行う。<br><br>到達目標<br>受容の意義と目的を理解し基本技術を習得することができる。 |
| | 7. | 森 | 講義 | 内　　容　コミュニケーションの基本技術「共感」<br>介護における共感の基本概念とその重要性について学ぶ。<br>個人、グループワークなどを通して実践に則したシミュレーションを行う。<br><br>到達目標<br>「傾聴」「受容」「共感」のコミュニケーション態度に関する基本技術を総合的に習得できる。 |
| | 8. | 森 | 講義 | 内　　容　言語コミュニケーション基本技術と応用<br>言語コミュニケーションの基本概念とその重要性について学ぶ。<br>ワークなどを通して実践に則したシミュレーションを行う。<br><br>到達目標<br>言語コミュニケーションの定義と重要性を習得することができる。<br>ワークを通して明確な表現、適切な言葉遣い、効果的な質問の仕方などを習得できる。 |
| | 9. | 森 | 講義 | 内　　容　非言語、準言語コミュニケーションの基本技術と応用<br>非言語、準言語コミュニケーションの基本概念とその重要性について学ぶ。<br>グループワークとロールプレイを通して実践に則したシミュレーションを行う。<br><br>到達目標<br>非言語、準言語の定義と重要性を習得することができる。<br>様々な非言語、準言語コミュニケーションの種類とその特徴を習得し、実際の場面で適切に活用することができるようになる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 森 | 講義 | 内　　容　援助関係とコミュニケーション<br>援助関係の重要性と影響について学ぶ。バイステックの７原則を通して利用者との信頼関係の構築方法を実際の場面に照らし合わせながら学ぶ。<br><br>到達目標<br>援助関係の基本的な概念と重要性を理解し、実際の場面で応用することができるようになる。 |
| | 11. | 森 | 講義 | 内　　容　目的別のコミュニケーション技術<br>利用者の意欲を高めるための動機づけの概念とその重要性について学ぶ。<br>具体的な事例を通して実践に則したシミュレーションを行う。<br><br>到達目標<br>様々な場面に応じた適切な動機づけの方法を習得することができるようになる。 |
| | 12. | 森 | 講義 | 内　　容　ものの見方に変化を生み出す技術<br>ものの見方の多様性と固定観念について事例を通して理解を深めていく。<br>リフレーミング技術の演習を通して多様な考え方を習得し視野を広げていく。<br><br>到達目標<br>自分自身の価値観や固定観念の傾向を認識し実戦で応用できる技術を習得することができる。 |
| | 13. | 森 | 講義 | 内　　容　意思決定を支援するためのコミュニケーション<br>利用者の意思を尊重することの重要性と意思決定支援の基本概念、必要性について、実際の事例と代表的なガイドラインを照らし合わせながら学んでいく。<br><br>到達目標<br>意思決定支援の基本概念と重要性を理解することができる。<br>意思決定支援の具体的プロセスを習得することができる。 |
| | 14. | 森 | 講義 | 内　　容　集団におけるコミュニケーション技術<br>集団におけるコミュニケーションの意義や特徴を実際の介護現場に照らし合わせながら学んでいく。<br><br>到達目標<br>集団におけるコミュニケーションの役割やグループダイナミクスなどの重要性を理解することができる。 |
| | 15. | 森 | 試験 | 内　　容　定期試験<br>コミュニケーション技術Ｉに関する総まとめの試験を行う。<br><br>到達目標<br>コミュニケーション技術に関する基本的な理論や概念を理解することができている。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 60% | 0% | 40% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術　　中央法規出版（株） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 講義の進度により講義内容が変更になる場合がある。 |

| 科目名 | 【生活支援技術Ⅰ 】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 細野真代、宮里裕子、岡本啓介、近藤真名美、徳山慈久、永嶋千秋 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | 1年 | 前期 | 演習 | 2 単位 | 30 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の日常生活が継続できるように、基本的な生活行為とその意義を理解する。<br>②利用者主体の根拠ある生活支援技術の実践に向けて、支援が必要な方への基礎的な生活支援技術と知識を習得する。<br>③介護職として必要な身だしなみ、整理整頓をしっかり身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ・ボディメカニクスの原則や人間の体の動きを説明できる。<br>・自立した起居動作の一連の流れを理解し、生活支援技術が提供できる。<br>・その人らしい生活環境の提供や、清潔と安全に配慮した快適な空間を整えることができる。<br>・介護に必要な物品の丁寧な扱いや他者に不快とならない身だしなみを整えることができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション・生活支援とは？ |
| | 2. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　介護職としての身だしなみ<br>到達目標<br>介護職として望ましい身だしなみについて理解する。<br>また、本校の実習生として守らなければならない身だしなみについて理解する。 |
| | 3. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　居住環境の整備、家事支援（洗濯、掃除、布団の取り扱い等） |
| | 4. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　ベッドメイキングの意義と目的、デモンストレーション |
| | 5. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　ボディメカニクスとは |
| | 6. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　ボディメカニクス（実技） |
| | 7. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　ベッドメイキング（実技） |
| | 8. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　ベッドメイキング（実技） |
| | 9. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　ベッドメイキング（実技） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　ベッドメイキング（実技） |
| | 11. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　ベッドメイキング（実技） |
| | 12. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　起居動作とは |
| | 13. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　起居動作（側臥位、起き上がり、端座位、立位） |
| | 14. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　起居動作（実技：側臥位） |
| | 15. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　起居動作（実技：起き上がり、端座位） |
| | 16. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　起居動作（実技：端座位、立位） |
| | 17. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　起居動作（実技：起き上がり、端座位、立位） |
| | 18. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　起居動作（実技：立位、装具の付け方使い方） |
| | 19. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（側臥位～端座位、立位） |
| | 20. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（側臥位～端座位、立位） |
| | 21. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（側臥位～端座位、立位） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 22. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　福祉用具とは |
| | 23. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　福祉用具の種類と使い方の基礎 |
| | 24. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　福祉用具の種類と使い方の基礎 |
| | 25. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　杖歩行の基本（平地、階段、段差） |
| | 26. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　杖歩行（平地） |
| | 27. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　杖歩行（階段、段差） |
| | 28. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　定期試験 |
| | 29. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 実習 | 内　　容　オールジャパンケアコンテスト |
| | 30. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 実習 | 内　　容　オールジャパンケアコンテスト |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 50% | 0% | 0% | 50% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中央法規出版『最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術I』『最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術II』 |
| 参考文献 | 中央法規出版『見て覚える介護福祉士国試ナビ2025』 |
| その他<br>（留意点等） | 授業の進度により講義内容が変更になる場合がある。<br>授業の欠席回数が全体の1/5以上になった場合、及び実技試験が不合格になった場合、原則実習に配属しない。 |

| 科目名 | 【生活支援技術Ⅱ 】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 細野真代、宮里裕子、岡本啓介、近藤真名美、徳山慈久、永嶋千秋 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | 1年 | 後期 | 演習 | 3 単位 | 45 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移乗・移動動作、整容・身支度、食事、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識と技術を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ・利用者の持っている機能を引き出して活用し、自立に向けた安心できる移動・移乗介助、心身の状況に応じた食事介助が実践できる。<br>・移乗、移動のための環境と環境整備、福祉用具について説明できる。<br>・利用者の生活習慣、状態に適した身支度の介護が展開できる。<br>・生活支援の基礎的な技術・知識を習得し、実践の根拠について説明できる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション（前期授業の振り返り） |
| | 2. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　移乗介護の基本 |
| | 3. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　移乗介護（ベッドから車いす） |
| | 4. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　移乗介護（移乗介助及び座位保持） |
| | 5. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　移乗介護（移乗介助及び座位保持） |
| | 6. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　移乗介護（移乗介助及び座位保持） |
| | 7. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（ベッドから車いすへの移乗介護） |
| | 8. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（ベッドから車いすへの移乗介護） |
| | 9. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　車いす介助の基本 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　車いすの基本操作 |
| | 11. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　車いす介助（学校周辺の散策） |
| | 12. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　車いす介助（学校周辺の散策） |
| | 13. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　着脱介護の基本 |
| | 14. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　着脱介護（座位状態での前開き） |
| | 15. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　着脱介護（座位状態での前開き） |
| | 16. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　着脱介護（座位状態での前開き） |
| | 17. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　着脱介護（端座位状態でのかぶり） |
| | 18. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　着脱介護（端座位状態でのかぶり） |
| | 19. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（衣服の着脱介助～車いす介助）※練習 |
| | 20. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（衣服の着脱介助～車いす介助） |
| | 21. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（衣服の着脱介助～車いす介助） |
| | 22. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　食事介助とは |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 23. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　口腔ケアとは |
| | 24. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　食事介助（座位で全介助） |
| | 25. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　食事介助（座位で全介助） |
| | 26. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　口腔ケア |
| | 27. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　口腔ケア |
| | 28. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　排泄介助とは |
| | 29. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　排泄介助（トイレ誘導） |
| | 30. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　排泄介助（ポータブルトイレ） |
| | 31. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　排泄介助（ポータブルトイレ） |
| | 32. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　排泄介助（ポータブルトイレ） |
| | 33. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　排泄介助（車いすから障害者用トイレ） |
| | 34. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　排泄介助（車いすから障害者用トイレ） |
| | 35. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（ポータブルトイレ誘導） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 36. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（ポータブルトイレ誘導） |
| | 37. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　実技試験（ポータブルトイレ誘導） |
| | 38. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 講義 | 内　　容　総合演習（課題説明とグループ分け） |
| | 39. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　総合演習（援助方法の検討） |
| | 40. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　総合演習（援助方法の検討） |
| | 41. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　総合演習（課題①演習） |
| | 42. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　総合演習（課題①演習） |
| | 43. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　総合演習（課題②演習） |
| | 44. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 演習 | 内　　容　総合演習（課題②演習） |
| | 45. | 細野<br>宮里<br>岡本<br>近藤<br>徳山<br>永嶋 | 試験 | 内　　容　定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 50% | 0% | 0% | 50% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中央法規出版『最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術I』『最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術II』 |
| 参考文献 | 中央法規出版『見て覚える介護福祉士国試ナビ2025』 |
| その他<br>（留意点等） | 授業の進度により講義内容が変更になる場合がある。<br>授業の欠席回数が全体の1/5以上になった場合、及び実技試験が不合格になった場合、原則実習に配属しない。 |

| 科目名 | 【介護過程Ⅰ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 細野　真代 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 前期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護過程の意義と基礎的知識を理解する。<br>②介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する。<br>③根拠を言語化することによって、統一したケアの実践が実現できることを理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①介護過程を構成する各プロセスの意義と目的について説明することができる。<br>②ICFの視点に基づいた情報収集と利用者理解の重要性について説明できる<br>③事例を通して利用者の思いや願いを汲み取り言語化することができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士養成校にて資格取得後、介護老人保健施設、介護療養病床等で勤務。<br>福祉施設での介護実務経験をもとに、基本的な介護技術と、現場で活躍する上で必須と思われる介護における着眼点について教授する。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 細野 | 講義 | 内　　容　介護過程とは<br>グループワークを通じてこれから学ぶ介護過程の展開についてのイメージを持つ。<br><br>到達目標<br>本人の望む生活の実現にむけて1人ひとりに適切な支援を導き出すために必要となる介護過程の展開の意義ついて自分なりに理解したことを伝えることができる。 |
| | 2. | 細野 | 講義 | 内　　容　介護過程の展開プロセス<br>グループワークを通じて、これから学ぶ介護過程の展開プロセスについて体験してみる。<br><br>到達目標<br>介護課程の展開にはプロセスがあることを理解し、構成する４つの段階について理解した内容を自分の言葉で説明できる。 |
| | 3. | 細野 | 講義 | 内　　容　介護過程を展開する基本視点<br>利用者の生活を支えるために必要となる介護福祉職としての基本視点について学び、どうすれば基本視点を重視した支援を行うことができるか考える。<br><br>到達目標<br>利用者の生活を支援していく中で、必要となる基本視点について答えることができる。 |
| | 4. | 細野 | 講義 | 内　　容　アセスメント<br>事例を通じて、介護過程に必要となる情報について考え、調べる。<br><br>到達目標<br>介護課程で必要となる情報について、自分の力で考え導き出し、発表することができる。 |
| | 5. | 細野 | 講義 | 内　　容　アセスメント<br>事例を通じて、介護過程に必要となる情報について調べたものと、実際の情報との違いを比較し気づきを得る。意図的な情報収集の必要性について理解できる。<br><br>到達目標<br>アセスメントにおいて幅広く、多角的な視点が必要となることを理解し、それらについて説明することができる。 |
| | 6. | 細野 | 講義 | 内　　容　ICFに基づく視点<br>情報収集を行うには、ICFの視点が必要となることを理解する。<br>ICFを通じて利用者の全体像を把握することの重要性を理解する。<br><br>到達目標<br>利用者の情報をICFの視点で分類することができる。 |
| | 7. | 細野 | 講義 | 内　　容　ICFに基づく視点<br>情報収集を行うには、ICFの視点が必要となることを理解する。<br>ICFを通じて利用者の全体像を把握することの重要性を理解する。<br><br>到達目標<br>利用者の情報をICFの視点で分類することができる。 |
| | 8. | 細野 | 試験 | 内　　容　１～７回目の授業内容の復習テスト<br>介護過程で学んだ内容について整理する。<br><br>到達目標<br>１～７回目までの内容について理解した内容を正しく答えられる。 |
| | 9. | 細野 | 講義 | 内　　容　１～７回目の授業内容の復習<br>介護過程で学んだ内容について整理する。<br><br>到達目標<br>１～８回目までの内容について理解した内容で誤って覚えた所に気づき、正しい答えを選ぶことができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 細野 | 講義 | 内　　容　観察力を身につける、先入観や偏見について<br>　観察力を身につける必要性、先入観や偏見がもたらす影響について考える。<br><br>到達目標<br>　観察力を身につける必要性、先入観や偏見について気を付けなければならない理由を説明する<br>　ことができる。 |
| 11. | 細野 | 講義 | 内　　容　客観的観察と主観的観察<br>　客観的観察と主観的観察の違いについて理解する。<br><br>到達目標<br>　客観的観察と主観的観察の違いについて説明することができる。<br>　客観的情報と主観的情報に分けることができる。 |
| 12. | 細野 | 講義 | 内　　容　情報の解釈・関連づけ・統合化<br>　情報の解釈・関連付け・統合化について事例を通して考えてみる。<br><br>到達目標<br>　情報の解釈・関連付け、統合化の言葉の意味を説明できる。 |
| 13. | 細野 | 講義 | 内　　容　１～12回までの復習と振り返り<br>　前期に学んだ内容について振り返る。<br><br>到達目標<br>　前期に学んだ内容が理解でき、それぞれの内容について説明できる。 |
| 14. | 細野 | 試験 | 内　　容　１～13回までの復習と振り返り<br>　前期に学んだ内容について振り返る。<br><br>到達目標<br>　前期に学んだ内容が理解でき、正しい答えを選ぶことができる。 |
| 15. | 細野 | 講義 | 内　　容　１～14回までの復習と振り返り<br>　前期に学んだ内容について振り返る。<br><br>到達目標<br>　前期試験で間違えた所に気づき、正しい答えを選ぶことができる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座９　介護過程　（中央法規出版） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | グループワーク、演習を通して理解を深める。主体的に参加し、自分の意見を発言することに意義がある。 |

| 科目名 | 【介護過程Ⅱ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 細野　真代 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | １年 | 後期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護過程の意義と基礎的知識を理解する<br>②事例を通して利用者がどのような生活を望んでいるのかを分析し、生活課題を導き出す過程を体験する<br>③根拠を言語化することによって、統一したケアの実践が実現できることを理解する |
| 到達目標 | ①介護過程を構成する各プロセスの意義と目的について説明することができる。<br>②ICFの視点に基づいた情報収集と利用者理解の重要性について説明できる。<br>③事例を通して利用者の思いや願いを汲み取り言語化することができる。<br>④事例を通して介護過程の展開を体験し理解する。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士養成校にて資格取得後、介護老人保健施設、介護療養病床等で勤務。<br>福祉施設での介護実務経験をもとに、基本的な介護技術と、現場で活躍する上で必須と思われる介護における着眼点について教授する。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 細野 | 講義 | 内　　容　前期の復習<br>前期に学んだ内容が理解し記憶が定着しているか、復習を通して確認を行う。<br>到達目標<br>前期に学んだ内容についての問題を解き、適切な解答を選ぶことができる。 |
| | 2. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の高齢者がどのような時代を生きてきたのか、時代背景を理解する。<br>到達目標<br>高齢者が過ごしてきた時代について、特徴のある事柄を挙げ説明することができる。 |
| | 3. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の高齢者がどのような時代を生きてきたのか、時代背景を理解する。<br>到達目標<br>高齢者が過ごしてきた時代について、特徴のある事柄を挙げ説明することができる。 |
| | 4. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の人物について情報を整理する。<br>到達目標<br>事例の人物について理解し、情報をシートに記入することができる。 |
| | 5. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の人物について情報を整理する。<br>到達目標<br>事例の人物について理解し、情報をシートに記入することができる。 |
| | 6. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の人物についてICFに基づく視点で情報を把握する。<br>到達目標<br>事例の人物について理解し、ICFに基づく視点で分類することができる |
| | 7. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の人物についてICFに基づく視点で情報を把握する。<br>到達目標<br>事例の人物について理解し、ICFに基づく視点で分類することができる。 |
| | 8. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の人物についてICFに基づく視点で情報の解釈・関連付け・統合化を行う。<br>到達目標<br>事例の人物について理解し、ICFに基づく視点から情報を解釈・関連付け・統合化することができる。 |
| | 9. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の人物についてICFに基づく視点で情報の解釈・関連付け・統合化を行う<br>到達目標<br>事例の人物について理解し、ICFに基づく視点から情報を解釈・関連付け・統合化することができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 10. | 細野 | 講義 | 内　　容　施設で生活している高齢者の事例<br>事例の人物についてICFに基づく視点で情報の解釈・関連付け・統合化を行う<br><br>到達目標<br>事例の人物について理解し、ICFに基づく視点から情報を解釈・関連付け・統合化することができる。 |
| | 11. | 細野 | 講義 | 内　　容　利用者の自立を支援する視点<br>パーソナルソングを通して、利用者の潜在している能力に気づく視点を持つ。<br><br>到達目標<br>利用者への先入観や偏見を取り除き、潜在している能力に気づくことの大切さを説明することができる。 |
| | 12. | 細野 | 講義 | 内　　容　利用者の自立を支援する視点<br>パーソナルソングを通して、利用者の潜在している能力に気づく視点を持つ。<br>ストレングスの視点、ナラティブアプローチとは何か理解する。<br><br>到達目標<br>利用者への先入観や偏見を取り除き、潜在している能力に気づくことの大切さを説明することができる。ストレングスの視点について説明できる。 |
| | 13. | 細野 | 講義 | 内　　容　後期の復習<br>後期試験に向けて、授業を振り返り復習をする。授業の中での疑問点を解決する。<br>授業の中での重要な用語について振り返る。<br><br>到達目標<br>後期の授業でわからなかった所を確認し、疑問点を解決できる。<br>介護過程の展開に関する重要な用語について説明できる。 |
| | 14. | 細野 | 試験 | 内　　容　後期の復習<br>後期授業の内容を理解することができる。<br><br>到達目標<br>後期の授業で学んだ内容についての問題を解き、正しい答えを選択することができる。 |
| | 15. | 細野 | 講義 | 内　　容　後期の復習<br>後期授業の内容を理解することができる。<br><br>到達目標<br>後期試験問題の中で間違えた所を理解し、正しい解答を選ぶことができる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座９　介護過程　（中央法規出版） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | グループワーク、演習を通して理解を深める。主体的に参加し、自分の意見を発言することに意義がある。 |

| 科目名 | 【介護総合演習Ⅰ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 岡本　啓介 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 前期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護実習を有意義なものにするため、実習の事前学習・振り返りを行い、各授業で学んだ介護の知識・技術と実習とを結びつけることができる。<br>②学生それ御ぞれの実習での学びを共有し、理解を深め、専門職としての介護観や自己の課題を客観視できるようになる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①これまで学んだ知識や学内での学びを統合して、実際に介護現場に適用できる。<br>②介護福祉士の働く場を理解し、事業所や利用者のイメージングができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として20年以上の指導経験がある。<br>現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。<br>それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え乗り越えていくための授業を行う。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 岡本 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション（介護総合演習の位置付けと目的）<br>到達目標<br>本科目の位置付けと介護実習との関連性について理解する。<br>介護実習とはなにか、について理解する。 |
| | 2. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習施設の理解（実習Ⅰ－１に向けて）<br>到達目標<br>1段階実習で体験できる実習先の種別や特徴について理解する。<br>また、自身の希望実習先を考える。 |
| | 3. | 岡本 | 講義 | 内　　容　実習で行うこと（実習ノートの紹介）<br>到達目標<br>介護実習でどのようなことを行うのか、また、何を学習するのか、を明確にする。 |
| | 4. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習ノートの書き方①（様式１の説明および演習）<br>到達目標<br>実習ノート内の目標を立てる意義と立て方を理解する。 |
| | 5. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習ノートの書き方②（様式３・４）<br>到達目標<br>実習ノート内の施設概要欄。<br>職員・利用者の状況欄の書き方が分かる。 |
| | 6. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習ノートの書き方③（様式５以降）<br>到達目標<br>日々の実習目標を立てられる。<br>また、日々の実習記録の意義と書き方を理解する。 |
| | 7. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－１の振り返り①<br>到達目標<br>初実習を終了し、自身の実習を振り返り、目標の達成度合いや自己課題を整理することができる。 |
| | 8. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－１の振り返り②<br>到達目標<br>前回の振り返りをもとに、グループで情報や状況、反省点を共有し、次の実習に向けての取り組みを考えることができる。 |
| | 9. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－１の振り返り④<br>到達目標<br>初実習の総まとめをし、実習ノートを完成させる。<br>また、実習先へのお礼状の書き方を学ぶ。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習Ｉ－２に向けての準備①<br>到達目標<br>　実習Ｉ－２で行く実習先の概要について施設概要について調べる。 |
| | 11. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習Ｉ－２に向けての準備②<br>到達目標<br>　実習Ｉ－２で行く実習の目標を作成する（様式１）。 |
| | 12. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習Ｉ－２に向けての準備③<br>到達目標<br>　実習Ｉ－２で作成する実習記録の書き方を復習し、より充実した記録が書ける。 |
| | 13. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習Ｉ－２に向けての準備④<br>到達目標<br>　実習Ｉ－２で作成する実習記録の書き方を復習し、より充実した記録が書ける。 |
| | 14. | 岡本 | 演習 | アクティブ福祉参加 |
| | 15. | 岡本 | 演習 | アクティブ福祉参加 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | 実習ノート | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0% | 0% | 40% | 0% | 60% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版 |
| 参考文献 | 「実習要項」日本福祉教育専門学校　介護福祉学科 |
| その他<br>（留意点等） | ・この科目の欠席回数が1/5を超えたとき、原則、実習配置をしません。<br>・お礼状についての授業会では、便せん、封筒、切手を用意してください。<br>・講義の進度により、講義内容が変更になる場合があります。 |

| 科目名 | 【介護総合演習Ⅱ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 岡本　啓介 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 後期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護実習で幅広く学べるよう実習の事前・事後学習を確実に実施し介護の知識・技術と実習が連動していることを知ることができる。<br>②学生それぞれの実習での学びを共有し、自己覚知と介護観の確立ができるようになることができる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①これまで学んだ知識や学内での学びを統合して、実際に介護現場に適用できる。<br>②介護福祉士の働く場を理解し、事業所や利用者のイメージングができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として20年以上の指導経験がある。<br>現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。<br>それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え乗り越えていくための授業を行う。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 岡本 | 演習 | 内　　容　オリエンテーション（介護実習Ⅰ－２の振り返り①）<br>到達目標<br>実習Ⅰ－２の自身の実習を振り返り、目標の達成度合いや自己課題を整理することができる。 |
| | 2. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－２の振り返り②<br>到達目標<br>前回の振り返りをもとに、グループで情報や状況、反省点を共有し、次の実習に向けての取り組みを考えることができる。 |
| | 3. | 岡本 | 実習 | 国際福祉機器展見学 |
| | 4. | 岡本 | 実習 | 国際福祉機器展見学 |
| | 5. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－３に向けての準備②<br>到達目標<br>実習Ⅰ－３で行く実習先の概要について施設概要について調べる。<br>実習Ⅰ－２で行く実習の目標を作成する。（様式１作成は宿題） |
| | 6. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－３に向けての準備③<br>到達目標<br>実習Ⅰ－３で作成する実習記録の書き方を復習し、より充実した記録が書ける。 |
| | 7. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－３の振り返り①<br>到達目標<br>介護実習Ⅰ－３の自身の実習を振り返り、目標の達成度合いや自己課題を整理することがでる。 |
| | 8. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅰ－３の振り返り②<br>到達目標<br>前回の振り返りをもとに、グループで情報や状況、反省点を共有し、次の実習に向けての取り組みを考えることができる。 |
| | 9. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅱに向けての準備①<br>到達目標<br>介護実習Ⅱの意義と目的、内容について理解する。また、今後の実習の流れを把握し、今までの実習体験の振り返りを受けて自己の課題について整理する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅱに向けての準備②<br><br>到達目標<br>　介護実習Ⅱで行く実習先の概要について施設概要について調べる。 |
| | 11. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅱに向けての準備③<br><br>到達目標<br>　実習Ⅱで使用する記録類（実習ノート）の書き方を理解できる。 |
| | 12. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅱに向けての準備④<br><br>到達目標<br>　実習指導者懇談会 |
| | 13. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅱに向けての準備④<br><br>到達目標<br>　実習指導者懇談会 |
| | 14. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習帰校日 |
| | 15. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習帰校日 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | 実習ノート | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0% | 0% | 40% | 0% | 60% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版 |
| 参考文献 | 「実習要項」日本福祉教育専門学校　介護福祉学科 |
| その他<br>（留意点等） | ・この科目の欠席回数が1/5を超えたとき、原則、実習配置をしません。<br>・お礼状についての授業会では、便せん、封筒、切手を用意してください。<br>・講義の進度により、講義内容が変更になる場合があります。 |

| 科目名 | 【介護実習Ⅰ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 学科専任 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 通年 | 実習 | 4 単位 | 120時間 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①多様な介護サービスの場を理解する。<br>②利用者の生活体系を理解し、一ftひとりの生活リズムを理解する。<br>③コミュニケーション技術を活用して、利用者や家族、職員と円滑なかかわりがもてる。<br>④地域社会における施設・事業所の役割を学ぶ。<br>⑤対援助者として、自己を客観視する。 | | | | | | |
| 実習の方法 | 1クール：6月～7月　計5日間（週1回）<br>2クール：8月～9月　計4日間（月曜～木曜）<br>3クール：11月～12月　計6日間（週1回）<br>開始、終了時間は各施設に一任 | | | | | | |
| 授業計画 | 実習１の準備等介護実習Ⅰの準備等は「介護総合演習Ⅰ」で行なう。 | | | | | | |
| | 施設の実習内容、予定に沿って進める。日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す。 | | | | | | |
| | 多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解する。対象者の生活と地域の関わりや地域で支える施設・機関の役割を理解する。 | | | | | | |
| | 実習施設：訪問介護事業所、通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型共同生活介護事業所、特定施設入居者生活介護事業所、障害者支援施設、障害者通所施設、就労継続支援施設　等 | | | | | | |
| 成績評価 | 実習先評価 | 学校評価 | | | | | 合計 |
| | 70% | 30% | | | | | 100% |
| 教科書 | 「実習要項」日本福祉教育専門学校、 | | | | | | |
| 参考文献 | 「新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版 | | | | | | |
| その他<br>（留意点等） | 実習要項に則って実習が実施できない場合、単位取得ができなくなる可能性があります。 | | | | | | |

| 科目名 | 【介護実習Ⅱ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 学科専任 | | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 | |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | １年 | 通年 | 実習 | 4 単位 | 120時間 | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。<br>②利用者の課題を明確にし、介護過程を展開するための情報収集が適切にできる。 |
| 到達目標 | ①施設・事業所における利用者の生活の質について考え、介護者の役割を理解する。<br>②利用者の生活リズムを把握し、介護者としての関わりを理解する。<br>③生活場面における支援を、その根拠と原則を踏まえて実施できる。<br>④多職種の役割を理解し、連携の在り方を学ぶ。<br>⑤自己の介護福祉士としての課題を発見する。<br>⑥「介護過程の展開」における情報収集を行なうことができる。 |
| 実習の方法 | 実習期間：2月～3月<br>（開始・終了時間は各施設に一任）計 15 日間 |
| 授業計画 | 実習の流れ |
| | 1. 介護実習Ⅱの準備等は「介護総合演習Ⅰ及びⅡ」で行なう。 |
| | 2. 施設の実習内容、予定に沿って進める。 |
| | 3. 日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す。 |
| | 4. 介護過程を展開するための情報収集を実践するにあたり指導者の指導を受ける。 |
| | 5. 多職種協働の中で介護福祉士としての役割を理解する。サービス担当者会議やサースカンファレンス 等を通じてた多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。 |
| | 6. 担当教員の巡回時に指導を受ける。 |
| | 実習施設：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者入所施設など |

| 成績評価 | 実習先評価 | 学校評価 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 70% | 30% | | | | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「実習要項」日本福祉教育専門学校 |
| 参考文献 | 「新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版 |
| その他<br>（留意点等） | 実習要項に則って実習が実施できない場合、単位取得ができなくなる可能性があります。 |

| 科目名 | 【発達と老化の理解Ⅰ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 金城　隆 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | 1年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①人間の成長・発達についての基礎的な知識を学ぶ<br>②ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病を学ぶ<br>③老年期の特徴と発達課題について学ぶ<br>④老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化、生活への影響を学ぶ |
| 到達目標 | ①人間の成長・発達の要因・影響するものが答えられる<br>②ライフステージごとの発達課題が答えられる<br>③老年期における身体・心理・社会的問題が答えられる<br>④老化における変化、老化に伴う生活への影響が答えられる |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。<br>・現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。<br>・人間の成長・発達・老化について、実際の事例を交えて講義する。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 金城 | 講義 | 内　　容　成長・発達の考え方・原則・法則<br><br>到達目標<br>・発達とは何か、発達の要因を考えることができる<br>・発達の考え方・順序・原則・パターンを理解できる |
| | 2. | 金城 | 講義 | 内　　容　発達に影響する要因<br><br>到達目標<br>・発達の要因について理解できる<br>・発達の学説（成熟優位説・学習優位説・輻輳説・相互作用説）の特徴を理解できる |
| | 3. | 金城 | 講義 | 内　　容　発達理論、発達段階と発達課題について<br><br>到達目標<br>・発達理論（ピアジェ均衡化理論、エリクソン心理社会的発達理論、バルテス生涯発達理論）の特徴を理解できる<br>・各発達段階の特徴を理解できる<br>・各発達段階における発達課題（ｴﾘｸｿﾝ・ﾊﾞｳﾞｨｶﾞｰｽﾄ・ﾋﾟｱｼﾞｪ）の特徴を理解できる |
| | 4. | 金城 | 講義 | 内　　容　身体的機能の成長と発達<br><br>到達目標<br>・一般的な身体的な成長及び発達を理解できる<br>・一般的な運動機能の発達を理解できる<br>・各発達段階にみられる疾患障害の特徴を理解できる |
| | 5. | 金城 | 講義 | 内　　容　心理機能の発達／言語発達<br><br>到達目標<br>・ピアジェの認知発達理論の特徴を理解できる<br>・一般的な言語発達の特徴を理解できる |
| | 6. | 金城 | 講義 | 内　　容　社会的機能の発達<br><br>到達目標<br>・乳幼児の社会性の発達について理解できる<br>・愛着の発達について理解できる<br>・道徳・向社会的行動について考えることができる |
| | 7. | 金城 | 講義 | 内　　容　老化の定義　老化とは<br><br>到達目標<br>・老年期に関する各定義について理解できる<br>・老化の特徴について理解できる<br>・様々な老化学説を知ることができる |
| | 8. | 金城 | 講義 | 内　　容　老年期の発達課題について<br><br>到達目標<br>・様々な学説から老年期の発達課題を考えることができる<br>・老いの価値について考えることができる<br>・老年期の喪失体験を考え宇ことができる<br>・老年期のセクシュアリティについて考えることができる |
| | 9. | 金城 | 講義 | 内　　容　老年期をめぐる今日的課題／老化に伴う身体的変化と生活への影響（加齢そのもの）<br><br>到達目標<br>・日本における老年期をめぐる課題の特徴を理解できる<br>・加齢による生理機能の変化の特徴を理解できる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 金城 | 講義 | 内　　容　老化に伴う身体的な変化と生活への影響（骨格系・筋系、脳・神経系、感覚器系）<br><br>到達目標<br>・老化による骨格・筋系の変化の特徴を理解できる<br>・老化による脳・神経系の変化の特徴を理解できる<br>・老化による感覚器系の変化の特徴を理解できる |
| | 11. | 金城 | 講義 | 内　　容　老化に伴う身体的な変化と生活への影響<br>（血液・循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系、免疫系）<br><br>到達目標<br>・老化による各器官（血液・循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系、免疫系）の変化の特徴を理解できる |
| | 12. | 金城 | 講義 | 内　　容　老化に伴う身体的な変化と生活への影響（知覚機能、記憶機能、知的機能）<br><br>到達目標<br>・老化による知覚機能（視覚・聴覚・注意機能）の変化の特徴を理解できる<br>・老化による記憶機能の変化の特徴を理解できる<br>・老化による知的機能（結晶性知能と流動性知能）の変化の特徴を理解できる |
| | 13. | 金城 | 講義 | 内　　容　老化に伴う社会的な変化と生活への影響<br><br>到達目標<br>・パーソナリティの変化について理解できる<br>・老化と動機付け・適応について理解できる |
| | 14. | 金城 | 講義 | 内　　容　これまでの復習　試験対策問題演習と解答解説<br><br>到達目標<br>・これまでの復習口頭質問に回答することができる<br>・試験対策問題20問中16問以上正解することができる |
| | 15. | 金城 | 試験 | 内　　容　定期試験　解答解説<br><br>到達目標<br>・科目全領域の理解をすることができる |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 0% | 0% | 20% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解　第2版　中央法規出版 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | オリジナルレジュメ使用<br>授業項目ごとにミニテスト実施<br>各授業終わりに授業をどのくらい理解したかのプレゼンテーションを学生2～3名ずつに行ってもらう |

| 科目名 | 【発達と老化の理解Ⅱ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 金城　隆 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | １年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を学習する。 |
| 到達目標 | ①健康長寿に向け、知識を基にした自分の意見が述べられる。<br>②高齢者の症状・疾患の特徴が答えられる。<br>③高齢者に多い症状・疾患、それらによる日常生活への影響及び対応方法が答えられる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。<br>・現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。<br>・高齢者の健康に対する考え方・疾病及び症状など、実際の事例を交えて講義する。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 金城 | 講義 | 内　　容　健康長寿に向けての胃健康<br>到達目標<br>・日本人の平均寿命・健康寿命、死因の変化を理解できる<br>・健康に関連する用語を理解できる<br>・高齢者の症状や疾患の特徴を理解できる |
| | 2. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（骨格系・筋系の病気）<br>到達目標<br>・骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症・関節リウマチ・変形性脊椎症・脊柱管狭窄症の特徴を理解できる |
| | 3. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（脳・神経系）<br>到達目標<br>・パーキンソン病・脳血管疾患の特徴を理解できる |
| | 4. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（皮膚・感覚器系）<br>到達目標<br>・高齢者に多い目の病気を理解できる<br>・高齢者に多い耳の病気を理解できる<br>・高齢者に多い皮膚の病気を理解できる |
| | 5. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（循環器系）<br>到達目標<br>・高血圧症・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症の特徴を理解できる |
| | 6. | 金城 | 講義 | 内　　容　これまでの復習　確認テスト１（10問）実施と解答解説<br>到達目標<br>・慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核の特徴について理解できる |
| | 7. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（呼吸器系）<br>到達目標<br>・慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核の特徴について理解できる |
| | 8. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（消化器系）<br>到達目標<br>・消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変の特徴について理解できる |
| | 9. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（腎・泌尿器系）<br>到達目標<br>・前立腺肥大症・尿路感染症・慢性腎不全の特徴について理解できる |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（内分泌・代謝系、歯・口腔系）<br><br>到達目標<br>・糖尿病・脂質異常症・痛風の特徴を理解できる<br>・虫歯・歯周病・ドライマウスの特徴を理解できる |
| 11. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（悪性新生物・感染症）<br><br>到達目標<br>・日本人に多いがんの特徴を理解できる<br>・高齢者に多い感染症の特徴を理解できる |
| 12. | 金城 | 講義 | 内　　容　高齢者に多い疾患・生活上の留意点（精神疾患・その他）<br><br>到達目標<br>・高齢者に多い精神疾患の特徴を理解できる<br>・熱中症・脱水・貧血の特徴を理解できる |
| 13. | 金城 | 講義 | 内　　容　第7回～12回までの復習講義　確認テスト2（10問）実施と解答解説<br><br>到達目標<br>・復習講義の口頭質問に回答できる<br>・確認テスト10問中8問以上正解することができる |
| 14. | 金城 | 講義 | 内　　容　全授業内容の復習講義　試験対策問題演習と解答解説<br><br>到達目標<br>・復習講義の口頭質問に回答できる<br>・試験問題演習20問中16問以上正解することができる |
| 15. | 金城 | 試験 | 内　　容　定期試験と解答解説<br><br>到達目標<br>・定期試験問題20問中16問以上正解することができる |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 0% | 0% | 20% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解　第2版　中央法規出版 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | オリジナルレジュメを使用<br>授業項目ごとにミニテストを実施<br>各授業終わりに授業理解度を学生2～3名にプレゼンテーションしてもらう |

| 科目名 | 【認知症の理解Ⅰ】 |
|---|---|
| 担当者 | 近藤　真名美 |

| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護福祉学科 | 昼間部 | 1年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①認知症者の特徴（身体面・精神面）を医学的視点より理解する。　②認知症の症状特性を理解し、認知症者とその家族への対応方法・支援方法を理解する。 |
| 到達目標 | ①認知症を引き起こす疾患について「原因・症状・治療と対応方法」について理解する。<br>　そのうえで、実習現場で、認知症者と適切なコミュニケーションが実践できる。<br>②認知症者とその家族の現状を知り、多職種協働の支援の必要性と有効性を理解する。<br>　そのうえで、介護福祉士の役割を認識する。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 慢性期病棟、療養型病床（介護医療院）、訪問看護での看護師としての経験をふまえ、疾患の理解、当事者への理解が深まるようお話したい。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 近藤 | 講義 | 内　容<br>①オリエンテーション／②第1章認知症の基礎的理解　第1節認知症のある高齢者の現状と今後<br><br>到達目標<br>・認知症数の推移を知り、今後さらに有病率が増加することを理解する。 |
| | 2. | 近藤 | 講義 | 内　容　第1章同上／第2節認知症とは何か① |
| | 3. | 近藤 | 講義 | 内　容　第1章同上／第2節認知症とは何か②／第3節脳のしくみ① |
| | 4. | 近藤 | 講義 | 内　容　第1章同上／第3節脳のしくみ② |
| | 5. | 近藤 | 講義 | 内　容　第1章同上／第4節認知症の人の心理 |
| | 6. | 近藤 | 講義 | 内　容　第2章認知症の症状・診断・治療・予防／第1節中核症状の理解 |
| | 7. | 近藤 | 講義 | 内　容　第2章同上／第2節生活障害の理解／第3節BPSDの理解① |
| | 8. | 近藤 | 講義 | 内　容　第2章同上／第3節BPSDの理解② |
| | 9. | 近藤 | 講義 | 内　容　第2章同上／第4節認知症の診断と重症度 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 近藤 | 講義 | 内　　容　第2章同上／第5章認知症の原因疾患と症状・生活障害① |
| | 11. | 近藤 | 講義 | 内　　容　第2章同上／第5章認知症の原因疾患と症状・生活障害② |
| | 12. | 近藤 | 講義 | 内　　容　第2章同上／第6章認知症の治療薬<br><br>到達目標<br>・アルツハイマー型認知症治療薬の有効性、効果の限界、副作用等について理解する。<br>・BPSDに対して使用される薬の作用と副作用について理解する。 |
| | 13. | 近藤 | 講義 | 内　　容　第2章同上／第7章認知症の予防 |
| | 14. | 近藤 | 講義 | まとめ |
| | 15. | 近藤 | 試験 | 定期試験・解答解説 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉士養成講座13　認知症の理解（中央法規） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | |

| 科目名 | 【障害の理解Ⅰ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 齊藤　美由紀 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | 1 年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①障害の定義や種類を学ぶ。<br>②障害福祉における基本理念を学び、その支援を担う専門職としての役割を理解する。<br>③障害をもつ人の心理や生活を理解し、障害福祉制度やサポート体制、自立に向けた支援の方法について学ぶ。<br>④障害のある人の家族の心理や課題を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①障害の定義や種類について説明できる。<br>②障害福祉の基本理念に即した専門職としての支援ができる。<br>③障害をもつ人の生活や心理を理解し、障害福祉制度に基づく自立に向けた支援ができる。<br>④障害のある人を支える家族の課題を理解し、その課題に応じた支援を行うことができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた様々な経験を通し、実際の事例を交えながらの講義とする。<br>また、理想論だけでなく現実論も重視し、学んだ知識を介護実践においてどのように活かしていくのか、学生がより深くイメージできるよう授業を進めていく。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション/障害の概念・概数<br>本科目を学ぶ意義、学習方法についての説明を行う。<br>また、わが国や諸外国における障害者の概数、生活状況を知ることから学習を始める。<br><br>到達目標<br>本科目において何を学ぶ必要があるのかを理解すると共に、わが国における障害者の概数、障害の種類、生活状況を知る。 |
| | 2. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　各国の障害者の状況（グループワーク）<br>学生の母国の障害者の状況や障害福祉に関する施策について調べ、発表を行う。<br><br>到達目標<br>自分の国の障害者の状況や障害福祉施策について把握し、説明することができる。 |
| | 3. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　障害者の定義<br>障害福祉関連法における障害者の定義を学ぶ。<br><br>到達目標<br>身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児の定義を説明することができる。 |
| | 4. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　ICIDHからICFへの変遷<br>ICIDHの考えからICFへの考えに至った背景やその考え方について学ぶ。<br><br>到達目標<br>ICIDHとICFの考え方について説明することができる。 |
| | 5. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　視覚障害のある人への理解（ゲストスピーカー）<br>視覚障害のある当事者をゲストスピーカーとしてお呼びし、視覚障害のある人の生活状況や困りごと、思いを知る。<br><br>到達目標<br>視覚障害のある人の生活状況や思いを理解すると共に、障害福祉における課題を考える力を身に付ける。 |
| | 6. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　障害福祉の基本理念①<br>障害福祉の基本理念であるノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて学ぶ。<br><br>到達目標<br>ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンの理念を説明することができる。 |
| | 7. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　障害福祉の基本理念②<br>障害福祉の基本理念であるストレングス、エンパワメントついて動画教材等を通して学ぶ。<br><br>到達目標<br>ストレングス、エンパワメントの理念を説明することができる。 |
| | 8. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　障害福祉の基本理念③<br>障害福祉の基本理念である国際障害者年、アドボカシー、障害者権利条約、合理的配慮について学ぶ。<br><br>到達目標<br>国際障害者年、アドボカシー、障害者権利条約、合理的配慮の理念について説明することができる |
| | 9. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　聴覚障害のある人への理解（ゲストスピーカー）<br>聴覚障害のある当事者をゲストスピーカーとしてお呼びし、聴覚障害のある人の生活状況や困りごと、思いを知る。<br><br>到達目標<br>聴覚障害のある人の生活状況や思いを理解すると共に、障害福祉における課題を考える力を身に付ける。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　障害福祉に関する制度①<br>障害者差別解消法、障害者虐待防止法について学ぶ。<br><br>到達目標<br>障害者差別解消法、障害者虐待防止法の内容について説明することができる。 |
| 11. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　障害福祉に関する制度②<br>障害者の就労支援、成年後見制度、障害福祉制度について学ぶ。<br><br>到達目標<br>障害者への就労支援に関する法や内容、成年後見制度の内容について説明することができる。<br>また、障害福祉制度と介護保険制度の違いを説明することができる。 |
| 12. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　家族への支援<br>障害者（児）を支える家族の状況、心理、葛藤、課題等について学ぶ。<br><br>到達目標<br>障害者（児）を支える家族の状況、心理、葛藤等について理解し、家族に寄り添った支援を行うことができる。 |
| 13. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　LGBTQの人への理解（ゲストスピーカー）<br>LGBTQとは何か。わが国におけるLGBTQの現状や課題、また当事者の思い等について学ぶ。<br><br>到達目標<br>LGBTQに関する正しい知識を得る。また、LGBTQの現状や思いを知り、課題について考える力を身に付ける。 |
| 14. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　今講義まとめ<br>第13回までの内容の振り返り、確認テストを行う。<br><br>到達目標<br>第13回まで学んだ知識の習熟度を確認し、習得できていない内容について理解を深め、8割以上の習得を図る。 |
| 15. | 齊藤 | 講義 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 70% | 0% | 30% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新・介護福祉士養成講座14「障害の理解」第2版 中央法規　2022年 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | ・講義の進度とゲストスピーカーの都合により、講義日程、順、内容が変更になる場合がある。<br>・また、ゲストスピーカーの講義は、クラス合同授業とすることから授業日が異なる予定である。 |

| 科目名 | 【こころとからだのしくみⅠ 】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 八子　久美子 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的（ねらい） | ①人間の心理や人体の機能・構造を理解することで、協同する多職種との共有言語を理解する。<br>②介護実践に必要な観察力や判断力、生活支援の基盤となる知識を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①人間の基本的欲求や社会的欲求を理解し、生活支援者の視点で説明できる。<br>②人間のこころのしくみ（思考、学習、記憶、動機づけ、適応機制）と脳との関係で説明できる。<br>③人体各部の名称、各器官の構造や機能について説明できる。<br>④生活行為と体や心がどう連動しているのか説明できる。 | | | | | | |
| 実務経験と授業内容への活用 | 看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで訪問看護師、介護支援専門員として8年の実務経験を生かし、健康であることの心と体の仕組み、実践現場でかかわった様々な疾患の特徴や、生活への影響を伝え、それらの経験を心と体の基礎知識をもとに、生活との関連で理解できるように活用する。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 八子 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション（この科目で何をどのように 学んでいくのか）<br>領域「こころとからだのしくみ」の全体科目における位置づけを確認する。<br><br>到達目標<br>課題や豆テストの位置づけを理解し、取り組む姿勢ができる。<br>すべての科目の領域の基本であることがわかる。<br>健康について身体的、心理的、社会的側面から説明できる。 |
| | 2. | 八子 | 講義 | 内　　容　こころのしくみの理解①<br>事例を用いて心（認知・考え方・価値観・感情）について学習する。<br><br>到達目標<br>心は誰もがもっているもの、すべての人が同じ心を持っているわけではないことを認知、考え方、価値観、感情から説明できる。 |
| | 3. | 八子 | 講義 | 内　　容　からだのしくみ①（ボディメカニクスの原理）<br>どのような体の動きが楽なのか実践しながら、ボディメカニクスの基礎知識を学習する。<br>（生活支援技術と連動させるため）<br><br>到達目標<br>ボディメカニクス8原則の内容を説明できる。<br>なぜボディメカニクスを活用することが必要なのか説明できる。 |
| | 4. | 八子 | 講義 | 内　　容　こころのしくみの理解②（マズローの欲求段階説）<br>人が生きるために必要な欲求について自分に当てはめて見る。<br>そのうえでマズローの欲求階層説について学習する。<br><br>到達目標<br>マズローの欲求階層説の５段階をそれぞれ理解し説明できる。<br>５段階の欲求に関して利用者に当てはめて考えることができる。 |
| | 5. | 八子 | 講義 | 内　　容　こころのしくみの理解③（自己概念と尊厳）<br>自分について他者に紹介し、傾聴する実践を通じて、自己概念と尊厳について、感じながら学習する。<br><br>到達目標<br>自己概念が人によって違うのはなぜか説明できる。<br>人から大切の思われる行為とは何か、尊厳について自分の考えを説明できる。 |
| | 6. | 八子 | 講義 | 内　　容　こころのしくみの理解④（こころと脳の関係）<br>脳の機能を理解して、脳とこころ（思考・学習・記憶）の関係を理解する。<br><br>到達目標<br>こころ（思考・学習・記憶）のメカニズムを脳との関係で説明できる。 |
| | 7. | 八子 | 講義 | 内　　容　こころのしくみの理解⑤（意欲・動機付け、適応機制）確認試験１<br>事例から、目の前に課題や葛藤が生じたときに自分のこころを守るしくみを学習する。<br>１回～６回までの授業の到達度の確認試験を行う。<br><br>到達目標<br>自分のことに対して意欲・動機づけについて具体的に説明できる。<br>適応機制とは何か説明でき、なぜ起こるのか考えられるようになる。 |
| | 8. | 八子 | 講義 | 内　　容　からだのしくみの理解②（身体の構造・機能）<br>ここで学習してきた身体の構造・機能について学習する。<br><br>到達目標<br>身体の各部名称を答えられる。身体の機能について答えられる。 |
| | 9. | 八子 | 講義 | 内　　容　からだのしくみの理解③（生命の維持と恒常性）<br>生命機能維持するために不可欠な体の変化について学習する。<br><br>到達目標<br>外部環境が変化したときの体の反応が説明できる。<br>なぜそのような変化が起こるのか説明でき、健康についての理解を深められる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 八子 | 講義 | 内　　容　からだのしくみの理解④（生命の維持と脳・神経系）<br>体内に組織や器官があっても、互いに協同しなければ生命活動はできない。<br>その指令ととなる脳・神経系について学習する。<br><br>到達目標<br>脳・神経系の構造を説明できる。司令塔である中枢神経系の役割を説明でき、うまく機能しなくなるとどんな症状が起こるのか考えられるようになる。 |
| 11. | 八子 | 講義 | 内　　容　からだのしくみの理解⑤（生命維持調節と神経系）<br>生命維持調節に欠かせない末梢神経系（自律神経）の役割について学習する。<br><br>到達目標<br>自律神経系の種類と特徴について説明できる。<br>自律神経と身体に及ぼす影響について説明でき、介護現場での観察の視点を持てるようになる。 |
| 12. | 八子 | 講義 | 内　　容　からだのしくみの理解⑥（循環器系・呼吸器系）<br>体液（血液。リンパ液）を体内でどのように運搬させているのか循環器系（心臓、血管、血液、子）に関する基礎知識を学習する。<br><br>到達目標<br>循環器系。呼吸器系の解剖や生理的基礎知識や機能が説明できる。<br>血液はどのように全身を循環しているのか循環経路を用いて説明できる。 |
| 13. | 八子 | 講義 | 内　　容　からだのしくみの理解⑥（バイタルサイン）<br>2回目確認試験（8回～12回のからだのしくみ）の授業内容到達度確認する。<br>事例をもとに介護福祉士として必要な身体観察バイタルサインとは何かを学習する。<br><br>到達目標<br>血液はどのように全身を循環しているのか循環経路を用いて説明できる。 |
| 14. | 八子 | 講義 | 内　　容　こころのしくみ、からだのしくみの前期授業内容の振り返り<br>授業の到達度を何が理解できて何が理解できなかったのか明確にするためグループワークを行う。<br><br>到達目標<br>授業到達度を個々に明確にし、グループ内での双方向の学びとなることを確認する。 |
| 15. | 八子 | 試験 | 定期試験実施<br>効果的な学びとするためクラスによっては14回と15回が逆となる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 50% | 30% | 20% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉講座11「こころとからだのしくみ」第2版　中央法規　2022年 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 専門用が多いため、予習、授業参加、復習の積み重ねが必要な科目です。<br>他の科目（障害の理解、認知症に理解）の基礎知識となります。また特に生活支援技術との相互理解が大切になります。<br>また生活支援と関連づけるため、授業順番が変わることもあります。 |

| 科目名 | 【こころとからだのしくみⅡ 】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 八子　久美子 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | １年 | 後期 | 講義 | 4 単位 | 30 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①生活支援の場面（移動、みじたく、食事、排泄、入浴）に応じたこころとからだのしくみの基礎知識を理解する。<br>②心身機能低下からくる生活支援の場面（移動、みじたく、食事、排泄、入浴）への影響について理解できる。<br>③安心、安全、その人らしく生活するための生活支援を提供する根拠となる知識を理解する。 |
| 到達目標 | ①それぞれの生活支援の場のケアに関連した体の構造や機能に関して説明できる。<br>②それぞれの生活支援の場のケアに関連した心身機能低下や疾患による影響について説明できる。<br>③それぞれの生活支援の場のケアに関する変化や気づき、観察のポイントがわかり、適切な対応方法について考えられるようになる。<br>④生活の質の向上に向けた同業者や多職種と協同し連携することの大切さが説明できる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで訪問看護師、介護支援専門員として8年の実務経験を生かし、実践現場でかかわった様々な疾患の特徴や、生活への影響を伝え、それらの経験を心と体の基礎知識をもとに、生活との関連で理解できるように活用する。また介護予防指導士として、指導者育成の講座担当や地域の高齢者への介護予防指導経験を活かし、介護福祉士としての予防の視点を持つことの大切さを伝える。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 八子 | 講義 | 内　　容<br>オリエンテーション（後期授業に向けての確認事項）前期の復習ヤ国家試験問題を個別に行い、グループごとに確認し合う学習とする。<br><br>到達目標<br>授業の進め方、課題、テスト、評価について理解し、後期の取り組みへの心構えができる。<br>自分の理解を再認識し、国家試験問題への意識づけができる。 |
| | 2. | 八子 | 講義 | 内　　容<br>前期授業内容の「こころのしくみ。からだのしくみ」の内容で、学生の理解度に応じて内容を計画し理解を深める学習とする。<br><br>到達目標<br>日常生活に関連した心と体のしくみを理解するために、基礎知識が理解できている。<br>特に体のしくみのキーワードについて説明ができる。<br>（脳のしくみ、大循環、小循環、肺胞、外呼吸、内呼吸、呼吸中枢等） |
| | 3. | 八子 | 講義 | 内　　容　移動に関連したこころとからだのしくみ①（骨）<br>事例や骨の模型を使用して人が移動するためのからだのしくみについて学習する。<br><br>到達目標<br>臥位、座位、立位、重心、良肢位などの基本的姿勢について説明できる。<br>骨の名前が模型を見て答えられるようになる。関節の動き（屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋）等の専門用語が理解し必要性を説明できる。 |
| | 4. | 八子 | 講義 | 内　　容　移動に関連したこころとからだのしくみ②(関節)<br>関節の動きの専門用語や骨や関節がうまく動かなくなった時に起こる症状を事例から学習する。<br><br>到達目標<br>関節の動きを専門用語で使って説明できる。<br>骨粗鬆症、拘縮の原因や症状を説明でき、予防することの重要性について説明できる。 |
| | 5. | 八子 | 講義 | 内　　容　移動に関連したこころとからだのしくみ③（骨格筋）<br>骨格筋の種類や機能について図や映像教材から学習する。<br>また生活の活動低下による骨格筋への影響を理解する。<br><br>到達目標<br>骨格筋の種類や機能を説明できる。 |
| | 6. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身機能低下が移動に及ぼす影響①（廃用症候群）<br>生活の中で、なぜ廃用症候群が起こるのか、予防するためにはどうすれば良いかを事例をもとにグループで学習する。<br><br>到達目標<br>廃用症候群の原因が説明できる。<br>廃用症候群の予防についてグループで考え対策を考えられる。 |
| | 7. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身機能低下が移動に及ぼす影響②（高齢者に多い疾患）<br>生活の中で、移動に影響が出る高齢者に多い代表的な疾患について、原因、症状、治療について学習する。<br><br>到達目標<br>疾患（骨折、リウマチ、脊柱管狭窄症）の原因や症状、治療について説明できる。 |
| | 8. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身機能低下が移動に及ぼす影響③（高齢者に多い疾患）<br>生活の中で、移動に影響が出る高齢者に多い代表的な疾患について、原因、症状、治療について学習する。事例から介護福祉士としての関わりを学習する。<br><br>到達目標<br>疾患（筋委縮性側索硬化症、パーキンソン病、脳血管疾患、脊髄損傷）の原因や症状、治療について説明できる。<br>様々な原因で移動が困難となった対象者に対する対応を考えられるようになる。 |
| | 9. | 八子 | 講義 | 内　　容　移動に関するこころとからだのしくみの総まとめ（確認テスト１）<br>骨，関節、筋肉の構造や機能、移動に影響を与える疾患についての確認テストを行う。<br><br>到達目標<br>確認テストにおいては60%以上を合格点とする。<br>到達してない場合は補講して再試験とする。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 八子 | 講義 | 内　　容　みじたくに関連したこころとからだのしくみ①（口腔内、唾液）<br>みじたくとは何かを理解し、みじたくに関連する体のしくみについて学習する。<br><br>到達目標<br>口腔内の構造や役割が説明できる。<br>特に唾液の種類や役割について説明し、高齢者の口腔の構造や特徴について説明できる。 |
| | 11. | 八子 | 講義 | 内　　容　みじたくに関連したこころとからだのしくみ②（爪）<br>正常な爪の状態や老化に伴う爪の変化や、爪の変化から予測できる疾患について学習する。<br><br>到達目標<br>日々観察している爪の状態から老化の特徴や病気の予測ができることを理解できるようになる。<br>日々のケアをどうすればいいのか考えられる。 |
| | 12. | 八子 | 講義 | 内　　容　食べるに関連したこころとからだのしくみ①（食べるメカニズム）<br>食べるという行為に関連した口腔内構造の理解を踏まえて物を食べることを意識して実践する。<br>１つ１つの行為を分析し記録し、グループで確認し合う。（各自おやつを準備する）<br><br>到達目標<br>食べるメカニズムを分析して伝えられる。<br>グループワークを行い、食べるメカニズムの１つ１つの行為を確認できる。 |
| | 13. | 八子 | 講義 | 内　　容　食べるに関連したこころとからだのしくみ②（摂食嚥下の５分類）<br>食べるメカニズムの摂食嚥下５分類について学習する。<br><br>到達目標<br>摂食嚥下の５分類を区別でき、その分類ごとの専門用語について意味が理解でき説明できる。 |
| | 14. | 八子 | 講義 | 内　　容　食べるに関連したこころとからだのしくみ③（食欲中枢，自律神経、血糖値）<br>人間の基本的欲求である食べる（食欲、五感、空腹、満腹、記憶）しくみとして食欲が起こるしくみや自律神経や血糖値の関係を学習する。<br><br>到達目標<br>食べる（食欲、五感、空腹,満腹）のメカニズムを説明できる。<br>食欲中枢、五感、血糖値とは何か説明できる。<br>自律神経が消化器系に及ぼす影響や血糖値の正常な状態を説明できる。<br>食べることによる疾患の関係性があることが考えられるようになる。 |
| | 15. | 八子 | 講義 | 内　　容　食べるに関連したこころとからだのしくみ④（生命維持に必要な栄養素）<br>自分の食生活を振り返りながら生命を維持するために必要な栄養素について学習する。<br><br>到達目標<br>五大栄養素とは何か説明できる。<br>それぞれの栄養素の特徴やなぜ必要なのかを説明することができる。 |
| | 16. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身の機能低下が及ぼす食事への影響（加齢、病気・障害による機能低下）<br>どのような原因で食事摂取がスムーズにいかなくなるのか、加齢への影響や病気や障害による機能低下について学習する。<br><br>到達目標<br>加齢に伴う食事摂取への影響について説明できる。<br>食事に影響を及ぼす代表的な疾患や障害について説明できる。<br>老化、疾患や障害のある方への適切な食事について考えられるようになる。 |
| | 17. | 八子 | 講義 | 内　　容　排泄に関連したこころとからだのしくみ①（排便のしくみ）<br>生命活動で不可欠な排泄について消化器系の構造や機能を確認し、排便のしくみについて学習する。<br><br>到達目標<br>消化器系の構造や機能を説明できる。<br>便の生成や便排出のしくみについて理解し説明できる。<br>正常な便の性状や量、回数を答えられる。 |
| | 18. | 八子 | 講義 | 内　　容　排泄に関連したこころとからだのしくみ②（消化機能の低下に伴う排便障害）<br>高齢者に多い消化機能低下の代表である便秘について、各自テキストを見ながら、わかりやすいようにまとめていく。<br><br>到達目標<br>便秘の種類ごと、タイプや原因や対処法についてまとめられる。<br>各自まとめたものグループで共有する。 |
| | 19. | 八子 | 講義 | 内　　容　排泄に関連したこころとからだのしくみ③（排尿のしくみ）<br>排泄について泌尿器系の構造や機能を確認し、排尿のしくみについて学習する。<br><br>到達目標<br>泌尿器系の構造や機能を説明できる。<br>尿の生成や尿排出のしくみについて理解し説明できる。<br>正常な尿の性状（量、色、回数）について答えられる。 |
| | 20. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身機能低下が排泄に及ぼす影響①（排尿障害）<br>高齢者に多い排尿障害について、各自テキストを見ながら、わかりやすくまとめる。<br><br>到達目標<br>尿失禁の種類ごと、タイプや原因や対処法についてまとめられる。<br>各自まとめたものグループで共有する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 21. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身機能低下が排泄に及ぼす影響②（グループワーク）<br>高齢者に多い便秘や尿失禁について、各自まとめたものを集約し、班で話し合い、他者にわかりやすく伝えることを目標に話し合い資料を作成する。<br><br>到達目標<br>グループで協力して、テーマについて班ごとまとめられる。全員が参加できている。 |
| | 22. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身機能低下が排泄に及ぼす影響③（グループワーク）<br>高齢者に多い便秘や尿失禁について、各自まとめたものを集約し、班で話し合い、他者にわかりやすく伝えることを目標に話し合い資料を作成する<br><br>到達目標<br>グループで協力して、他者の意見も尊重しテーマについて班ごとまとめられる。<br>全員が参加できている。 |
| | 23. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身機能低下が排泄に及ぼす影響④（便秘・尿失禁プレゼンテーション）<br>グループでまとめた資料をもとに班ごとのプレゼンテーションすることを体験する。<br><br>到達目標<br>班でまとまってプレゼンテーションができる。<br>プレゼンテーションに至る過程について振り返り、介護現場に当てはめて考えられるようになる。（自己学習、他者への尊重、チームでケアする意義） |
| | 24. | 八子 | 講義 | 内　　容　排泄の自立支援について考える<br>排泄の支援への尊厳とは何か、自立支援に必要な知識や技術について事例を通して考える。<br><br>到達目標<br>排泄のしくみに関する医学的知識を排泄の自立（おむつはずし）に活かすための方法を考えられるようになる。<br>排泄ケアの関わりに関して自分の意見が尊厳や自立支援の観点から言えるようになる。 |
| | 25. | 八子 | 講義 | 内　　容　まとめ（授業10回から24回）知識確認テスト2<br>みじたくに関連したから排泄に関連したこころとからだのしくみについて習得度を確認するテストを行う。<br><br>到達目標<br>合格点は60%とする。到達してない学生は補講と再試験とする。 |
| | 26. | 八子 | 講義 | 内　　容　入浴に関連したこころとからだのしくみ①<br>入浴に関連するからだのしくみ(皮膚、発汗、入浴が与えるかだらへの影響)について学習する。<br><br>到達目標<br>皮膚の構造や機能について説明できる。<br>発汗の種類、機能について説明できる。<br>皮膚の正常な働きが健康維持するのに、いかに大切か理解できるようになる。<br>入浴が身体に及ぼす影響を理解することで、安全な入浴方法について考えられるようになる。 |
| | 27. | 田中先生 | 講義 | 内　　容　介護予防について（合同授業）<br>介護予防とは何か、どうすれば予防できるのか介護予防の概念を学習する。<br>ゲストスピーカー：日本介護予防協会理事 田中先生<br><br>到達目標<br>介護予防となにか、どうすれば予防できるのかなど講義を聞いた内容を自分でまとめられる。 |
| | 28. | 八子 | 講義 | 内　　容　後期授業のまとめ（合同授業）<br>後期内容の学習到達度をグループワークを通じて高め合う。<br>便秘・尿失禁のプレゼンテーションの各クラス代表班が発表し学びの共有とする。<br><br>到達目標<br>試験問題を個人で取り組む、その後のグループワークで、相互の教え合うことで学びを深めることができることを自覚する。 |
| | 29. | 八子 | 講義 | 内　　容　入浴に関連したこころとからだのしくみ②<br>事例を用いて心身機能が入浴に及ぼす影響について学習する。<br>（加齢に伴う皮膚の機能変化、安全な入浴方法（ヒートショック、疾患）<br><br>到達目標<br>加齢に伴う皮膚の変化やヒートショックと何か、疾患別に入浴方法が異なるのか説明できる。 |
| | 30. | 八子 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 60% | 30% | 10% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉講座11「こころとからだのしくみ」第2版　中央法規　2022年 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 専門用語が多い科目です。予習、復習をしっかりして知識を積み上げてい着ましょう。<br>他の科目の基礎知識となり、特に生活支援技術の根拠となる知識です。しっかり習得しましょう。 |

| 科目名 | 【福祉とキャリア】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 齊藤　美由紀（オムニバス） | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | １年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的（ねらい） | 介護福祉士としてさまざまな場所で活躍している方にご登壇頂き、介護福祉士として活躍するさまざまなキャリアを知ると共に、学生が卒業後の自分自身のキャリアプランを考える機会とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 介護福祉士としてさまざまな活躍の場があることを知り、卒業後の自分自身のキャリアプランを作成することができる。 | | | | | | |
| 実務経験と授業内容への活用 | | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | | | さまざまな場所で活躍している方にご登壇して頂く予定で、現在、調整中です。<br>決定次第、別紙にて配布いたします。 |
| | 2. | | | |
| | 3. | | | |
| | 4. | | | |
| | 5. | | | |
| | 6. | | | |
| | 7. | | | |
| | 8. | | | |
| | 9. | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | | | |
| | 11. | | | |
| | 12. | | | |
| | 13. | | | |
| | 14. | | | |
| | 15. | | | |
| | 16. | | 講義 | |
| | 17. | | 講義 | |
| | 18. | | 講義 | |
| | 19. | | 講義 | |
| | 20. | | 講義 | |
| | 21. | | 講義 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 22. | | 講義 | |
| | 23. | | 講義 | |
| | 24. | | 講義 | |
| | 25. | | 講義 | |
| | 26. | | 講義 | |
| | 27. | | 講義 | |
| | 28. | | 講義 | |
| | 29. | | 講義 | |
| | 30. | | 講義 | |
| | 31. | | 講義 | |
| | 32. | | 講義 | |
| | 33. | | 講義 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 34. | | 講義 | |
| | 35. | | 講義 | |
| | 36. | | 講義 | |
| | 37. | | 講義 | |
| | 38. | | 講義 | |
| | 39. | | 講義 | |
| | 40. | | 講義 | |
| | 41. | | 講義 | |
| | 42. | | 講義 | |
| | 43. | | 講義 | |
| | 44. | | 講義 | |
| | 45. | | 講義 | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成績評価 | | | 100% | | | | 100% |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考文献 | | | | | | | |
| その他<br>（留意点等） | | | | | | | |

| 科目名 | 【ホスピタリティ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 株式会社　翼会 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | 1年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①円滑な人間関係を構築し、信頼される人材になる。<br>②どの職場でも活用できる対人スキルを身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①仕事に対する姿勢やビジネスマナーを習得する。<br>②ホスピタリティについて学び、活用できる技術を習得する。<br>③積極的なコミュニケーションが取れ、自己ＰＲができるようになる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ホスピタリティ産業やビジネス業界での指導経験を活かし、福祉サービスビジネスに応用して個々のホスピタリティを高める。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 翼会 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション・立ち居振る舞いの基本<br>ホスピタリティを学ぶ意義を考え、グループワークを通じて信頼される社会人像への理解を深める。<br>立ち居振る舞いの基礎を習得する。<br><br>到達目標<br>半期の授業の進め方、ホスピタリティを身に着ける意義を理解する。<br>立ち方・挨拶・返事を適切な方法で自ら実践できる。 |
| | 2. | 翼会 | 講義 | 内　　容　相互尊重・コミュニケーションの基本<br>挨拶の必要性を理解し、社会人としての常識と好感の持てる態度と挨拶を身に着ける。<br>ペアワークを用いて相互尊重について考え、多様な場面においての礼を習得する。<br><br>到達目標<br>相互尊重のマインドを持ち、それを表現することができる。<br>好感の持てる挨拶・態度・数種類の挨拶をスマートに行うことが出来る。 |
| | 3. | 翼会 | 講義 | 内　　容　言葉遣い・敬語①<br>敬語の基本を習得する。（尊敬語・謙譲語・丁寧語）<br>敬語を声に出して遣えるよう演習を通して習得する。<br><br>到達目標<br>正しい敬語を理解し、声に出して適切に遣うことが出来る。 |
| | 4. | 翼会 | 講義 | 内　　容　言葉遣い・敬語②<br>適切な言葉選び・言い換え・投げかけ方（音調・テンポ）のバリエーションを習得する。<br>応用編として敬語についての学びを深め、誤った使い方を適切な言葉に修正する。<br><br>到達目標<br>場面毎に適切で正しい敬語を遣うことができ、ホスピタリティの高い声掛けが出来る。<br>誤った言葉の使い方を修正し、正しい言葉に直すことが出来る。 |
| | 5. | 翼会 | 講義 | 内　　容　聴き方・話し方　傾聴の効果<br>対話の重要性を理解し、活舌・発声の演習によりクリアな発声を習得する。<br>ペアワークで傾聴を体験。好感が持てる聞き方を学び、質問力・コミュニケーション能力の向上を<br>図る。実習に備え、効果的な自己紹介を作成し発表する。<br><br>到達目標<br>ホスピタリティのある話し方、適切なヒヤリングを行うことが出来る。<br>社会人として好感の持てる自己紹介を行うことが出来る。 |
| | 6. | 翼会 | 講義 | 内　　容　電話応対の基本<br>社会人としてスマートな電話を受け方・掛け方を演習を通じて学び、電話応対スキルを習得する。<br>実習先に電話をかける場面を想定したロールプレイを通じビジネス電話に慣れ、声音・言葉遣いも含め<br>た好感のもてる受け答え、対応力を高める。<br><br>到達目標<br>社会人として相応しいホスピタリティの高い電話応対が出来る。 |
| | 7. | 翼会 | 講義 | 内　　容　ホスピタリティマインド・顧客意識を考える<br><br>グループワークを用いてホスピタリティを考え、自ら今までの経験を顧み、ホスピタリティマインドを<br>高める。相手の立場に立ち顧客意識を考え、どのようにホスピタリティを伝え、表現するか具体的に考<br>える。 |
| | 8. | 翼会 | 講義 | 内　　容　指示を受ける　報告・連絡・相談<br>指示受けの意義、報告・連絡・相談の重要性を学ぶ。<br>ロールプレイ、グループワークを用いて、現場を想定した指示受け、報告・連絡・相談の演習を行う。<br><br>到達目標<br>指示受けの意義、報告・連絡・相談の重要性を理解する。<br>ホスピタリティマインドを持ち、的確な指示受け、正確な報告・連絡・相談を行うことが出来る。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9. | 翼会 | 講義 | 内　　容　チームワーク<br>　組織の基本と、チームワークの重要性について学習する。<br>　ロールプレイを用いて、チームのあり方について考え、体験し、共有する。<br>　組織の中でどのように立ち振る舞うかについて考えを深める。<br><br>到達目標<br>　組織の基本とチームワークの重要性を理解し適切な行動を取ることが出来る。 |
| 10. | 翼会 | 講義 | 内　　容　豊かな仕事生活　【発表】 |
| 11. | 翼会 | 講義 | 内　　容　自己ＰＲ<br><br>　自らを振り返り、自己ＰＲの必要性と作成方法を学び、授業内で作成する。 |
| 12. | 翼会 | 講義 | 内　　容　ビジネス文書　社内文書　メールのマナー<br>　基本的なビジネス文書・ビジネスメールの書式やマナーを理解し、書き方を習得する。<br><br>到達目標<br>　ビジネス文書やメールのマナーを理解し、実習先へお礼のハガキを書くことが出来る。 |
| 13. | 翼会 | 講義 | 内　　容　仕事に必要な意識<br>　8つの意識を理解しグループワークを用いて、具体的な活用方法を共有する。<br><br>　出社から退社まで職場での基本的なマナー・仕事に対する姿勢を理解、習得する。<br><br>到達目標<br>　実習先・就職先に於いて８つの意識をもとに効果的かつ効率的なパフォーマンスが行える。<br>　職場での基本的なマナーを実践することが出来る。 |
| 14. | 翼会 | 講義 | 内　　容　来客応対　訪問・面談のマナー<br>　物の受け渡し・名刺の受け方・訪問する際のマナーへの学びを深め、習得する。<br>　定期試験に向けてプレゼンテーションの演習を行い、ブラッシュアップを行う。 |
| 15. | 翼会 | 試験 | 内　　容　定期試験<br>　基本的なビジネスマナー・ホスピタリティのある応対が習得できているか、自己PR・コミュニケーションが実践できるかを定期試験とする。なお、本定期試験は面接試験形式とする。<br><br>到達目標<br>　いかなる場面であってもホスピタリティの高い、好感が持てる適切な応対をすることが出来る効果的な自己PR・個人プレゼンテーションが出来る。<br>　ビジネスマナーの基本を理解し、基本的な礼儀を実践することが出来る。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 60% | 30% | 10% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | パワーポイント、資料シートを使用。毎授業の積み重ねが重要。<br>ホスピタリティ･コミュニケーションが授業内でも取れるよう積極的にグループワーク、ペアワークに臨んでいただきたい。 |

| 科目名 | 【生活と福祉】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 木村　久枝 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ① 社会生活をおくる人間には、個人だけでなく集団の視点でとらえることが大切です。<br>② 生活を社会と福祉の関係性で体系的にとらえ、介護福祉につなげることが大切です。 | | | | | | |
| 到達目標 | ① 個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活の構造について理解します。<br>② 生活に切り離せない、社会との関りについて、ライフサイクル別に理解します。<br>③ 様々な生活をする人々の、尊厳と自立の現状を理解して、課題を導き出します。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士、看護師教育の実務経験３０年以上をもとに、地域社会で支援する福祉と医療の知識を活かし、地域社会で過ごされる人々の現状と福祉の関りを、生活の支援者である介護福祉士の専門性をふまえて教授します。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 木村 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション　生活の構成要素と基盤<br>生活とは何かを改めて理解し、自分の生活様式を書き出し自己覚知する。<br><br>到達目標<br>生活支援の専門職として、人それぞれには生活様式の違いがあることを理解する。 |
| | 2. | 木村 | 講義 | 内　　容　家族の定義<br>家族の形態と機能、生活習慣を含めた個人生き方を習得する。　前回の学びの復習として小テストを実施する。 |
| | 3. | 木村 | 講義 | 内　　容　ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉①　グループワーク<br>自分の過去として、乳幼児期の社会のルールや福祉について、グルーワークを通して、互いの意見を尊重し、役割をもって意思決定することを学ぶ。<br><br>到達目標<br>日本における乳幼児期の生活と福祉について知ることができる。 |
| | 4. | 木村 | 講義 | 内　　容　発表<br>前回グループでまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を組み入れ、他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも構築させる。<br><br>到達目標<br>互いの意見を尊重し、グループとしての意見や他グループの発表を聞くことができる。 |
| | 5. | 木村 | 講義 | 内　　容　ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉②　グループワーク<br>自分の過去として、学童期・思春期の社会のルールや福祉について、グルーワークを通して、互いの意見を尊重し、役割をもってまとめあげることを学ぶ。<br><br>到達目標<br>日本における学童期・思春期の生活と福祉について知ることができる。 |
| | 6. | 木村 | 講義 | 内　　容　発表<br>前回グループでまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を通して他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも深める。<br><br>到達目標<br>互いの意見を尊重し、グループとしての意見や他グループの発表を聞き、まとめることができる。 |
| | 7. | 木村 | 講義 | 内　　容　社会参加に向けたキャリアプランと福祉<br>現代社会における学童期・思春期の社会問題の構造的背景（貧困格差、社会意識・価値観の変化）などについて学び、自己のキャリアデザインにつなげる。<br><br>到達目標<br>現代社会における学童期・思春期の社会問題の構造的背景（少子高齢化、人口減少社会、格差、貧困、社会意識・価値観の変化）を踏まえ、自己のキャリアデザインにつなぐことができる。 |
| | 8. | 木村 | 講義 | 内　　容　ライフサイクルにおける生活様式や営み方と福祉③　グループワーク<br>自分の現在として、困難を有する若者を支援する社会と環境づくりについて、グループワークを通して、互いの意見を尊重し、役割をもってまとめあげることができる。　前回の学びの復習として小テストを実施する。<br><br>到達目標<br>日本における若者の支援に関する社会福祉、介護福祉について知ることができる。 |
| | 9. | 木村 | 講義 | 内　　容　発表<br>前回グループワークでまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を通して他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも深める。<br><br>到達目標<br>互いの意見を尊重し、グループとしての意見や他グループの発表を聞き、まとめることができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 木村 | 講義 | 内　　容　安定した職業生活と充実した生活を送るための福祉<br>現在社会における若者の社会問題の構造背景（人口の減少、就業意識・価値観の変化）などについて学び、安定した職業生活と充実した生活を送るための福祉について学ぶ。<br><br>到達目標<br>現在社会における若者の社会問題の構造的背景（人口の減少、就業意識・価値観の変化）などについて学び、安定した職業生活と充実した生活を送ることにつなぐことができる。 |
| 11. | 木村 | 講義 | 内　　容　ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉④ー１　個人ワーク<br>自分の未来としての高齢者の暮らし・就労と地域社会での支え合いについて、個人の力でまとめあげることができる。<br><br>到達目標 |
| 12. | 木村 | 講義 | 内　　容　ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉④ー２　個人ワーク |
| 13. | 木村 | 講義 | 内　　容　発表<br>前回、前々回で個人でまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を通して他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも深める。<br><br>到達目標<br>互いの意見を尊重し、グループとしての意見や他グループの発表を聞き、まとめることができる。 |
| 14. | 木村 | 講義 | 内　　容　個人ワーク<br>これまでの学習の復習として、国家試験対策としての「社会の理解」を過去の問題の解答・解説を通して理解を深める。<br><br>到達目標<br>国家試験合格を目指した学びができる。 |
| 15. | 木村 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 70% | 20% | 10% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 著者名『介護福祉士養成講座２「社会の理解」（介護福祉士養成講座編集委員会）』（中央法規、2023年） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 能動的・主体的に授業に参加し学習に取り組んでほしい。積み重ねが大切な科目であり、前後の講義との関係性はもとより、科目全体を通してさらには他の科目との相互理解を深めていくように学習を進めてほしい。 |

| 科目名 | 【社会保障制度】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 森　長秀 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①社会保障の概念や意味、分類を理解し、ひとりひとりの生活にどのように関わっているかを考える。<br>②わが国におけるさまざまな社会保障制度の仕組みや内容、課題を理解する。 |
| 到達目標 | ①わが国の社会保障制度の意義と概要、生活との関わりについて理解することができる。<br>②社会保障制度の中心的存在である社会保険各制度（年金・医療・介護・雇用・労災）の基本的知識を修得する。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 大学教員としての当該分野における研究・教育歴、および地方公共団体・警視庁・各種団体における委員等の実務経験に基づく授業。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 森 | 講義 | 内　　容　　ガイダンス／社会保障の概念 |
| | 2. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保障制度の概要と分類 |
| | 3. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保障の歴史① |
| | 4. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保障の歴史② |
| | 5. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保障の理念と機能 |
| | 6. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保障財政 |
| | 7. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保険制度①　年金保険①<br>年金保険制度の基本出来枠組みを理解するとともに、制度が作られてきた歴史的背景について学ぶ。<br>到達目標<br>年金制度の沿革と、現在の二階建て制度の基本的な概要について理解できる。 |
| | 8. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保険制度②　年金保険②<br>国民年金および厚生年金の仕組みと、老齢年金・障害年金・遺族年金の概要について学ぶ。 |
| | 9. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保険制度③　医療保険①<br>国民皆保険体制の意義と、医療保険制度の基本的な概要、国民医療費の規模について学ぶ。<br>到達目標<br>国民皆保険体制の重要性と、医療保険制度の仕組み、国民医療費の概要について、知識を得る。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保険制度④　医療保険②<br>国民健康保険（国保）および健康保険（健保）のそれぞれの給付の内容およびその重要性について学ぶ。<br><br>到達目標<br>国保、健保に共通する医療給付および現金給付の主なものについて知識を得る。 |
| | 11. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保険制度⑤　介護保険<br>介護保険制度の制定の経緯と、制度の概要並びに給付の内容について学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護保険制度の保険者・被保険者・給付と負担などの重要事項について理解する。 |
| | 12. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保険制度⑥　労災保険<br>労働保険の概要と、労働者災害補償保険（労災保険）制度の概要、給付の内容および給付額などについて学ぶ。<br><br>到達目標<br>労災保険の概要（保険者・対象・雇用形態・保険給付・保険料など）の重要事項についての知識を得る。 |
| | 13. | 森 | 講義 | 内　　容　社会保険制度⑦　雇用保険<br>雇用保険制度の概要および給付の内容・給付水準などについて学ぶ。<br><br>到達目標<br>主な給付内容（基本手当・教育訓練給付・育児休業給付など）における重要事項を理解する。 |
| | 14. | 森 | 講義 | 内　　容　諸外国の社会保障<br>諸外国（アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・スウェーデンなど）の社会保障制度について、年金・医療・介護を中心に学ぶ。<br><br>到達目標<br>上記の５か国の社会保障制度について、日本と比較しつつ重要事項を理解できる。 |
| | 15. | 森 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座２「社会の理解【第2版】」中央法規 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | |

| 科目名 | 【介護の基本Ⅲ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 細野　真代 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 通年 | 講義 | 4 単位 | 30 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。<br>②介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。<br>③介護福祉の専門職として、社会から求められる役割と機能、知識と技能を理解する。<br>④介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。 |
| 到達目標 | ①地域共生社会の実現にむけてその背景と社会が目指す方向性について説明できる。<br>②利用者の尊厳や自立を守り、介護福祉士としての視点に基づいた倫理的判断ができる。<br>③介護を必要とする人の「生活のしづらさ」を理解し、環境を整えるための支援方法を説明できる。<br>④高齢者のためのサービスの種類と特徴を説明できる。<br>⑤障害者のためのサービスの種類と特徴を説明できる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士養成校にて資格取得後、介護老人保健施設、介護療養病床等で勤務。<br>福祉施設での介護実務経験をもとに、基本的な介護技術と、現場で活躍する上で必須と思われる介護における着眼点について教授する。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 細野 | 講義 | 内　　容　「私たちの生活の理解」<br>私たちの生活を構成する重要な要素について理解し、グループワークを通じて生活の多様性と特性について理解する。<br><br>到達目標<br>自身の生活を構成する要素を理解し、他者との違いを通して得た「生活」についての気づきを自分の言葉で伝えることができる。 |
| | 2. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」<br>介護福祉職が関わる人たちの暮らしについて事例を通じて理解を深め、介護福祉士として関わる際の視点を学ぶ。<br><br>到達目標<br>支援をする際に必要となる視点（ストレングス、エンパワメント、エンパワメントアプローチ）か　ら、利用者が抱える「生活のしづらさ」を考え説明することができる。 |
| | 3. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」<br>VRを通じて認知症を体験し、認知症の方が抱える「生活のしづらさ」の理解とその支援方法について考える。<br>認知症の方への尊厳の保持と自立支援の視点も身につける。<br><br>到達目標<br>認知症の方の生活の障害となっているものを考え、「生活しづらさ」と「生活ニーズ」はどのようなものがあるのか、体験<br>から得た気づきを表現することができる。 |
| | 4. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」<br>障害者施設で働く介護福祉士の講義を通じて、障害者の方が抱える「生活のしづらさ」を理解する。<br>また障害者の方を介護する家族への支援方法についても理解する。<br>障害者の方への尊厳の保持と自立支援の視点も身につける。<br><br>到達目標<br>認知症の方の生活の障害となっているものを考え、「生活しづらさ」と「生活ニーズ」はどのようなものがあるのか、体験<br>から得た気づきを表現することができる。 |
| | 5. | 細野 | 講義 | 内　　容　「利用者の生活を支えるしくみ」<br>地域共生社会の理念が構築された背景と社会が目指す方向性について、時代の変化と共に理解する。<br><br>到達目標<br>地域包括ケアシステムの中で必要となる考え、自助、互助、共助、公助について説明することができる。 |
| | 6. | 細野 | 講義 | 内　　容　「生活を支えるサービス」<br>介護を必要とされる人に対して提供される、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの違いについて介護保険制度を<br>基に理解する。<br><br>到達目標<br>高齢者に対して提供されるフォーマルサービスとインフォーマルにはどのようなものがあるのか、またその違いについて説 |
| | 7. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における居宅サービス（訪問介護、訪問入浴）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>訪問介護、訪問入浴のサービスの特徴とそこで働く介護福祉士の役割について説明できる。 |
| | 8. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における居宅サービス（訪問看護、訪問リハビリテーション）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>訪問看護、訪問リハビリテーションのサービスの特徴とそこで働く専門職の役割について説明できる。 |
| | 9. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における居宅サービス(居宅療養管理指導、通所介護、通所リハビリテーション)」<br><br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>居宅療養管理指導、通所介護、通所リハビリテーションのサービスの特徴とそこで働く専門職、介護福祉士の役割について<br>説明できる。 |
| | 10. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における居宅サービス(短期入所生活介護、短期入所療養介護、特定施設入居者生活介護)」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>短期入所生活介護、短期入所療養介護、特定施設入居者生活介護のサービスの特徴とそこで働く介護福祉士の役割について<br>説明できる。 |
| | 11. | 細野 | 講義 | 内　　容「介護保険制度における居宅サービス（福祉用具貸与、特定福祉用具販売）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>福祉用具貸与、特定福祉用具販売のサービスの特徴と役割について説明できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 12. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における居宅サービス（居宅介護住宅改修費、居宅介護支援）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>居宅介護住宅改修費、居宅介護支援のサービスの特徴と役割について説明できる。 |
| | 13. | 細野 | 講義 | 内　　容　「１～12回までの中間試験に向けた復習」<br>今まで学んだ内容から出題された過去の国家試験問題にチャレンジし、出題の傾向と覚えなければならないポイントを確認<br>する。<br><br>到達目標<br>今まで学んだ内容を理解し、国家試験の過去問を解くことができる。 |
| | 14. | 細野 | 試験 | 内　　容　「１～13回までの内容についての前半試験」<br><br>到達目標<br>１～13回までの内容を理解し、正しい解答を選択することができる。 |
| | 15. | 細野 | 講義 | 内　　容　「試験についての振り返り」<br><br>到達目標<br>１～13回までの内容を理解し、自分が間違えた所に気づくことができる。 |
| 授業計画 | 16. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における施設サービス（介護老人福祉施設、介護老人保健施設）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>介護老人福祉施設、介護老人保健施設のサービスの特徴と役割について説明できる。 |
| | 17. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における施設サービス（介護医療院）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>介護医療院のサービスの特徴と役割について説明できる。 |
| | 18. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介<br>護）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>定期巡回・随時対応訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護のサービスの特徴と役割について説明できる。 |
| | 19. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における地域密着型サービス<br>（認知症対応型通所介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定入所者生活介<br>護)」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>認知症対応型通所介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定入所者生活介護のサービスの特徴と役割について説<br>明 |
| | 20. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における地域密着型サービス<br>（地域密着型老人福祉施設入所者生活介護、看護小規模多機能型居宅介護、地域密着型通所介<br>護）」<br>各グループで調べた介護保険サービスについて報告し、サービスの特徴を学ぶ<br><br>到達目標<br>地域密着型老人福祉施設入所者生活介護、看護小規模多機能型居宅介護、地域密着型通所介護のサービスの特徴と役割につ |
| | 21. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護保険制度における施設サービス、地域密着型サービスのまとめ」<br>施設サービス、地域密着型サービスの内容から過去に出題された国家試験の問題にチャレンジし、出題傾向と覚えなければ<br>ならないポイントを確認する。<br><br>到達目標<br>施設サービス、地域密着型サービスの国家試験過去問題から正しい解答を選択できる |
| | 22. | 細野 | 講義 | 内　　容　「自分の国の高齢者福祉サービスについて調べてみよう」<br>自分の国の社会状況と高齢者福祉制度とサービスについてグループで調べ、日本と比較してみよう。<br>他国の福祉制度について関心を持つ。<br><br>到達目標<br>一緒に学ぶ留学生の生まれた国について理解を深め、日本との社会状況の違い、制度の違いを知ることができる。 |
| | 23. | 細野 | 講義 | 内　　容　「自分の国の高齢者福祉サービスについて調べてみよう」<br>自分の国の社会状況と高齢者福祉制度とサービスについてグループで調べ、日本と比較した内容を発表する。<br>他国の福祉制度について関心を持つ。<br><br>到達目標<br>一緒に学ぶ留学生の生まれた国について理解を深め、日本との社会状況の違い、制度の違いを他の学生に説明することが<br>で<br>きる。 |
| | 24. | 細野 | 講義 | 内　　容　「自分の国の高齢者福祉サービスについて調べてみよう」<br>自分の国の社会状況と高齢者福祉制度とサービスについてグループで調べ、日本と比較した内容を発表する。<br>他国の福祉制度について関心を持つ。<br><br>到達目標<br>一緒に学ぶ留学生の生まれた国について理解を深め、日本との社会状況の違い、制度の違いを他の学生に説明することが<br>で<br>きる。 |
| | 25. | 細野 | 講義 | 内　　容　『障害者のためのフォーマルサービス「介護給付の対象となるサービス」<br>（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、生活介<br>護）』<br>障害者のためのフォーマルサービスについてサービスの内容を理解する。<br><br>到達目標<br>障害者総合支援法における介護給付のサービスについて違いを理解し説明できる。 |
| | 26. | 細野 | 講義 | 内　　容　『障害者のためのフォーマルサービス「介護給付の対象となるサービス」<br>（短期入所、重度障害者包括支援、施設入所支<br>援、）』<br>障害者のためのフォーマルサービスについてサービスの内容を理解する。<br><br>到達目標<br>障害者総合支援法における介護給付のサービスについて違いを理解し説明できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 27. | 細野 | 講義 | 内　　容　『障害者のためのフォーマルサービス「訓練等給付費の対象となる障害福祉サービス」（自立訓練、就労移行支援、就労継続A型、B型、共同生活援助、就労定着支援、自立生活援助）』<br>障害者のためのフォーマルサービスについてサービスの内容を理解する。<br><br>到達目標<br>障害者総合支援法における訓練給付のサービスについて違いを理解し説明できる。 |
| | 28. | 細野 | 講義 | 内　　容　「1～28回までの内容について定期試験に向けて復習」<br>今まで学んだ内容から出題された過去の国家試験問題にチャレンジし、出題の傾向と覚えなければならないポイントを確認する。<br><br>到達目標<br>今まで学んだ内容を理解し、国家試験の過去問を解くことができる。 |
| | 29. | 細野 | 試験 | 内　　容　「前期で学んだ内容からの定期試験」<br>前期学んだ内容が理解できている<br><br>到達目標<br>前期学んだ内容を理解し、正しい解答を選択することができる。 |
| | 30. | 細野 | 講義 | 内　　容　「前期定期試験の復習」<br>前期学んだ内容が理解できている<br><br>到達目標<br>前期学んだ内容を振り返り、定期試験で間違えた所とその理由を説明することができる。 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
| | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | | 100% |
| 教科書 | 教科書 | 「最新　介護福祉士養成講座４　介護の基本Ⅱ　第2版（介護福祉士養成講座委員会）」　中央法規出版（2022年2月1日） | | | | | |
| 参考文献 | 参考文献 | 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ２０２５」中央法規出版（2024年8月10日） | | | | | |
| その他<br>（留意点等） | その他<br>（留意点等 | 介護福祉士の基本となる概念や理念を理解する科目である。制度の理解が必要となることも多く難しく感じることもあるかも知れませんが、学習を進めることで他領域への理解も深まり、介護福祉士としての倫理観、価値観を身につけることができます。<br>授業内で要点をお伝えますので、必ず復習し覚えてください。※外部講師の都合により日程が変更になる場合があります。 | | | | | |

| 科目名 | 【介護の基本Ⅳ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 細野　真代 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 通年 | 講義 | 4 単位 | 30 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。<br>②介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。<br>③介護福祉の専門職として、社会から求められる役割と機能、知識と技能を理解する。<br>④介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。<br>⑤介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理解する。 |
| 到達目標 | ①地域連携の意義とかかわる組織・団体の役割について説明できる。<br>②介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性について述べることができる。<br>③介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について述べることができる。<br>④介護従事者の心身の健康管理の必要性とその対策が適正に実施できる。<br>⑤働く人の健康や生活を守る法制度について述べるこうとができる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士養成校にて資格取得後、介護老保健施設、介護療養病床等で勤務。福祉施設での介護実務経 験をもとに、基本的な介護技術と、現場で活躍する上で必須と思われる介護における着眼点について教授する。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 細野 | 講義 | 内　　容　「地域連携の意義と目的」<br>地域連携の意義と目的について学び、地域連携の形、地域連携における介護施設の役割について理解する。<br><br>達成目標<br>地域連携の意義と目的について説明できる。 |
| | 2. | 細野 | 講義 | 内　　容　「地域連携に関わる機関の理解」<br>地域福祉に関わる組織・団体の特徴と役割について理解を深める。<br><br>到達目標<br>介護福祉士が関わる地域の機関について、特徴と役割を説明することができる。 |
| | 3. | 細野 | 講義 | 内　　容　「地域連携に関わる機関の理解」<br>地域福祉に関わる組織・団体の特徴と役割について理解を深める。<br>地域の民生委員はどのような役割を果たしているのか。<br>民生委員として活躍している人を講師に招き活動内容を理解し、介護福祉士としてどのような連携が可能なのかその可能性について考える。<br><br>到達目標<br>民生委員の役割について説明できる。介護福祉士として連携の可能性を考え発表できる。 |
| | 4. | 細野 | 講義 | 内　　容「介護における安全の確保」<br>介護の場におけるセーフティーマネジメントの考え方を理解する。<br><br>達成目標<br>リスクマネジメントの重要性と身体拘束や行動を制限する行為がもたらす影響について説明できる。 |
| | 5. | 細野 | 講義 | 内　　容「介護における安全の確保」<br>介護の場におけるセーフティーマネジメントの考え方を理解する。<br>利用者の尊厳を保持し、安全と自立支援の視点から対策を立てることができる。<br><br>達成目標<br>事故を防止するための考え方と防止対策について、介護福祉士の視点から考え予防対策を説明することができる。 |
| | 6. | 細野 | 演習 | 内　　容　「介護における安全の確保（非常災害時の対策）」<br>豊島区防災館にて、非常災害時の実際について学び、対応方法についてシュミレーションを通して理解する。<br><br>達成目標<br>災害時に慌てることなく、冷静に利用者の安全を守る行動を取ることができる。 |
| | 7. | 細野 | 演習 | 内　　容　「介護における安全の確保（非常災害時の対策）」<br>豊島区防災館にて、非常災害時の実際について学び、対応方法についてシュミレーションを通して理解する。<br><br>達成目標<br>災害時に慌てることなく、冷静に利用者の安全を守る行動を取ることができる。 |
| | 8. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護における安全の確保（悪徳セールス、消費者トラブル）」<br>豊島区消費生活センターの方より高齢者に多い消費者トラブルについて講義をしてもらい、介護福祉士としての対策とトラブルが発生した時の対応方法について学ぶ。<br><br>達成目標<br>悪徳セールスの種類とクーリングオフの期間について説明できる。 |
| | 9. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護における安全の確保（食事の誤嚥、誤薬の対策）」<br>事故防止のための対策について検討することができる。<br><br>達成目標<br>誤嚥・誤薬防止のための予防対策について、適切な対応を検討し実施することができる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護における安全の確保（感染対策）」<br>感染に関する知識と、感染に予防対策について理解する<br><br>達成目標<br>感染症対策3原則について説明できる。<br>標準感染予防策について適切に実施することができる。 |
| | 11. | 細野 | 講義 | 内　　容　「多職種連携・協働の必要性」<br>多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。<br><br>達成目標<br>多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する多職種の役割を説明できる。 |
| | 12. | 細野 | 講義 | 内　　容　「多職種連携・協働の必要性」<br>多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。<br><br>達成目標<br>多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する多職種の役割を説明できる。 |
| | 13. | 細野 | 講義 | 内　　容　「１～12回までの前半授業のまとめ」<br>１～12回までの内容から過去国家試験に出題された問題にチャレンジしてみる。<br><br>達成目標<br>１～12回までの内容を理解し、正しい解答を選択することができる。 |
| | 14. | 細野 | 試験 | 内　　容　「１～13回までの前半授業内容についての試験」<br>１～13回までの内容からどの程度理解できているかを確認する。<br><br>達成目標<br>１～13回までの内容を理解し、正しい解答を選択することができる。 |
| | 15. | 細野 | 講義 | 内　　容　「前半の授業についての振り返り」<br>試験の内容についてどの程度理解できているのを把握する。<br><br>達成目標<br>試験内容について振り返り、試験で間違えた所とその理由について説明できる。 |
| | 16. | 細野 | 講義 | 内　　容　「保健・医療・福祉職の役割と機能」<br>連携する専門職についての理解を深めると共に、他の専門職の役割と視点の違いを知り効果的な連携方法について考える。<br><br>達成目標<br>利用者の抱える課題に対する多職種の関わり方の違いについて理解し、協働で解決する方法について自分の考えを述べることができる。 |
| | 17. | 細野 | 講義 | 内　　容　「保健・医療・福祉職の役割と機能」<br>連携する専門職についての理解を深めると共に、他の専門職の役割と視点の違いを知り効果的な連携方法について考える。<br><br>達成目標<br>利用者の抱える課題に対する多職種の関わり方の違いについて理解し、協働で解決する方法について自分の考えを述べることができる。 |
| | 18. | 細野 | 講義 | 内　　容　「多職種連携・協働の実際」<br>事例を通してチームの中で求められている介護福祉士の役割と機能について考える。<br><br>達成目標<br>多職種連携・協働するチームに備わっているべき要素について説明することができる。 |
| | 19. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全」<br>介護従事者の健康管理の意義について理解する。<br>介護従事者の健康や生活を守る法制度について理解する。<br><br>達成目標<br>労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、出産・育児、介護に関わる法制度について制度の特徴と内容について説明できる。 |
| | 20. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全」<br>介護従事者の健康管理の意義について理解する。<br>介護従事者の健康や生活を守る法制度について理解する。<br><br>達成目標<br>労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、出産・育児、介護に関わる法制度について制度の特徴と内容について説明できる。 |
| | 21. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全（働く人の健康問題）」<br>介護従事者が生じやすい健康問題とはどのようなものがあるかを理解し、健康を管理する方法について学ぶ。<br><br>達成目標<br>自分の健康を守るための生活習慣について述べることができる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 22. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全（こころの健康管理）」<br>介護従事者が生じやすい精神的健康問題とはどのようなものがあるかを理解し、こころの健康を管理する方法について学ぶ。<br><br>達成目標<br>介護従事者にとってのこころの健康問題が生じる原因について説明できる。<br>自分なりのストレスの対処方法について述べることができる。 |
| | 23. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全（こころの健康管理）」<br>介護従事者が生じやすい精神的健康問題とはどのようなものがあるかを理解し、こころの健康を管理する方法について学ぶ。<br><br>達成目標<br>介護現場で取り組むことが定められているこころの健康管理方法について説明することができる。 |
| | 24. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全（からだの健康管理）」<br>介護従事者が生じやすい身体的健康問題とはどのようなものがあるかを理解し、からだの健康を管理する方法について学ぶ。<br><br>達成目標<br>介護現場で取り組むことが定められているからだの健康管理方法について説明することができる。 |
| | 25. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全（からだの健康管理）」<br>介護従事者が生じやすい身体的健康問題とはどのようなものがあるかを理解し、からだの健康を管理する方法について学ぶ。<br>福祉用具を活用した腰痛予防対策について、福祉用具の専門家から学ぶ。<br><br>達成目標<br>福祉用具を使ったノーリフティングの移乗・移動方法を実践することができる。 |
| | 26. | 細野 | 講義 | 内　　容　「介護従事者の安全（からだの健康管理）」<br>介護従事者が生じやすい身体的健康問題とはどのようなものがあるかを理解し、からだの健康を管理する方法について学ぶ。<br>福祉用具を活用した腰痛予防対策について、福祉用具の専門家から学ぶ。<br><br>達成目標<br>福祉用具を使ったノーリフティングの移乗・移動方法を実践することができる。 |
| | 27. | 細野 | 講義 | 内　　容　「労働環境の整備」<br>労働環境を整備して安全に働く方法を学ぶ。<br>ウエルネスツーリズムの考え方を学び、介護福祉士の可能性について考える。<br><br>達成目標<br>ウエルネスツーリズムについて知り、今後どのように取り入れていくことができるか可能性について考え述べることができる。 |
| | 28. | 細野 | 講義 | 内　　容　「2年間の介護の基本のまとめ」<br>2年間で学んだ内容について、国家試験の過去問題を解き振り返る。<br>自分の苦手箇所を知り弱点を克服する。<br><br>達成目標<br>介護の基本において自身の不得意な所を把握し、弱点を克服する対処方法について計画を立てることができる。 |
| | 29. | 細野 | 試験 | 内　　容　「2年間の総まとめ定期試験」<br>介護福祉士資格取得に向けて必要となる知識が身についているかを確認する。<br><br>達成目標<br>介護の基本に関する問題をから、正しい解答を選択することができる。 |
| | 30. | 細野 | 講義 | 内　　容　「3年間の総まとめ定期試験」<br>介護福祉士資格取得に向けて必要となる知識が身についているかを確認する。<br><br>達成目標<br>介護の基本に関する定期試験問題から自身が誤った解答を選択した箇所を知り、誤った原因を把握し正しい解答を選ぶことができるようになる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「最新　介護福祉士養成講座４　介護の基本Ⅱ　第2版（介護福祉士養成講座委員会）」　中央法規出版（2022年2月1日） |
| 参考文献 | 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ２０２５」中央法規出版（2024年8月10日） |
| その他<br>（留意点等） | 介護福祉士の基本となる概念や理念を理解する科目である。制度の理解が必要となることも多く難しく感じることもあるかも知れませんが、学習を進めることで他領域への理解も深まり、介護福祉士としての倫理観、価値観を身につけることができます。<br>授業内で要点をお伝えますので、必ず復習し覚えてください。※外部講師の都合により日程が変更になる場合があります。 |

| 科目名 | 【コミュニケーション技術Ⅱ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 森　伸彦 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 後期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①コミュニケーション技術Ⅰで学んだ基礎的な技術をベースに、コミュニケーション技術Ⅱでは様々な障害のある方の特性に即したコミュニケーション技術を習得できるようになる。<br>②利用者に関わるご家族等のキーパーソン、さらには多職種を含む専門職チームと円滑なコミュニケーションを図るためのポイントと技術を習得し、現場で即戦力として対応できる介護福祉職の育成を目指す。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①様々な障害の特性に即したコミュニケーション技法を習得することができる。<br>②利用者を支えるキーパーソンや多職種含めた専門職チームでのコミュニケーションのポイントを理解し、実践することができるようになる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士を取得して以降、施設、在宅での現場経験が25年以上、介護支援専門員としては17年以上のキャリアを持つ。<br>現場以外におだい介護サービスのクオリティマネジャーとして全事業のサービスの質を管理。<br>施設や在宅の現場などで培ってきた経験と技術を偏りのない普遍的な内容に置き換え、現場で活用できる術を教える。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 森 | 講義 | 内　　容　コミュニケーション技術Ⅰの振り返りと自己覚知<br>コミュニケーション技術の基本を振り返り基本技術の重要性を学ぶ。<br>ワークシートを通して自己覚知も行う。<br><br>到達目標<br>コミュニケーションの基本技術や重要性を再認識できる。自己覚知により自分の強みや弱み、自己のコミュニケーションスタイルを把握し今後の改善点を見つけることができる。 |
| | 2. | 森 | 講義 | 内　　容　コミュニケー障害への対応の基本<br>コミュニケーション障害の原因を論理的に理解し、情報収集の重要性について事例を通して学ぶ。<br><br>到達目標<br>コミュニケーションの流れと各ステップにおけるコミュニケーション障害を理解することができる。<br>コミュニケーションによる情報収集の方法を習得できる。 |
| | 3. | 森 | 講義 | 内　　容　視覚障害がある人への支援<br>視覚障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>視覚障害の基本的な概念を理解することができる。<br>具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| | 4. | 森 | 講義 | 内　　容　聴覚障害がある人への支援<br>聴覚障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>聴覚障害の基本的な概念を理解することができる。<br>具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| | 5. | 森 | 講義 | 内　　容　構音障害がある人への支援<br>構音障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>構音障害の基本的な概念を理解することができる。<br>具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| | 6. | 森 | 講義 | 内　　容　失語症の人への支援<br>失語症がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>失語症の基本的な概念を理解することができる。<br>具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| | 7. | 森 | 講義 | 内　　容　認知症の人への支援①<br>認知症がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>認知症初期～軽度の概念を理解し、その段階に応じた適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| | 8. | 森 | 講義 | 内　　容　認知症の人への支援②<br>認知症がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>認知症中等度～重度の概念を理解し、その段階に応じた適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| | 9. | 森 | 講義 | 内　　容　高次脳機能障害のある人への支援<br>高次脳機能障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>高次脳機能障害の基本的な概念を理解することができる。<br>具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| | 10. | 森 | 講義 | 内　　容　うつ病・抑うつ状態の人への支援<br>うつ病、抑うつ状態の人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>うつ病や抑うつ状態の基本的な概念を理解することができる。<br>具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11. | 森 | 講義 | 内　　容　知的障害・発達障害・重症心身障害がある人への支援<br>知的障害、発達障害、重症心身障害のある人の特性とコミュニケーション方法、支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。<br><br>到達目標<br>知的障害、発達障害、重症心身障害の基本的な概念を理解し、具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。 |
| 12. | 森 | 講義 | 内　　容　家族とのコミュニケーション<br>家族とのコミュニケーションの重要性と基本的な方法について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、様々な状況での効果的なコミュニケーションの方法を考える。<br><br>到達目標<br>家族とのコミュニケーションの重要性を理解することができる。<br>具体的な事例に対して適切なコミュニケーション方法を考え、実践できるようになる。 |
| 13. | 森 | 講義 | 内　　容　介護におけるチームのコミュニケーション①<br>介護福祉職チームにおけるコミュニケーションの重要性や意義、目的について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的なコミュニケーション方法を考える。<br><br>到達目標<br>コミュニケーションがチームの力を最大限に発揮させることを理解する。<br>介護福祉職チームにおけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な事例に対して適切なコミュニケーション方法を考え、実践できるようになる。 |
| 14. | 森 | 講義 | 内　　容　介護におけるチームのコミュニケーション②<br>多職種協働チームにおけるコミュニケーションの重要性や意義、目的について学ぶ。<br>具体的なケーススタディを通じて、効果的なコミュニケーション方法を考える。<br><br>到達目標<br>コミュニケーションがチームの力を最大限に発揮させることを理解する。<br>多職種協働チームにおけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な事例に対して適切なコミュニケーション方法を考え、実践できるようになる。 |
| 15. | 森 | 講義 | 内　　容　定期試験<br>コミュニケーション技術に関する総まとめの試験を行う。<br><br>到達目標<br>一流の介護福祉職として誇りと品格を持ち続け、どのような状況においてもプロフェッショナルな態度と専門的なコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 60% | 0% | 40% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術　　中央法規出版（株） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 講義の進度により講義内容が変更になる場合がある。 |

| 科目名 | 【生活支援技術Ⅲ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 齊藤　美由紀　　宮里　裕子　　中島たまみ | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 前期 | 演習 | 3 単位 | 45 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | 利用者一人ひとりの生活状況と心身の状況を把握し、多様なニーズに合わせた生活支援の実践を展開できる力を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①利用者一人ひとりの状態を把握を適切にアセスメントし、危険予測を行うことができる。<br>②多様なニーズと様々な生活状況に応じた生活支援の方法を計画することができる。<br>③利用者の状態に応じた着脱、排泄、食事、入浴の生活支援を実践できる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士として、看護師として、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた教員による実技演習とする。<br>様々な経験や実際の事例を交えながら学んだ知識や技術を介護実践においてどのように活かしていくのか、理論のみならず実勢力を身につける授業を展開する。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 講義 | 内　　容　オリエンティーション　介護におけるレクリエーションの意義<br>到達目標<br>対象利用者の楽しみ、身体の動きを引き出すレクリエーションの意味を理解する。 |
| | 2. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 講義 | 内　　容　介護におけるレクリエーションの意義、レクリエーションの方法を学ぶ<br>到達目標<br>対象利用者の楽しみ、身体の動きを引き出すレクリエーションの計画を考えられる。 |
| | 3. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 講義 | 内　　容　介護におけるレクリエーション計画作成<br>到達目標<br>対象利用者の楽しみ、身体の動きを引き出すレクリエーションの計画を立てられ実践できる。 |
| | 4. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での着脱介助（片麻痺、虚弱）の設定<br>到達目標<br>自立支援の視点、身体の負担のないベット上での着替えを実践できる |
| | 5. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での着脱介助（片麻痺、虚弱）の設定<br>到達目標<br>自立支援の視点、身体の負担のないベット上での着替えを実践できる |
| | 6. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での着脱介助（片麻痺、虚弱）の設定<br>到達目標<br>自立支援の視点、身体の負担のないベット上での着替えを実践できる |
| | 7. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での着脱介助（片麻痺、虚弱）の設定<br>到達目標<br>自立支援の視点、身体の負担のないベット上での着替えを実践できる |
| | 8. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での着脱介助（片麻痺、虚弱）の設定<br>到達目標<br>自立支援の視点、身体の負担のないベット上での着替えを実践できる |
| | 9. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での着脱介助（片麻痺、虚弱）の設定<br>到達目標<br>自立支援の視点、身体の負担のないベット上での着替えを実践できる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　実技試験<br><br>到達目標<br>　課題の状況に応じた介護の手順を考え実践できる |
| | 11. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　実技試験<br><br>到達目標<br>　課題の状況に応じた介護の手順を考え実践できる |
| | 12. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　実技試験<br><br>到達目標<br>　課題の状況に応じた介護の手順を考え実践できる |
| | 13. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　レクリエーション発表（グループ発表）<br><br>到達目標<br>　チームで計画を立て目的のあるレクリエーションを考え実践できる |
| | 14. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　レクリエーション発表（グループ発表）<br><br>到達目標<br>　チームで計画を立て目的のあるレクリエーションを考え実践できる |
| | 15. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　レクリエーション発表（グループ発表）<br><br>到達目標<br>　チームで計画を立て目的のあるレクリエーションを考え実践できる |
| | 16. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 17. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 18. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 19. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 20. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 実習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 21. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 22. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 23. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 24. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での排泄介助<br>　排泄に関する用具、差し込み便器、尿器、清潔物品<br><br>到達目標<br>　ベット上で安全にオムツ交換ができ、皮膚に負担なく清潔を保つことができる。 |
| | 25. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　実技試験<br><br>到達目標<br>　課題の状況に応じた介護の手順を考え実践できる |
| | 26. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　実技試験<br><br>到達目標<br>　課題の状況に応じた介護の手順を考え実践できる |
| | 27. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　実技試験<br><br>到達目標<br>　課題の状況に応じた介護の手順を考え実践できる |
| | 28. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での食事介助、口腔ケアの実施<br><br>到達目標<br>　嚥下能力に合わせた介助方法、口腔ケアを実践できる |
| | 29. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での食事介助、口腔ケアの実施<br><br>到達目標<br>　嚥下能力に合わせた介助方法、口腔ケアを実践できる |
| | 30. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　ベット上での食事介助、口腔ケアの実施<br><br>到達目標<br>　嚥下能力に合わせた介助方法、口腔ケアを実践できる |
| | 31. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　機械浴介助、シャワー浴、個浴、足浴の実施<br>　ベッド上の洗髪<br><br>到達目標<br>　利用者の能力に合わせた入浴方法で身体の生活を保つことができる。<br>　ベット上で洗髪お行う方法を理解する |
| | 32. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　機械浴介助、シャワー浴、個浴、足浴の実施<br>　ベッド上の洗髪<br><br>到達目標<br>　利用者の能力に合わせた入浴方法で身体の生活を保つことができる。<br>　ベット上で洗髪お行う方法を理解する |
| | 33. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　機械浴介助、シャワー浴、個浴、足浴の実施<br>　ベッド上の洗髪<br><br>到達目標<br>　利用者の能力に合わせた入浴方法で身体の生活を保つことができる。<br>　ベット上で洗髪お行う方法を理解する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 34. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　機械浴介助、シャワー浴、個浴、足浴の実施<br>　ベッド上の洗髪<br><br>到達目標<br>　利用者の能力に合わせた入浴方法で身体の生活を保つことができる。<br>　ベット上で洗髪お行う方法を理解する |
| | 35. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　機械浴介助、シャワー浴、個浴、足浴の実施<br>　ベッド上の洗髪<br><br>到達目標<br>　利用者の能力に合わせた入浴方法で身体の生活を保つことができる。<br>　ベット上で洗髪を行う方法を理解する |
| | 36. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　機械浴介助、シャワー浴、個浴、足浴の実施<br>　ベッド上の洗髪<br><br>到達目標<br>　利用者の能力に合わせた入浴方法で身体の生活を保つことができる。<br>　ベット上で洗髪お行う方法を理解する |
| | 37. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　総合実技演習、事例を通して適切な介護方法を考える<br><br>到達目標<br>　事例をもとに、自立支援・尊厳など学んだ生活支援技術を組み立てることができる。 |
| | 38. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　総合実技演習、事例を通して適切な介護方法を考える<br><br>到達目標<br>　事例をもとに、自立支援・尊厳など学んだ生活支援技術を組み立てることができる。 |
| | 39. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　総合実技演習、事例を通して適切な介護方法を考える<br><br>到達目標<br>　事例をもとに、自立支援・尊厳など学んだ生活支援技術を組み立てることができる。 |
| | 40. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　総合実技試験<br><br>到達目標<br>　事例をもとに学んだ生活支援技術を組み立て実施できる |
| | 41. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　総合実技試験<br><br>到達目標<br>　事例をもとに学んだ生活支援技術を組み立て実施できる |
| | 42. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　総合実技試験<br><br>到達目標<br>　事例をもとに学んだ生活支援技術を組み立て実施できる |
| | 43. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 演習 | 内　　容　実技試験のふり返り<br><br>到達目標<br>　課題の状況を考え、適切な介護を考える。 |
| | 44. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 講義 | 内　　容　終末期の介護　死後のケア<br><br>到達目標<br>　身体的、精神的、社会的な側面より終末期を考えることができる。 |
| | 45. | 齊藤<br>宮里<br>中島 | 試験 | 内　　容　定期試験<br><br>到達目標<br>　学んだ内容を理解度を測る |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 50% | 0% | 0% | 50% | 0% | | 100% |
| 教科書 | 中央法規出版株式会社　介護福祉士養成講座　生活支援技術６巻　７巻 | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 積極的に演習授業に臨むこと。 |

| 科目名 | 【生活支援技術Ⅳ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 藤原記代子・中島たまみ | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 通年 | 演習 | 2 単位 | 30 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | 藤原：生活を支える視点で、食支援が出来る専門職を目指す。高齢者・障害者にとっての「食」のあり方を、科目「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」「障害の理解」等と関連付け、様々な対象者に応じた食支援についての基礎知識・技術を身につける。自らバランスを考慮した献立を考え、調理できる能力を習得できる。<br><br>中島：①疾病や障害を持つ利用者に、介護福祉士が果たすべき役割を学ぶ。<br>②利用者とその家族が、安全で、安心して　日常生活を送ることができるよう、医療職との連携も踏まえ具体的な生活支援方法を習得する。特に障害に応じた生活支援技術について、知識・技術の習得をする。 |
| 到達目標 | 藤原：①食生活を通して、高齢者・障害者の特性を理解する事が出来る |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 藤原：管理栄養士として、病院や社会福祉施設・栄養士養成施設で従事した経験を活かし、「健康に生きること」を「食」を通して一緒に考え実践に繋げていく。<br>職業人として、対象者のみならず、受講者自身のQOL向上が図れるような視点をも養って頂きたい。<br><br>中島：病棟・訪問看護師、介護支援専門員としての実務経験を踏まえ、利用者と家族が抱える不安、介護福祉職への要望などを伝えていく。<br>そして、私たち介護専門職がすべき支援内容(支援技術)を具体的に考え、実践に結びつけることができるように演習を進める。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 中島 | 講義 | 内　　容　障害に応じた生活支援とは<br><br>到達目標<br>障害や疾病とともに生活する人の背景を理解する<br>「生活支援」を行う意義（目的）を理解する<br>多職種連携の意義（目的）を理解する |
| | 2. | 中島 | 講義 | 内　　容　内部障害に応じた介護（心臓機能障害等） |
| | 3. | 中島 | 講義 | 内　　容　内部障害に応じた介護（腎臓機能障害等） |
| | 4. | 中島 | 講義 | 内　　容　内部障害に応じた介護（呼吸器機能障害等）<br><br>到達目標<br>心臓機能障害について医学的・心理的側面から理解する<br>心臓機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する<br>心臓機能障害のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 5. | 中島 | 講義 | 内　　容　内部障害に応じた介護（膀胱・直腸臓機能障害等）<br><br>到達目標<br>腎臓機能障害について医学的・心理的側面から理解する<br>腎臓機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する<br>腎臓機能障害のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 6. | 中島 | 講義 | 内　　容　聴覚・言語障害に応じた介護<br><br>到達目標<br>聴覚・言語について医学的・心理的側面から理解する<br>聴覚・言語のある人の生活上の困りごとを理解する<br>聴覚・言語のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 7. | 中島 | 講義 | 内　　容　視覚障害に応じた介護<br><br>到達目標<br>視覚障害について医学的・心理的側面から理解する<br>視覚障害のある人の生活上の困りごとを理解する<br>視覚障害のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 8. | 中島 | 演習 | 内　　容　視覚障害に応じた介護（ガイドヘルプなど）<br><br>到達目標<br>視覚障害の人の日常生活などの状況を理解する<br>視覚障害のある人への支援について理解する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 9. | 中島 | 講義 | 内　　容　肢体不自由に応じた介護<br><br>到達目標<br>肢体不自由について医学的・心理的側面から理解する<br>肢体不自由のある人の生活上の困りごとを理解する<br>肢体不自由のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 10. | 中島 | 演習 | 内　　容　肢体不自由に応じた介護-2（事例、福祉用具など） |
| | 11. | 中島 | 講義 | 内　　容　知的障害に応じた介護<br><br>到達目標<br>知的障害について医学的・心理的側面から理解する<br>知的障害のある人の生活上の困りごとを理解する<br>知的障害のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 12. | 中島 | 講義 | 内　　容　発達障害に応じた介護<br><br>到達目標<br>発達障害について医学的・心理的側面から理解する<br>発達障害のある人の生活上の困りごとを理解する<br>発達障害のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 13. | 中島 | 講義 | 内　　容　精神障害に応じた介護<br><br>到達目標<br>精神障害について医学的・心理的側面から理解する<br>精神障害のある人の生活上の困りごとを理解する<br>精神障害のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 14. | 中島 | 講義 | 内　　容　精神障害に応じた介護<br><br>精神障害について医学的・心理的側面から理解する<br>精神障害のある人の生活上の困りごとを理解する<br>精神障害のある人への支援において多職種のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する |
| | 15. | 中島 | 講義 | 内　　容　定期試験<br><br>到達目標<br>障害によって引き起こされる「生活のしづらさ」、障害や疾病の特性に応じた支援技術、障害者の個別性をとらえ、生活場面に応じた適切な支援などの基礎知識を習得する |
| | 16. | 藤原 | 講義 | 内　　容　当教科の目的、食生活について、栄養素について<br>実習に先立ち、栄養・食品・調理学についての基礎知識を、図表も用いながら解説する。<br><br>到達目標<br>次回からの実習が不安なくスムーズに導入できるよう、基礎知識や技術習得に向けた準備をする事が出来る。 |
| | 17. | 藤原 | 講義 | 内　　容　食品について、食の安全性、調理と設備、次回からの実習について<br>実習に先立ち、栄養・食品・調理学についての基礎知識を、図表も用いながら解説する。<br><br>到達目標<br>次回からの実習が不安なくスムーズに導入できるよう、基礎知識や技術習得に向けた準備をする事が出来る。 |
| | 18. | 藤原 | 講義 | 内　　容　実習1(調理の基礎・日本食)についての説明<br>対象者の健康維持を目的に、日本食の基礎調理を学ぶ。配布プリントに沿って進める。<br>具体的には、調理器具説明・食品の取り扱い・作り方説明などである。<br><br>到達目標<br>今回のテーマの主旨を理解し、安全を意識しながら実習に臨む準備が出来る。 |
| | 19. | 藤原 | 実習 | 内　　容　実習１(調理の基礎・日本食)<br>実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切砕・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。<br>グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる。<br><br>到達目標<br>実習の一連の流れを理解し、安全にグループで協力し実習する事が出来る。<br>まとめワークシートについては、食事バランスを理解しグループで相談・記入する事が出来る。 |
| | 20. | 藤原 | 講義 | 内　　容　実習２(調理の基礎・洋食)についての説明<br>日本食以外の食文化を理解する事を目的に、洋食の基礎調理を学ぶ。配布プリントに沿って進める。具体的には、日本食との違い・食品の取り扱い・作り方説明などである。<br><br>到達目標<br>今回のテーマを理解し、特に前回実習(日本食)との違いを見つけて実習に臨む事が出来る。 |
| | 21. | 藤原 | 実習 | 内　　容　実習２(調理の基礎・洋食)<br>実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切砕・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。<br>グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる。<br><br>到達目標<br>実習の内容を理解し、グループで協力し実習する事が出来る。まとめワークシートについては、食事バランスを理解して前回実習(日本食)との違いも考察する事が出来る。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 22. | 藤原 | 講義 | 内　　容　実習３(摂食嚥下機能低下)についての説明<br>摂食嚥下機能低下について講義で復習し、具体的な咀嚼・嚥下に配慮する方法について学ぶ。<br>配布プリントに沿って進める。<br><br>到達目標<br>今回のテーマについて、対象者に配慮した食事(嚥下調整食)作りや介助の方法を、理論として習得出来る。 |
| | 23. | 藤原 | 実習 | 内　　容　実習３(摂食嚥下機能低下)<br>準備・材料の洗浄・材料の切砕・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。<br>実際に、普通食と嚥下調整食を作り、食べ比べてみる。その内容をワークシートにまとめる。<br><br>到達目標<br>今回のテーマを理解し、実習する事が出来る。試食を通して、摂食嚥下機能低下について習得し、また対象者に寄り添った支援に繋げる事が出来る。 |
| | 24. | 藤原 | 講義 | 内　　容　実習４(生活習慣病予防の食事その1)についての説明<br>特定栄養素の過剰が原因で発症する生活習慣病について、実習４ではエネルギーコントロール・塩分コントロール食を取り上げる。配布プリントに沿って進める。<br><br>到達目標<br>生活習慣病予防について理解し、バランスよく食事摂取する事の重要性が習得できる。 |
| | 25. | 藤原 | 実習 | 内　　容　実習４(生活習慣病予防の食事その1)<br>実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切砕・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。<br>グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる。<br><br>到達目標<br>エネルギーコントロールや塩分コントロールが必要な生活習慣病について、その予防策を理解できる。まとめワークシートを通し、疾病予防の食品選定について理解できる。 |
| | 26. | 藤原 | 講義 | 内　　容　実習５(生活習慣病予防の食事その2)についての説明<br>特定栄養素の不足が原因で発症する生活習慣病について、実習５ではカルシウムアップ・鉄分アップ食を取り上げる。配布プリントに沿って進める。<br><br>到達目標<br>生活習慣病予防について理解し、不足なくしっかり食事摂取する事の重要性を習得できる。 |
| | 27. | 藤原 | 実習 | 内　　容　実習５(生活習慣病予防の食事その２)<br>実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切砕・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。<br>グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる。<br><br>到達目標<br>カルシウムや鉄分の不足が引き起こす生活習慣病について、その予防策を理解できる。<br>まとめワークシートを通し、疾病予防の食品選定について理解できる。 |
| | 28. | 藤原 | 実習 | 内　　容　実習６(応用実習)<br>実習４～５の授業内で準備を進め、各グループで検討したテーマ・そのテーマに沿って立案した献立と食品選定について、実際に各グループで実習する。<br><br>到達目標<br>グループで事前に検討した内容を共通認識し、グループでその目標に向かって協力できる。 |
| | 29. | 藤原 | 実習 | 内　　容　実習６(応用実習)<br>各グループで実習した内容について、テーマ・献立・留意した事などを、発表する。試食する。<br><br>到達目標<br>当授業で得られた知識や技術を総動員し、まとめた内容を他者へ発表出来る。<br>他のグループの発表を聴く事で、知識を共有できる。 |
| | 30. | 藤原 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 60% | 0% | 30% | 0% | 10% | | 100% |
| | 70% | 20% | 10% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 藤原：最新介護福祉士養成講座「生活支援技術1.2.3」(中央法規出版)<br>中島：「新・介護福祉講座　８　生活支援技術Ⅲ」　中央法規出版 |
| 参考文献 | 藤原：「食と健康の科学」(建帛社)・「生活支援のための調理実習」(建帛社)<br>中島：※必用に応じ参考資料配布する |
| その他<br>（留意点等） | 藤原：成績評価ンお内w家(定期試験30，提出物15，グループでの発表5)<br><br>加熱器具や包丁を使用し危険が伴う為、緊張感をもって実習に臨むこと<br>動きやすく衛生を考慮した服装を準備する<br><br>中島：受講後は、復習を心掛ける。必要に応じて、持ち物や服装を整える |

| 科目名 | 【介護過程Ⅲ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 宮里　裕子　西村　圭司 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 前期 | 演習 | 2 単位 | 30 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①情報収集をもとに、利用者一人ひとりの生活課題を抽出し、その課題をもとに介護計画を作成し、実施して評価を行う。<br>ほかの関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を、実際の利用者支援に向けて考え、個別計画を具体的に実現する方法を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）を通して生活課題を抽出できる。<br>②長期目標・短期目標、具多的な介護方法を考え計画を立案できる。<br>③介護計画の実施・評価を実践することができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士として長年介護現場で勤めており、実際の福祉制度・介護の変遷の現状を伝える事ができる。<br>高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>オリエンティーション　1年時のふり返り<br>介護過程Ⅰ・Ⅱの復習、情報収集内容の確認<br><br>到達目標<br>これから行う介護過程の展開の理解ができる。 |
| | 2. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>オリエンティーション　1年時のふり返り<br>介護過程Ⅰ・Ⅱの復習、情報収集内容の確認<br>グループメンバーの発表<br><br>到達目標<br>これから行う介護過程の展開の理解ができる。 |
| | 3. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>情報の解釈・関連づけ・統合化①　グル―プ内で各アセスメントの発表<br><br>到達目標<br>情報を関連付けして考えることができる |
| | 4. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>情報の解釈・関連づけ・統合化①　グループの事例を決定する<br><br>到達目標<br>情報を関連付けして考えることができる |
| | 5. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>情報の解釈・関連づけ・統合化②　ICF作成で関連付けを考える<br><br>到達目標<br>情報を関連付けして考えることができる |
| | 6. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>情報の解釈・関連づけ・統合化②　ICF作成で関連付けを考える<br><br>到達目標<br>情報を関連付けして考えることができる |
| | 7. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>生活課題、優先順位の検討<br><br>到達目標<br>統合化で課題を抽出することができる |
| | 8. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>生活課題、優先順位の検討<br><br>到達目標<br>統合化で課題を抽出することができる |
| | 9. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>介護計画の立案<br><br>到達目標<br>介護計画を考えられる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>介護計画の立案<br><br>到達目標<br>介護計画を考えられる |
| | 11. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>目標の設定、長期目標・短期目標を見出す<br><br>到達目標<br>目標の考え方を理解できる |
| | 12. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>目標の設定、長期目標・短期目標を見出す<br><br>到達目標<br>目標の考え方を理解できる |
| | 13. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>具体的な支援内容と方法<br><br>到達目標<br>具体的な手順書を作成できる |
| | 14. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>具体的な支援内容と方法<br><br>到達目標<br>具体的な手順書を作成できる |
| | 15. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>グループメンバーで手順書に添って実施と評価<br><br>到達目標<br>適切に評価を判断できる |
| | 16. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>グループメンバーで手順書に添って実施と評価<br><br>到達目標<br>適切に評価を判断できる |
| | 17. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する①<br><br>到達目標<br>介護過程が展開できる |
| | 18. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する①<br><br>到達目標<br>介護過程が展開できる |
| | 19. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する②<br><br>到達目標<br>介護過程が展開できる |
| | 20. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する②<br><br>到達目標<br>介護過程が展開できる |
| | 21. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する③<br><br>到達目標<br>介護過程が展開できる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 22. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する③<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 23. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する④<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 24. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する④<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 25. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する⑤<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 26. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する⑤<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 27. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する⑥<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 28. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する⑥<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 29. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>　介護過程の展開の理解　グル―プワーク<br>　アセスメント⇒ 介護計画の立案⇒ 実施⇒ 評価を実施する⑦<br><br>到達目標<br>　介護過程が展開できる |
| | 30. | 宮里<br>西村 | 試験 | 内　　容　定期試験<br><br>到達目標<br>　学習後の習得度の確認 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座９　介護過程２版　中央法規出版株式会社 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | |

| 科目名 | 【介護過程Ⅳ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 宮里　裕子　　西村　圭司 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 後期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | 実習の課題として、介護過程の展開を実践した内容を振り返り、発表という形で専門職としての知識・技術の確認を行う。<br>介護過程の展開、発表をとおして利用者の生活を見つめ、再構築する支援を計画できる。<br>抄録作成と発表のPowerpoint作成を通じて伝える力をつける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①利用者の望む生活を考え、介護過程の実践ができる。<br>②多職種協働における介護福祉士の役割を説明できる。<br>③自ら実践した介護過程の展開について発表することができる。<br>④他の学生の取り組みを通して自己評価を行う。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 長年介護現場に従事してきた経験を通し、利用者の望む生活の現実のために、学生と一緒に介護過程の展開を図っていく。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 宮里<br>西村 | 講義 | 内　　容<br>第三段階実習のふり返り、抄録作成の目的と説明<br>発表用のPowerpointの説明<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめることができる |
| | 2. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>抄録集の作成<br>発表用のPowerpoint作成①<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表の準備ができる |
| | 3. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>抄録集の作成<br>発表用のPowerpoint作成②<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表の準備ができる |
| | 4. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>抄録集の作成<br>発表用のPowerpoint作成③<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表の準備ができる |
| | 5. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>抄録集の作成<br>発表用のPowerpoint作成④<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表の準備ができる |
| | 6. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>介護過程の実践報告　発表①<br>司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 7. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>介護過程の実践報告　発表②<br>司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 8. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>介護過程の実践報告　発表③<br>司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 9. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>介護過程の実践報告　発表④<br>司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>　介護過程の実践報告　発表⑤<br>　司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>　自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>　他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 11. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>　介護過程の実践報告　発表⑥<br>　司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>　自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>　他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 12. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>　介護過程の実践報告　発表⑦<br>　司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>　自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>　他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 13. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>　介護過程の実践報告　発表⑧<br>　司会・タイムキーパー交代とする<br><br>到達目標<br>　自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>　他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 14. | 宮里<br>西村 | 演習 | 内　　容<br>　介護過程の実践報告　発表⑨<br>　司会・タイムキーパー交代とする<br>　発表の総評<br><br>到達目標<br>　自身の介護過程の展開をまとめ発表ができる<br>　他者の発表に対して、気になる事・意見など自分の考えを言うことができる |
| | 15. | 宮里<br>西村 | 試験 | 内　　容　定期試験<br><br>到達目標<br>　学習後の習得度の確認 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 60% | 0% | 20% | 0% | 20% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新　介護福祉士養成講座９　介護過程２版　中央法規出版株式会社 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 発表は、各学生の実習先施設のご担当者様が参加できるようにzoomの提示をする。 |

| 科目名 | 【介護総合演習Ⅲ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 岡本　啓介 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 前期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①1年次の学内学習及び施設実習で学びを振り返り、評価した上で自己理解を深める。<br>②介護福祉士に求められる資質、適正、技能、応用力について総合的に習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①これまでの実践で得た知識、技術、倫理観や学内での学びを統合化し、介護現場における実践力を高めることができる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として20年以上の指導経験がある。<br>現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。<br>それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え乗り越えていくための授業を行う。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 岡本 | 演習 | 内　　容　オリエンテーション（介護実習Ⅲとは）<br>到達目標<br>介護実習Ⅲの意義と目的について理解する。<br>また、介護実習Ⅲで行うことについて理解する。 |
| | 2. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備①<br>到達目標<br>介護実習Ⅲで行く実習先の概要について調べる。 |
| | 3. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備②<br>到達目標<br>実習の目標（様式１－３）を作成できる。 |
| | 4. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備③<br>到達目標<br>介護実習Ⅲで使う実習ノートの書き方を理解できる① |
| | 5. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備④<br>到達目標<br>介護実習Ⅲで使う実習ノートの書き方を理解できる② |
| | 6. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備⑤<br>到達目標<br>介護実習Ⅲで使う実習ノートの書き方を理解できる③ |
| | 7. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備⑥<br>到達目標<br>実習指導者懇談会 |
| | 8. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備⑥<br>到達目標<br>実習指導者懇談会 |
| | 9. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲに向けての準備⑦<br>到達目標<br>介護実習Ⅲに向けての最終確認を行うことができる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習帰校日1日目－① |
| | 11. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習帰校日1日目－② |
| | 12. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習帰校日２日目－① |
| | 13. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習帰校日２日目－② |
| | 14. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習のまとめ |
| | 15. | 岡本 | 演習 | 内　　容　実習のまとめ |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | 実習ノート | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0% | 0% | 40% | 0% | 60% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版 |
| 参考文献 | 「実習要項」日本福祉教育専門学校　介護福祉学科 |
| その他<br>（留意点等） | ・この科目の欠席回数が1/5を超えたとき、原則、実習配置をしません。<br>・お礼状作成に必要な物品（便せん、封筒、切手）は各人で用意してください。<br>・講義の進度により、講義内容が変更になる場合があります。 |

| 科目名 | 【介護総合演習Ⅳ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 岡本　啓介 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 後期 | 演習 | 1単位 | 15 回 |
| 授業の目的（ねらい） | ①介護実習III(第3段階実習)の学びを振り返り、自己評価する。<br>②実習報告会を実施することで、学びの共有と福祉現場の視野を広める。<br>③知識・技術・実習の総合的な学びから介護福祉士に求められる資質を確認し、また、自らの課題を発見し解決していく過程を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①これまでの実践で得た知識、技術、倫理観や学内での学びを統合し、介護現場における実践力を高めることができる。<br>②専門職に必要な資質を向上させ、目指すべき介護福祉士像を明らかにできる。 | | | | | | |
| 実務経験と授業内容への活用 | 介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として20年以上の指導経験がある。<br>現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。<br>それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え乗り越えていくための授業を行う。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 岡本 | 演習 | 内　　容　オリエンテーション（介護実習Ⅲの振り返り①）<br>到達目標<br>介護実習Ⅲの自身の実習を振り返り、目標の達成度合いや自己課題を整理することができる。 |
| | 2. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲの振り返り②<br>到達目標<br>前回の振り返りをもとに、グループで情報や状況、反省点を共有し、次の実習に向けての取り組みを考えることができる。 |
| | 3. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲの振り返り③<br>到達目標<br>グループで共有したことをクラス発表し、全員でシェアできる。 |
| | 4. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲの振り返り④<br>到達目標<br>実習ノートを完成させ、施設への提出準備を整えられる。 |
| | 5. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成①<br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| | 6. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成②<br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| | 7. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成③<br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| | 8. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成④<br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| | 9. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成⑤<br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成⑥<br><br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| 11. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成⑦<br><br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| 12. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成⑧<br><br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| 13. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成⑨<br><br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| 14. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書作成⑩<br><br>到達目標<br>介護実習Ⅲ全体を振り返り、自身の体験と実施内容、課題等を他者にわかりやすく伝えるすべを身につける（報告内容の吟味、書面の作成、発表方法などを具体的に実施できる）。 |
| 15. | 岡本 | 演習 | 内　　容　介護実習Ⅲ報告書提出<br><br>到達目標<br>介護実習Ⅲの報告書をクラス全員の成果物として学校に残すことができる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | 実習ノート | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0% | 0% | 40% | 0% | 60% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版 |
| 参考文献 | 「実習要項」日本福祉教育専門学校　介護福祉学科 |
| その他<br>（留意点等） | ・お礼状作成に必要な物品（便せん、封筒、切手）は各人で用意してください。<br>・講義の進度により講義内容が変更になる場合があります。<br>・実習報告会は土曜日開催など、授業時間以外の登校を求める場合もあることを、あらかじめご承知おきください。 |

| 科目名 | 【介護実習Ⅲ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 学科専任 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 通年 | 実習 | 7単位 | 210時間 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | 1. 個々の利用者の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。<br>2. 利用者の課題を明確にする為、介護計画の作成、実施後の評価、これを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる個別ケアの実践力を修得する。 |
| 到達目標 | ①利用者が求めるニーズを理解し適切な介護を展開する能力を養う。<br>②個々の利用者を理解し適切な介護サービスが展開できる<br>③利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程が展開できる<br>④多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する<br>⑤他科目で学習した知識や技術を総合具体的な介護サービスの基本となる実践力を修得する。<br>⑥介護福祉士としての自己を明確にする。<br>⑦介護福祉に関する研究的態度を養う。 |
| 実習の方法 | 実習期間：8月～9月 計 27 日間<br>（開始時間・終了時間は各施設に一任・変則勤務あり） |
| 授業計画 | 実習の流れ |
| | 1. 介護実習Ⅲの準備等は「介護総合演習Ⅲ」で行う。 |
| | 2. 施設の実習内容、予定に沿って進める。 |
| | 3. 日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す。 |
| | 4. 介護過程を展開する為の情報収集・アセスメント・計画・実施・評価を実践するにあたり、その利用者の選定について指導者の助言を受ける。 |
| | 5. 介護過程を展開の進捗状況を適宜、指導者に報告する。 |
| | 6. 担当教員の巡回時に指導を受ける。 |
| | 実習施設：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者入所施設など |

| 成績評価 | 実習先評価 | 学校評価 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 70% | 30% | | | | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「実習要項」日本福祉教育専門学校 |
| 参考文献 | 「新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版 |
| その他<br>（留意点等） | 実習要項に則って実習が実施できない場合、単位取得ができなくなる可能性があります。 |

| 科目名 | 【認知症の理解Ⅱ】 |
|---|---|
| 担当者 | 齊藤　美由紀 |

| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①認知症の理解Ⅰで習得した基礎知識をもとに、専門職として認知症介護実践の基礎的技術を身に付ける。<br>②認知症の人のみならず、その家族の課題を理解し、課題に応じた支援を実践できる力を身に付ける。<br>③介護福祉士として認知症の人を地域で支える取り組みやサポート体制について考える力を養う。 |
| 到達目標 | ①認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを行うことができる。<br>②認知症ケアの理念を踏まえ、本人主体に基づいた認知症ケアの実践ができる。<br>③認知症の人を支える家族のさまざま課題について理解し、家族の状況や介護力に応じた支援ができる。<br>④認知症の人が住み慣れた地域で、その人らしく暮らせるサポート体制やプランを考えることができる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた様々な経験を通し、実際の事例を交えながらの授業とする。<br>また、理想論だけでなく現実論も重視し、学んだ知識を介護実践においてどのように活かしていくのか、学生がより深くイメージできるよう授業を進めていく。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション/認知症の理解Ⅰの基礎知識の確認<br>本科目を学ぶ意義、学習内容、学習方法についての説明を行う。認知症ケア実践に必要な基礎知識（認知症の理解Ⅰで学習した内容）がどこまで習得できているかの確認を行う。<br>到達目標<br>本科目において何を学ぶ必要があるのかを理解すると共に、認知症の人を支援する際に必要な基礎知識の習得度の確認を行い、基礎知識をしっかり身に付ける。 |
| | 2. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　認知症による体験の理解/認知症ケアの理念と視点<br>認知症の人が体験している世界を理解し、認知症ケアの理念と視点について学ぶ。<br>到達目標<br>認知症の人が体験している世界とは、私達が体験している世界と異なることを心から理解し、その上で、認知症ケアの理念や倫理に基づくケアを実践することができる。 |
| | 3. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　認知症の人の思い<br>認知症の人の思いを理解し、当事者の視点からのケア方法について学ぶ。<br>到達目標<br>認知症の人はどのような思いを抱いているのかを理解し、当事者の思いに寄り添ったケアを考え、実践することができる。 |
| | 4. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　パーソン・センタード・ケア<br>パーソン・センタード・ケアの内容や方法について学ぶ。<br>到達目標<br>パーソン・センタード・ケアの内容や方法、認知症の人の心理的ニーズを理解し、パーソン・センタード・ケアを実践することができる。 |
| | 5. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　アセスメントの視点<br>認知症の人の言動の背景に隠れている事柄（要因）と、アセスメントの視点について学ぶ。<br>到達目標<br>認知症の人の言動の背景にはどのような要因があるかについて理解し、様々な視点から個別の要因分析を行うことができる。 |
| | 6. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　アセスメントツール<br>アセスメントツールの種類や内容、活用方法について学ぶ。<br>到達目標<br>アセスメントツールを用いて、認知症の人のアセスメントを行うことができる。 |
| | 7. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　認知症の人へのケア①<br>認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた様々なケア方法について検討する。<br>到達目標<br>認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた、適切なケアを実践することができる。 |
| | 8. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　認知症の人へのケア②<br>認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた様々なケア方法について検討する。<br>到達目標<br>認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた、適切なケアを実践することができる。 |
| | 9. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　認知症の人へのケア③（ゲストスピーカー）<br>認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた様々なケア方法について検討する。<br>到達目標<br>認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた、適切なケアを実践することができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　認知症の人へのさまざまなアプローチ<br>ユマニチュード、バリデーション、その他のアプローチ法について学ぶ。<br><br>到達目標<br>さまざまなアプローチ法について理解し、認知症の人の能力を引き出しながら、より良い関係づくりを目指したアプローチができる。 |
| 11. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　終末期の介護/家族介護者への支援<br>終末期における認知症の人の特徴を学ぶ。<br>また、認知症の人を支える家族介護者の現状と課題を知る。<br><br>到達目標<br>認知症の人の終末期の特徴を理解した終末期介護を実践することができる。<br>家族介護者の心の葛藤や心理過程を理解し、家族の状況に応じた家族支援を行うことができる。 |
| 12. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　地域包括ケアシステムにおける認知症ケア<br>国の認知症施策の成立経緯や内容等について学ぶ。<br><br>到達目標<br>地域包括ケアシステムにおける認知症施策について理解し、それらの施策に基づいた支援を実践することができる。 |
| 13. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　地域で認知症の人を支えるプランづくり<br>自分の住む地域で認知症の人を支えるプラン作りを行う。<br><br>到達目標<br>認知症の人が住み慣れた地域で、まだ持つ能力や本来の力を発揮しながら、その人らしく暮らせるためのプランを考えると共に、その支援を行うことができる。 |
| 14. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　グループ発表/今講義まとめ<br>第13回で作成したプランの発表と、今講義で学んだ内容のまとめを行う。<br><br>到達目標<br>第13回まで学んだ知識を活かし、認知症の人一人ひとりの生命、尊厳を重視した、認知症ケアの実践ができる。 |
| 15. | 齊藤 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 20% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新・介護福祉士養成講座13「認知症の理解」第2版 中央法規 2022年 |
| 参考文献 | 授業の中で適宜示すこととする。 |
| その他<br>（留意点等） | 実践力を身につけるため、積極的にグループワークと演習に参加すること。<br>講義の進度やゲストスピーカーの都合等により、講義日程や内容が変更になる場合がある。 |

| 科目名 | 【障害の理解Ⅱ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 大石　恵子 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①障害のある人の心理について学ぶ。<br>②障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①障害受容の過程を理解する。<br>②障害受容の段階に応じた心理的支援の方法を説明できる。<br>②障害にはどのような種類があるかを説明できる。<br>③それぞれの障害の特性を説明できる。<br>④それぞれの障害の特性に応じた支援の方法を説明できる。 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 常勤看護師として急性期病棟、療養型病棟、緩和ケア病棟、訪問看護等において約26年間、非常勤看護師として介護施設等に約6年間勤務し、様々な障害のある人と様々な現場で関わった実務経験をもとに、事例も交え、授業を行う。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 大石 | 講義 | 内　　容　　オリエンテーション<br>この科目で学ぶ内容を確認する。<br>「障害」という言葉を聞いて、どのようなイメージや感情が浮かぶか、グループで話し合う。<br><br>到達目標<br>自分自身は現段階で、「障害」について、どのようなイメージや感情を持っているのか、確認することができる。 |
| | 2. | 大石 | 講義 | 内　　容　　障害のある人の心理<br>大切なものを失ったとき、人はどのように気持ちを安定させようとするのか、学ぶ。<br>自分自身はどんな希望を持ち生きているのか、その希望が断たれたら、どんな気持ちになるか想像するワークを行う。<br><br>到達目標<br>「障害」をもつ人へ関わる時には、どんなことに気をつけるか、考えることができる。 |
| | 3. | 大石 | 講義 | 内　　容　肢体不自由（運動機能障害）<br>「体が動く」しくみを学ぶ。<br>「体が動く」が障害されるおもな疾患と、支援の方法を学ぶ。<br><br>到達目標<br>肢体不自由（運動機能障害）がおこる、おもな病気やけがには何があるか、言えるようになる |
| | 4. | 大石 | 講義 | 内　　容　　視覚障害<br>「見る」しくみを学ぶ。<br>「見る」が障害されるおもな疾患と、支援の方法を学ぶ。<br><br>到達目標<br>視覚障害がおこる、おもな病気やけがには何があるか、言えるようになる。 |
| | 5. | 大石 | 講義 | 内　　容　　聴覚・言語障害<br>「聞く」「話す」しくみを学ぶ。<br>「聞く」「話す」が障害されるおもな疾患と、支援の方法を学ぶ。<br><br>到達目標<br>聴覚・言語障害がおこる、おもな病気やけがには何があるか、言えるようになる。 |
| | 6. | 大石 | 講義 | 内　　容　　重複障害<br>二つ以上の障害をあわせもつ人もいることを学ぶ。<br>盲ろう者のコミュニケーションの方法について、動画の視聴も行う。<br><br>到達目標<br>その人の障害の種類・程度に合わせてコミュニケーション方法を工夫することが重要であることを理解できる。 |
| | 7. | 大石 | 講義 | 内　　容　　内部障害①<br>心臓、呼吸器の機能障害があると、どんな症状が出るかを学ぶ。<br>心臓、呼吸器に機能障害をもつ人の日常生活で気をつけることを学ぶ。<br><br>到達目標<br>息苦しさが起こりにくい介護の方法を、説明することができる。 |
| | 8. | 大石 | 講義 | 内　　容　　内部障害②<br>消化器、泌尿器、免疫に機能障害があると、どんな症状が出るかを学ぶ。<br>消火器、泌尿器、免疫に機能障害をもつ人の日常生活で気をつけることを学ぶ。<br><br>到達目標<br>透析、ストーマなどの医療処置を受けながら生活する利用者の介護について説明できる。 |
| | 9. | 大石 | 講義 | 内　　容　　知的障害<br>知的機能に障害をもつと、日常生活にはどんな影響が出るのかを学ぶ。<br>知的障害をもつ人のライフステージに合わせた支援の方法について学ぶ。<br><br>到達目標<br>知的障害をもつ人への支援では何が大切なのか説明できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 大石 | 講義 | 内　　容　　精神障害<br>　精神障害にはどんな種類があり、それぞれどんな特性があるのかを学ぶ。<br>　障害の特性に合わせた支援について学ぶ。<br><br>到達目標<br>　精神障害をもつ人への支援では何が大切なのか説明できる。 |
| | 11. | 大石 | 講義 | 内　　容　　高次脳機能障害<br>　高次脳機能障害の原因、主な症状を学ぶ。<br>　障害の特性に合わせた支援について学ぶ。<br><br>到達目標<br>　高次脳機能障害をもつ人への支援では何が大切なのか説明できる。 |
| | 12. | 大石 | 講義 | 内　　容　　発達障害<br>　発達障害にはどんな種類があり、それぞれどんな特性があるのかを学ぶ。<br>　障害の特性に合わせた支援について学ぶ。<br><br>到達目標<br>　発達障害をもつ人への支援では何が大切なのか説明できる。 |
| | 13. | 大石 | 講義 | 内　　容　　重症心身障害<br>　重い肢体不自由（運動機能障害）と重い知的障害をあわせもつ、重症心身障害の特性を学ぶ。<br>　重症心身障害児者への介護について、動画の視聴も行う。<br><br>到達目標<br>　重症心身障害をもつ人への支援では何が大切なのか説明できる。 |
| | 14. | 大石 | 講義 | 内　　容　　難病<br>　難病の定義を学ぶ。<br>　主な難病とそれぞれの症状、特性に合わせた支援の方法について学ぶ。<br><br>到達目標<br>　難病とはどんなものかを説明できる。 |
| | 15. | 大石 | 講義 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 20% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新介護福祉士養成講座14 障害の理解 第2版』（中央法規出版、2022年） |
| 参考文献 | 落合三枝子編著『島田療育センター重症心身障害児者の療育＆日中活動マニュアル』（日総研出版、2019年） |
| その他<br>（留意点等） | ・意見や感想を、積極的に、話してほしいです。<br>・状況により、内容や順を修正する可能性があります。 |

| 科目名 | 【こころとからだのしくみⅢ】 |
|---|---|
| 担当者 | 金城　隆 |

| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①人間の休息・睡眠医関連したこころとからだのしくみについて学ぶ。<br>②人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて学ぶ。 |
| 到達目標 | ①睡眠のしくみ・睡眠障害・快適な睡眠への支援が答えられる。<br>②終末期のおける心身の変化・死の捉え方について答えられる。<br>③死や終末期における自分の価値観・考えを述べることができる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。<br>・現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。<br>・人間の生活場面の応じたこころとからだのしくみや観察のポイントなどを実例を交え講義する。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 金城 | 講義 | 内　　容　1年次のこころとからだのしくみのしくみの復習（循環器・消化器・脳）<br><br>到達目標<br>・基本的な心臓及び循環器の機能・しくみが理解できる<br>・基本的な脳の機能・しくみが理解できる<br>・基本的な消化器官の役割・機能が理解できる |
| | 2. | 金城 | 講義 | 内　　容　1年次のこころとからだのしくみの復習（骨格・関節系）<br><br>到達目標<br>・基本的な骨格・関節系の機能・しくみが理解できる |
| | 3. | 金城 | 講義 | 内　　容　睡眠の意義・しくみ<br><br>到達目標<br>・睡眠の意義を理解できる<br>・レム睡眠とノンレム睡眠を理解できる<br>・体内時計とメラトニンの関係を理解できる |
| | 4. | 金城 | 講義 | 内　　容　睡眠の質を高めるために<br><br>到達目標<br>・睡眠の質を高める環境を理解できる<br>・睡眠の質を高める生活習慣を理解できる |
| | 5. | 金城 | 講義 | 内　　容　加齢・心身の変化が睡眠に及ぼす影響／睡眠障害について<br><br>到達目標<br>・睡眠の加齢による変化を理解できる<br>・心身の変化が睡眠に及ぼす影響を理解できる<br>・睡眠障害について理解できる |
| | 6. | 金城 | 講義 | 内　　容　睡眠に関連する観察のポイント<br><br>到達目標<br>・からだとこころの観察のポイントを理解する<br>・睡眠状態の変化のポイントを理解する<br>・睡眠に影響するライフスタイルを理解する |
| | 7. | 金城 | 講義 | 内　　容　睡眠に関連したしくみの復習の講義と確認テスト<br><br>到達目標<br>・復習講義の口頭質問に回答できる<br>・確認テスト10問中8問以上正解できる |
| | 8. | 金城 | 講義 | 内　　容　死のとらえ方<br><br>到達目標<br>・近年の死因の傾向を理解できる<br>・生物学的氏を理解できる<br>・法律的な死を理解できる<br>・尊厳死・延命治療・安楽死について考える |
| | 9. | 金城 | 講義 | 内　　容　死に対するこころの理解<br>延命治療・生と死についてのレポート作成<br><br>到達目標<br>・キューブラー・ロス「死を宣告された患者の心理下底段階を理解する<br>・家族の死の受容過程を理解できる<br>・自らの死生観につい考えることができる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 金城 | 講義 | 内　　容　終末期と死後のからだの理解<br><br>到達目標<br>・終末期の身体の変化を理解できる<br>・死後の身体の変化を理解できる<br>・死亡届などのルールを理解できる |
| | 11. | 金城 | 講義 | 内　　容　医療との連携について<br><br>到達目標<br>・睡眠の質を高める環境を理解できる<br>・睡眠の質を高める生活習慣を理解できる |
| | 12. | 金城 | 講義 | 内　　容　終末期と死後のからだの理解<br><br>到達目標<br>・終末期の身体の観察のポイントを理解できる<br>・終末期の医療的処置と疼痛について理解できる<br>・多職種との連携を理解できる |
| | 13. | 金城 | 講義 | 内　　容<br>終末期に関連したこころとからだのしくみの復習の講義と確認テスト<br>終末期のレポートの回答分析・まとめ<br><br>到達目標<br>・睡眠の質を高める環境を理解できる<br>・睡眠の質を高める生活習慣を理解できる<br>・人の生と死について自分なりの考えを持つことができる |
| | 14. | 金城 | 講義 | 内　　容<br>睡眠・終末期に関するこころとからだのしくみの復習講義<br>試験対策問題演習と解答解説<br><br>到達目標<br>・睡眠・終末期に関連する基本的事項を口頭質問で回答できる<br>・試験対策問題20問中16問以上正解することができる |
| | 15. | 金城 | 試験 | 内　　容　定期試験及び解答確認<br><br>到達目標<br>試験問題20問中16問以上正解を目指す |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 0% | 0% | 20% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ 第2版　中央法規出版 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | オリジナルレジュメを使用<br>授業項目ごとにミニテストを実施<br>各授業終わりに学生2～3名ずつ授業理解のプレゼンテーションを実施する |

| 科目名 | 【こころとからだのしくみⅢ 】 |
|---|---|
| 担当者 | 八子　久美子 |

| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①休息・睡眠のしくみや機能低下からくる心身への影響について理解できる。<br>②人生の最終段階のケアに関するこころとからだのしくみについての基礎知識を理解する。<br>③看取りケアに関して、介護福祉士として必要な態度や倫理観を理解する。 |
| 到達目標 | ①正常な休息・睡眠のメカニズムを理解し説明できる。<br>②加齢に伴う睡眠の変化や高齢者に多い睡眠障害について説明できる。<br>③人の「死」についてそれぞれのとらえ方や利用者や家族への影響について説明できる。<br>④人の死にゆく過程や死後における心理的、身体的変化について説明できる。<br>⑤看取りケアの介護福祉士の役割を説明できる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 大学病院で3年、訪問看護ステーションで８年の看取りの実務経験をもとに病院と在宅での看取り方の違いについて明らかにし，最期に向けての質の高い死とは何かについて考える機会を持つ。また近年ではターミナルケア指導者としての認定資格を取得の経験から、介護福祉士としての看取りに必要な知識や心構え，そしてウェルビーイングについて一緒に考える機会としたい。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 八子 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション　1年次復習　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①<br>1年次こころとからだのしくみの習得と確認テストを行う。<br>2年次のこころとからだのしくみに関するオリエンテーションを行い、睡眠授業に向けての導入を行う。<br><br>到達目標　1年次の知識習得度を自覚でき、今後の学習計画が立てられる。<br>授業の進め方、試験の方法が理解でき、予習・復習の大切さがわかる。<br>睡眠の自己評価ができる。 |
| | 2. | 八子 | 講義 | 内　　容　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②（睡眠をとる理由）<br>なぜ休息・睡眠が必要なのか、関連するこころとからだのしくみについて学習する。<br><br>到達目標<br>睡眠が起こるしくみを専門用語（概日リズム、メラトニン、松果体、体内時計）を用いて説明で<br>きる。<br>睡眠と関連した心と体のしくみが説明できる（記憶整理・定着、成長、修復、生活習慣予防） |
| | 3. | 八子 | 講義 | 内　　容　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③（睡眠リズム）<br>睡眠のしくみについて、時間、リズム、睡眠に関連した体の器官について学習する。<br><br>到達目標<br>睡眠の年代別必要時間やリズムの違いわかり。<br>睡眠のリズムであるノンレム睡眠、レム睡眠の特徴と睡眠段階を説明できる。 |
| | 4. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響①（加齢と睡眠の質）<br>身近な事例から加齢による睡眠の変化や睡眠の質を上げる生活のしかたを学習する。<br><br>到達目標<br>加齢による睡眠の変化の特徴を理解し、どのように生活すれば、睡眠の質があげられるのか考え<br>られるようになる。 |
| | 5. | 八子 | 講義 | 内　　容　心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響②（高齢者に多い睡眠障害）<br>高齢者に多い睡眠障害（レストレスレッグス症候群、周期四肢運動障害、睡眠時無呼吸障害）の<br>特徴や症状について学習する。<br><br>到達目標<br>高齢者に多い睡眠障害（レストレスレッグス症候群、周期四肢運動障害、睡眠時無呼吸障害）の |
| | 6. | 八子 | 講義 | 内　　容　睡眠での医療職との連携（睡眠薬）<br>介護職として必要な睡眠薬の知識を学習する。<br><br>到達目標<br>代表的な睡眠薬を分類できるようになる。（超短時間型、短時間型、中間型、長時間型）<br>医療職との連携のポイントが考えられるようになる。 |
| | 7. | 八子 | 講義 | 内　　容　睡眠の知識習得度の確認（確認試験）<br>／人生最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ<br>①<br>睡眠に関するこころとからだのしくみの知識習得度のため確認テストを行う。<br>終末期ケアの学習に入る導入としてビデオ「象の背中」を鑑賞する。<br>（死が近づいていると知った時の心身機能の変化を観察しながら見て、レポートする）<br><br>到達目標<br>睡眠に関するこころとからだのしくみ確認テスト60%を合格とし、到達してない学生は補講と再 |
| | 8. | 八子 | 講義 | 内　　容　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②（ビデオ鑑賞）<br>ビデオ「象の背中」続きを鑑賞する。（本人、家族の「死の受容過程」ホスピスの理解）<br><br>到達目標<br>「死の受容過程」について本人や家族の立場から考えるようになる。<br>最期の場としてどこを選びたいのかも考えられるようになる。（レポート提出） |
| | 9. | 八子 | 講義 | 内　　容　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③（死の概念）<br>死にもいろいろな捉え方があることを学習する。<br><br>到達目標<br>生物学的な死、法律的な死、臨床的な死、尊厳死の定義について、特色を説明できる。 |
| | 10. | 八子 | 講義 | 内　　容　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④（リビングウイル）<br>生命倫理DVD[白い遺言状」を見てリビングウイルについて学習する。<br>ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、厚生労働省のガイドラインについても学習する。<br><br>到達目標<br>リビングウイルとはどのようなことか説明できる。ガイドラインから、国の動向を理解し、介護<br>福祉士としてその方にとって質の高い「死」と何か考えられるようになる。 |
| | 11. | 八子 | 講義 | 内　　容　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤（終末期から臨終期）<br>終末期における身体の期の変化と死後の体の変化について学習する。DVD使用<br><br>到達目標<br>終末期から臨終期における身体機能の変化が説明できる。<br>（体温、呼吸、血圧、脈、意識状態等、日常生活機能） |
| | 12. | 八子 | 講義 | 内　　容　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑥（死後のケア）<br>死後の体の変化を学習し死後の介護福祉士の役割について学習する。<br>（グリーフケア、デスカンファレンス）<br><br>到達目標<br>死後の体の変化を説明できる。終末期ケアは本人だけでなく、家族も対象としていること、どの<br>ように家族と向き合えばいいか考えられるようになる。 |
| | 13. | 八子 | 講義 | 内　　容　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑦（まとめ）<br>看取りに関する介護福祉士ができることについて個別でまとめる。<br><br>到達目標<br>人生の最終段階のケアに関連したこころとからだの用語について理解できている。<br>看取りに関する介護福祉士としてできることを個別にまとめることができる。 |
| | 14. | 八子 | 講義 | 内　　容　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑧(まとめ グループワーク)<br>看取りに関する介護福祉士ができることについて個別でまとめたものを各グループで共有し発表<br>する。<br><br>到達目標<br>看取りに関する介護福祉士としてできることを個別にまとめた資料を持ち寄り、グループで共有 |
| | 15. | 八子 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 70% | 20% | 10% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉講座11「こころとからだのしくみ」第2版　中央法規　2022年 |
| 参考文献 | 介護福祉士国試ナビ2025　中央法規　2024 年 |
| その他<br>（留意点等） | 介護施設実習での経験と知識の統合化をすると理解が深まります。 |

| 科目名 | 【医療的ケアⅠ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 金城　隆 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 3 単位 | 30 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①医療的ニーズのある利用者に対して、喀痰吸引・経管栄養の接続の技術が提供できるよう、必要な知識・技術を習得する。<br>②科目:医療的ケアⅠとⅡ受講により、医療的ケア基本研修を修了する。 |
| 到達目標 | ①医療的ケア実施に必要な知識・技術を習得できる(定期試験90点以上)。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。<br>・現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリ・医療処置などを担当する。<br>・現場の事例を交えた講義をする。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（医療的ケアとは、医療の倫理）<br><br>到達目標<br>・医療的ケア研修内容を理解する<br>・医行為とは何か理解する<br>・医療の倫理について理解できる |
| | 2. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（制度・しくみについて）<br><br>到達目標<br>・医療的ケアまでの法改正の変遷を理解できる<br>・医療的ケアと喀痰吸引等研修の内容を理解できる |
| | 3. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論(安全な療養生活：安全に医療的ケアを提供する重要性、リスクマネジメント・ヒヤリハット)<br><br>到達目標<br>・安全に医療的ケアを提供する重要性を理解できる<br>・リスクマネジメントとヒヤリハット・アクシデントについて理解できる |
| | 4. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（安全な療養生活：救急蘇生法について）<br><br>到達目標<br>・カーラーの救命曲線、チェーンオブサバイバルを理解できる<br>・心肺蘇生法を実践できるよう覚えることができる<br>・異物除去法、JCSを理解できる |
| | 5. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（清潔保持と感染予防：感染予防について、介護福祉職の感染予防）<br><br>到達目標<br>・感染の要因・予防の基礎を理解できる<br>・介護福祉職の健康管理・感染予防の重要性を理解できる |
| | 6. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（清潔保持と感染予防：療養環境の清潔・消毒方法）<br><br>到達目標<br>・一般ごみと医療廃棄物の違いを理解できる<br>・消毒と滅菌の違い、それぞれの方法を理解できる |
| | 7. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（健康状態の把握：健康な状態を知るために、バイタルサイン）<br><br>到達目標<br>・健康について・観察項目のポイントを理解できる<br>・各バイタルサインの意味・測定方法を理解できる |
| | 8. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（健康状態の把握：バイタルサイン・急変時の対応）<br><br>到達目標<br>・落ち着いてバイタル測定ができる<br>・急変時の対応のポイントを理解できる |
| | 9. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（課題レポート作成・心肺蘇生法演習）<br><br>到達目標<br>・バイタルサインや症状で異常を予測することができる<br>・心肺蘇生法を実践することができる |
| | 10. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（課題レポート作成・心肺蘇生法演習）<br><br>到達目標<br>・バイタルサインや症状で異常を予測することができる<br>・心肺蘇生法を実践することができる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 11. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（課題レポート解答解説・練習問題実施と解答解説）<br><br>到達目標<br>・総論練習問題15問中14問以上正解することができる |
| | 12. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論（確認テスト実施と解答解説、心肺蘇生法の補習）<br><br>到達目標<br>・確認テスト15問中14問以上正解することができる |
| | 13. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態）<br><br>到達目標<br>・こきゅうのしくみと働きを理解できる<br>・正常な呼吸と異常な呼吸の違いを理解できる |
| | 14. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（喀痰吸引とは）<br><br>到達目標<br>・痰が生じて排出するしくみを理解できる<br>・痰貯留を示す状態、痰を出しやすくするケア、喀痰吸引の方法を理解できる<br>・喀痰吸引が必要な状態を理解できる |
| | 15. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（人工呼吸器と喀痰吸引１）<br><br>到達目標<br>・人工呼吸器が必要な状態・しくみと種類を理解できる |
| | 16. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（侵襲的な人工呼吸療法、装着者の生活上の留意点、医療連携）<br><br>到達目標<br>・気管切開・気管カニューレを理解できる<br>・気管カニューレ内部の吸引の留意点を理解できる<br>・人工呼吸器装着者の生活上の留意点と医療連携について理解できる |
| | 17. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（子供の吸引について、利用者・家族の気持ちについて）<br><br>到達目標<br>・子どもの吸引の留意点を理解できる<br>・利用者・家族の気持ちに沿った対応を理解できる |
| | 18. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（呼吸器系感染と予防、吸引により生じる危険、事後の安全確認）<br><br>到達目標<br>・呼吸器感染と予防方法を理解できる<br>・喀痰吸引により生じるトラブル対応について理解できる |
| | 19. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（これまでの復習講義　確認テスト１実施と解答解説）<br><br>到達目標<br>・復習講義の口頭質問に回答できる<br>・確認テスト10問中9問以上正解できる |
| | 20. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（実施手順解説１：必要物品・清潔保持方法）<br><br>到達目標<br>・喀痰吸引における必要物品を理解できる<br>・必要物品の清潔保持方法を理解できる |
| | 21. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（実施手順解説２：手順のポイント）<br><br>到達目標<br>・喀痰吸引の手順ポイントを理解できる |
| | 22. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（実施手順解説３：喀痰球威運に伴うケア）<br><br>到達目標<br>・痰を出しやすくするための要因を理解できる<br>・口腔ケア、喀痰吸引後の報告のポイントを理解できる |
| 授業計画 | 23. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（シュミレーション：口腔内吸引）<br><br>到達目標<br>・口腔内吸引の手順を覚える |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 24. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（シュミレーション：鼻腔内吸引）<br><br>到達目標<br>・鼻腔内吸引の手順を覚える |
| 25. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（シュミレーション：気管カニューレ内部の吸引）<br><br>到達目標<br>・気管カニューレ内部の吸引の手順を覚える |
| 26. | 金城 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（これまでの復習講義　確認テスト実施と解答解説）<br><br>到達目標<br>・復習講義における口頭質問に回答できる<br>・確認テスト90%以上正解できる |
| 27. | 金城 | 講義 | 内　　容　医療的ケア介護福祉士子化試験過去問演習と解答解説<br><br>到達目標<br>・過去問演習を行い内容を理解できる |
| 28. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（消化器系のしくみとはたらき）<br><br>到達目標<br>・消化管と消化腺を理解できる<br>・摂食嚥下の5分類を理解できる<br>・消化器官（口腔～胃まで）の役割を理解できる |
| 29. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（消化器系のしくみとはたらき続き、消化器系のよくある症状）<br><br>到達目標<br>・消化器官（小腸～大腸）の役割を理解できる<br>・消化器の症状を理解できる |
| 30. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（経管栄養とは、栄養剤の知識）<br><br>到達目標<br>・経管栄養のしくみと種類を理解できる<br>・栄養剤に関する知識を理解できる |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技習得状況 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 0% | 20% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉士養成講座15　医療的ケア　第2版　中央法規出版 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | オリジナルレジュメ使用<br>各授業項目ごとにミニテスト実施<br>医療的ケアⅠ30コマ＋医療的ケアⅡ15コマを合計し45コマが基本研修座学とする<br>（この内10コマ以上の授業欠席者、筆記試験90点未満の者は医療的ケアⅡの後半【第15回以降】演習に進むことができない）<br>成績評価：医療的ケアⅡの経管栄養座学が終了後の最終筆記試験（80%）と心肺蘇生法及びバイタルサイン測定演習の習得状況（20%）で行う |

| 科目名 | 【医療的ケアⅡ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 金城・近藤・田中・宮崎・竹内・古田・中島・加我 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 後期 | 講義 | 3 単位 | 30 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①医療的ニーズのある利用者に対して、喀痰吸引・経管栄養の接続の技術が提供できるよう、必要な知識・技術を習得する。<br>②科目:医療的ケアⅠとⅡ受講により、医療的ケア基本研修を修了する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①医療的ケア実施に必要な知識を習得できる(定期試験90点以上)。<br>②医療的ケア実施に必要な知識・技術を習得できる<br>（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部の吸引・胃瘻経管栄養・経鼻経管栄養・心配蘇生法） | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。<br>・現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリ・医療処置などを担当する。<br>・現場の事例を交えた講義をする。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（経管栄養実施上の留意点）<br><br>到達目標<br>・経管栄養で起こりうる異変について理解できる<br>・スキントラブルについて理解できる |
| | 2. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養(子どもの経管栄養、経管栄養に関係する感染と予防、利用者家族への対応)<br><br>到達目標<br>・子どもの経管栄養における留意点を理解できる<br>・経管栄養に関係する感染と予防について理解できる<br>・利用者・家族への対応ポイントが理解できる |
| | 3. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（危険・安全確認・トラブル対応）<br><br>到達目標<br>・経管栄養による危険の種類を理解できる<br>・トラブルへの対応方法を理解できる<br>・医療職との連携ポイントを理解できる |
| | 4. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（経管栄養実施手順解説１：使用物品・清潔保持方法・挿入部の清潔保持）<br><br>到達目標<br>・必要物品を理解できる<br>・物品の清潔保持の方法を理解できる<br>・挿入部の清潔保持の方法を理解できる |
| | 5. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（経管栄養実施手順解説２：手順のポイント）<br><br>到達目標<br>・経管栄養の手順のポイントを理解できる |
| | 6. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（経管栄養実施手順解説３：経管栄養に必要なケア、報告及び記録）<br><br>到達目標<br>・経管栄養に必要なケアを理解できる<br>・報告及び記録の方法・ポイントを理解できる |
| | 7. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（これまでの復習講義　確認テストの実施と解答解説）<br><br>到達目標<br>・確認テスト90%以上正解ができる |
| | 8. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（胃ろう経管栄養シュミレーション１）<br><br>到達目標<br>・胃ろう経管栄養の手順を覚える |
| | 9. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（胃ろうシュミレーション２）<br><br>到達目標<br>・胃ろうの手技の理解を深めることができる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（経鼻経管栄養シュミレーション１）<br>到達目標<br>・経鼻経管栄養の手順を覚えることができる |
| | 11. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（経鼻経管栄養シュミレーション２）<br>到達目標<br>・経鼻経管栄養の手技の理解を深めることができる |
| | 12. | 金城 | 講義 | 内　　容　経管栄養（介護福祉士国家試験過去問実施と解答解説）<br>到達目標<br>・国家試験問題の過去問を解き、内容を理解する |
| | 13. | 金城 | 講義 | 内　　容　総論・喀痰吸引・経管栄養の復習講義　試験対策問題の実施と解答解説<br>到達目標<br>・試験対策問題30問中27問以上正解することができる |
| | 14. | 金城 | 講義 | 内　　容　筆記試験と解答<br>到達目標<br>・90%以上（27/30問）正解することができる |
| | 15. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 16. | 金城　他 | 講義 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 17. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 18. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 19. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 20. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 21. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 22. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 23. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 24. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 25. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 26. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 27. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 28. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 29. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |
| | 30. | 金城　他 | 演習 | 内　　容　喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）経管栄養（胃ろう・経鼻）の演習<br>到達目標<br>・各手技5回以上実施し、最後の1回は完璧な手技をすることができる |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技習得状況 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0% | 0% | 0% | 100% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 最新介護福祉士養成講座15　医療的ケア　第2版　中央法規出版 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 第14回までは医療的ケアⅠの30コマと合わせて基本研修の座学部分とする<br>第14回目に座学の最終筆記試験を実施（90%以上の正解がない者は第15回以降の演習に進むことができない）<br>オリジナルレジュメ使用<br>授業項目ごとにミニテスト実施<br>成績評価は実技の習得状況で決める |

| 科目名 | 【介護の応用】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 齊藤　美由紀 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的（ねらい） | 卒業後、介護福祉士として活躍するために必要な、応用知識・技術を習得することを目的とし、郊外学習への参加及び外部講師（ゲストスピーカー）からの指導を頂き、実践力、応用力を高める授業とする。 |
| 到達目標 | ①介護福祉を担う専門職として、知識、技術、情報を統合させ、それらを介護実践の場で活かせる力を身に付ける。<br>②在宅介護・施設介護等、あらゆる介護実践の場において、実践できる応用力を身に付ける。 |
| 実務経験と授業内容への活用 | 介護福祉士、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた様々な経験を通して、実際の介護現場において必要な応用知識を学ぶ授業とする。ここでは、理想論だけでなく現実論も重視し、多職種連携の観点から外部講師を招き、基礎知識から応用知識へと発展させていく学びとする。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　校外授業<br>第20回アクティブ福祉in東京’25への参加。<br><br>到達目標<br>本年2025年は団塊の世代が全員75歳以上となり、日本はかつてない超高齢社会を迎える。<br>物価・賃金高騰、人手不足という厳しい経営環境の中で、従来の介護・福祉施設の仕組みを大きく変革していく力が求められており、何をどのように変革していく必要があるかについて考える力を身に付ける。 |
| | 2. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　校外授業<br>第20回アクティブ福祉in東京’25への参加。<br><br>到達目標<br>本年2025年は団塊の世代が全員75歳以上となり、日本はかつてない超高齢社会を迎える。<br>物価・賃金高騰、人手不足という厳しい経営環境の中で、従来の介護・福祉施設の仕組みを大きく変革していく力が求められており、何をどのように変革していく必要があるかについて考える力を身に付ける。 |
| | 3. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　校外授業<br>国際福祉機器展（H.C.R.2025）への参加。<br><br>到達目標<br>高齢者、障害者(児)の日常生活の自立促進と社会参加のための福祉機器、リハビリテーション機器や介護機器・用品など、幅広く「みて、さわって、たしかめて」、最新の福祉機器の知識を得る。 |
| | 4. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　校外授業<br>国際福祉機器展（H.C.R.2025）への参加。<br><br>到達目標<br>高齢者、障害者(児)の日常生活の自立促進と社会参加のための福祉機器、リハビリテーション機器や介護機器・用品など、幅広く「みて、さわって、たしかめて」、最新の福祉機器の知識を得る。 |
| | 5. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　重度障害者の地域でのリアルな暮らし<br>「境を越えて」（重度訪問当事者やご家族が安心して生活できることを目指している会）の「カリキュラム化プロジェクト」による、重度障害者が地域で生きる・暮らしのリアルを当事者から学ぶ。<br><br>到達目標<br>重度障害者が地域でどのようなサービスを利用し、どのように生活をしているのかを知る。<br>また、その理解に基づき、当事者の思いに寄り添った支援を行うことができる。 |
| | 6. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　重度障害者の地域でのリアルな暮らし<br>「境を越えて」（重度訪問当事者やご家族が安心して生活できることを目指している会）の「カリキュラム化プロジェクト」による、重度障害者が地域で生きる・暮らしのリアルを当事者から学ぶ。<br><br>到達目標<br>重度障害者が地域でどのようなサービスを利用し、どのように生活をしているのかを知る。<br>また、その理解に基づき、当事者の思いに寄り添った支援を行うことができる。 |
| | 7. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　重度障害者の地域でのリアルな暮らし<br>「境を越えて」（重度訪問当事者やご家族が安心して生活できることを目指している会）の「カリキュラム化プロジェクト」による、重度障害者が地域で生きる・暮らしのリアルを当事者から学ぶ。<br><br>到達目標<br>重度障害者が地域でどのようなサービスを利用し、どのように生活をしているのかを知る。<br>また、その理解に基づき、当事者の思いに寄り添った支援を行うことができる。 |
| | 8. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　重度障害者の地域でのリアルな暮らし<br>「境を越えて」（重度訪問当事者やご家族が安心して生活できることを目指している会）の「カリキュラム化プロジェクト」による、重度障害者が地域で生きる・暮らしのリアルを当事者から学ぶ。<br><br>到達目標<br>重度障害者が地域でどのようなサービスを利用し、どのように生活をしているのかを知る。<br>また、その理解に基づき、当事者の思いに寄り添った支援を行うことができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　重度障害者の地域でのリアルな暮らし<br>「境を越えて」（重度訪問当事者やご家族が安心して生活できることを目指している会）の「カリキュラム化プロジェクト」による、重度障害者が地域で生きる・暮らしのリアルを当事者から学ぶ。<br><br>到達目標<br>重度障害者が地域でどのようなサービスを利用し、どのように生活をしているのかを知る。<br>また、その理解に基づき、当事者の思いに寄り添った支援を行うことができる。 |
| 10. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　現場従事者による介護技術の演習<br>介護実践現場に携わる介護技術勉強会グループによる、利用者主体の介護技術を学ぶ。<br><br>到達目標<br>現場実践の場における、利用者主体の介護技術を習得することができる。 |
| 11. | 齊藤 | 演習 | 内　　容　現場従事者による介護技術の演習<br>介護実践現場に携わる介護技術勉強会グループによる、利用者主体の介護技術を学ぶ。<br><br>到達目標<br>現場実践の場における、利用者主体の介護技術を習得することができる。 |
| 12. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　介護現場におけるICT活用<br>介護実践現場における介護のICT（ソフト関係、ロボット関係等）活用の方法について学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護実践の場におけるICT活用の方法を理解し、それらを活用した介護実践ができる。 |
| 13. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　柔道整復師によるツボ・ストレッチ方法<br>柔道整復師から、身体のツボやストレッチ方法について学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護実践の場において、利用者、介護者双方の安楽な支援の方法について考える力を身に付ける |
| 14. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　言語聴覚士による嚥下能力が低下している利用者への支援方法<br>嚥下能力が低下している利用者への支援方法について、言語聴覚士からの視点での支援方法について学ぶ。<br><br>到達目標<br>介護実践の場において、嚥下能力が低下している利用者への支援について、留意点や支援方法を学び、誤嚥や更なる低下を防ぐ、介護実践を行うことができる。 |
| 15. | 齊藤 | 講義 | 内　　容　まとめ<br>本科目で学んだ知識の振り返りを行う。<br><br>到達目標<br>各回で学んだ知識の統合を図り、学んだ知識や技術をどのように生かし支援していけばよいか、考える力を身に付け、実際の支援に活かすことができる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0% | 0% | 100% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 特になし。配布資料を熟読すること。 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 講義内容により、2回連続での授業となる。<br>介護実践の場での応用力を身につけるため、真剣に受講し、積極的に演習に参加すること。<br>ゲストスピーカーの都合等により、講義日程は上記の順番通りではなく、日程が決定次第、別紙にてお知らせする。 |

| 科目名 | 【高齢者自立支援介護】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 根岸　広英 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的（ねらい） | ①事例を通じて要介護高齢者の自立性を改善するケアを知る<br>②自立・重度化予防に必要な基礎知識を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | ①普段の体調を整える基本ケアの基礎知識を習得する<br>②要介護高齢者の課題を抽出することができる | | | | | | |
| 実務経験と授業内容への活用 | 特別養護老人ホーム、通所介護、訪問介護、グループホーム、有料老人ホームにて介護職、ケアマネ、生活相談員、施設長、本部管理（教育/運営指導）職として17年以上勤務。<br>自立支援介護を実践しおむつゼロ、在宅復帰、常食化ケア、介護度改善などを行ってきた。<br>今までの実践経験を活用し、自立支援介護の事例を紹介しながら講義と演習を行う。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　自立支援介護総論（事例紹介）<br>実際の要介護高齢者の改善事例を動画やデータなどから学ぶ<br><br>到達目標<br>要介護状態となった高齢者でも自立性を改善することは可能であることを認識する |
| | 2. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　自立支援介護総論<br>自立支援介護の総論を学ぶ<br><br>到達目標<br>ADLの意味を理解する |
| | 3. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　高齢者の心身の特徴<br>廃用症候群の考え方と普段の体調を整え、体力・活動力を高める基本ケアを学ぶ<br><br>到達目標<br>基本ケアの各項目を理解する |
| | 4. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　水分ケア理論<br>水分の体内での役割や水分欠乏時の症状について学ぶ<br><br>到達目標<br>水分欠乏で生じる症状を理解する |
| | 5. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　歩行ケア理論<br>自立歩行に向けたケアと運動学習理論を学ぶ<br><br>到達目標<br>歩行能力を低下させる要因と運動学習理論を理解する |
| | 6. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　排泄ケア理論（排便）<br>便失禁の原因と便秘を治すケアを学ぶ<br><br>到達目標<br>排便に必要な反射と便秘を治すケアを理解する |
| | 7. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　①排泄ケア理論（排尿）　②実践者による取り組み報告（ゲストスピーカー）<br>①尿失禁の原因と尿失禁を治すケアを学ぶ<br>②現在、自立支援介護を実践している現場の介護福祉士からの実践報告<br><br>到達目標<br>①尿失禁を治すケアを理解する |
| | 8. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　食事ケア理論<br>食事ケアに必要な基礎知識を学ぶ<br><br>到達目標<br>必要栄養量や安全な食事姿勢を理解する |
| | 9. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　実践報告（ゲストスピーカー）<br>特別養護老人ホームでの自立支援介護の取り組みを学ぶ<br><br>到達目標<br>特別養護老人ホームでの自立支援介護の取り組みを知る |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　常食化ケア理論<br>常食化に必要なケア理論を学ぶ<br><br>到達目標<br>常食化５原則と運動学習理論を理解する |
| 11. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　認知症ケア理論①<br>認知症の症状消失のために必要な基礎知識を学ぶ<br><br>到達目標<br>認知障害を理解する |
| 12. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　認知症ケア理論②<br>認知症の症状消失のために必要な基礎知識を学ぶ<br><br>到達目標<br>能動性を高めるケアを理解する |
| 13. | 根岸 | 演習 | 内　　容　　自立に向けたアセスメントと課題抽出<br>事例を用いてアセスメントから課題抽出を学ぶ<br><br>到達目標<br>要介護状態を改善するための課題抽出ができる |
| 14. | 根岸 | 講義 | 内　　容　　自立支援介護の基礎理論振り返り<br>自立支援介護に必要な基礎知識を学ぶ<br><br>到達目標<br>自立支援介に必要な基礎知識を理解する |
| 15. | 根岸 | 試験 | 定期試験 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 90% | 0% | 10% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 竹内孝仁「新版介護基礎学」（医歯薬出版株式会社、2017年） |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 自立支援介護の実践者をお招きする回があるため、講義内容が前後する可能性があります。 |

| 科目名 | 【介護福祉総合学Ⅰ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 岡本　啓介 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護福祉士国家試験の合格を目指し、各科目の知識を身につけていく。<br>②現時点での得意科目、不得意科目を把握し、得点力アップを図る。 |
| 到達目標 | ①各科目の重要ポイントを理解し、国家試験頻出問題を正答できる。<br>②国家試験合格レベルに達することができる（6割（75/125問）以上の得点を目指す）。<br>③定期試験では6割の得点を獲得できる。 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | 介護福祉士養成校教員として、また社会人向け受験対策講座講師としての受験指導経験を踏まえ、各科目の頻出項目、重要ポイントの整理及び復習を行う。また、練習問題や過去問題を使いながら基礎力強化から応用力の養成まで行っていく。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 岡本 | 講義 | 内　　容　オリエンテーション　国家試験受験にむけて<br>到達目標<br>介護福祉士国家試験の概要と傾向、受験勉強の方法と考え方について理解する。 |
| | 2. | 岡本 | 講義 | 内　　容　介護の基本ポイント復習<br>到達目標<br>介護の基本の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 3. | 岡本 | 講義 | 内　　容　コミュニケーション技術ポイント復習<br>到達目標<br>コミュニケーション技術の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 4. | 岡本 | 講義 | 内　　容　生活支援技術ポイント復習①<br>到達目標<br>生活支援技術の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 5. | 岡本 | 講義 | 内　　容　生活支援技術ポイント復習②及び介護過程ポイント復習<br>到達目標<br>コミュニケーション技術の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 6. | 岡本 | 講義 | 内　　容　人間の尊厳と自立及び人間関係とコミュニケーションポイント復習<br>到達目標<br>人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーションの重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 7. | 岡本 | 講義 | 内　　容　社会の理解ポイント復習①<br>到達目標<br>社会の理解の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 8. | 岡本 | 講義 | 内　　容　社会の理解ポイント復習②<br>到達目標<br>社会の理解の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 9. | 岡本 | 講義 | 内　　容　こころとからだのしくみポイント復習①<br>到達目標<br>こころとからだのしくみの重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 岡本 | 講義 | 内　　容　こころとからだのしくみポイント復習②<br>到達目標<br>　こころとからだのしくみの重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 11. | 岡本 | 講義 | 内　　容　発達と老化の理解ポイント復習<br>到達目標<br>　発達と老化の理解の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 12. | 岡本 | 講義 | 内　　容　認知症の理解ポイント復習<br>到達目標<br>　認知症の理解の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 13. | 岡本 | 講義 | 内　　容　障害の理解ポイント復習<br>到達目標<br>　障害の理解の重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 14. | 岡本 | 講義 | 内　　容　医療的ケアポイント復習<br>到達目標<br>　医療的ケアの重要ポイント及び出題傾向を理解する。 |
| | 15. | 岡本 | 試験 | 内　　容　定期試験<br>到達目標<br>　国家試験に必要な基礎知識の定着を図り、後期に向けての課題を発見することができる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書<br>（参考文献） | 「目で覚える介護福祉士国試ナビ2025」中央法規出版<br>介護福祉士国家試験過去問題 |
| | その他、適宜プリントを配布 |
| その他<br>（留意点等） | 定期試験の合格だけでは、国家試験に合格することは難しいです。<br>毎回の授業に参加し、国家試験合格への実力を身につけていきましょう。 |

| 科目名 | 【介護福祉総合学Ⅰ】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 金城　隆 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 前期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護福祉士国家試験合格に向け、基礎知識を身に着ける | | | | | | |
| 到達目標 | ①分野「人間と社会」配点18点＝9点以上正解<br>②分野「こころとからだのしくみ」配点40点＝20点以上正解<br>③分野「医療的ケア」配点5点＝3点以上正解<br>④分野「介護」配点50点＝37問以上正解<br>⑤分野「総合問題」配点12問＝6問以上正解 | | | | | | |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。<br>・現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリ・医療処置などを担当する。<br>・現場の事例を交えた講義をする。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 金城 | 講義 | 内　　容　介護福祉士国家試験対策について<br>到達目標<br>合格を目指すためにはどのような学習が必要かを理解できる |
| | 2. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「人間と社会：18問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 3. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「こころとからだのしくみ：40問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 4. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「こころとからだのしくみ：40問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 5. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「医療的ケア：5問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 6. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 7. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 8. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 9. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「総合問題：12問」と解答解説<br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 10. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「総合問題：12問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 11. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「人間と社会：18問」<br>「こころとからだのしくみ：40問」<br>「医療的ケア：5問」　解答解説<br><br>到達目標<br>・以前の点数と比べて上がり幅を自覚することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 12. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「人間と社会：18問」<br>「こころとからだのしくみ：40問」<br>「医療的ケア：5問」　解答解説<br><br>到達目標<br>・以前の点数と比べて上がり幅を自覚することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 13. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」<br>「総合問題：12問」　解答解説<br><br>到達目標<br>・以前の点数と比べて上がり幅を自覚することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 14. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」<br>「総合問題：12問」　解答解説<br><br>到達目標<br>・以前の点数と比べて上がり幅を自覚することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 15. | 金城 | 試験 | 内　　容　定期試験（ゴ者択一20問）解答解説<br><br>到達目標<br>・20問中16問以上の正解をすることができる<br>・国家試験頻出問題を理解することができる |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | 演習問題2回の点差 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 0% | 0% | 0% | 20% | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 国司ナビ2025　中央法規出版 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 国家試験の科目を5分野に分け、各分野2回ずつ問題演習を実施し解答解説を行う<br>オリジナル解説・レジュメ使用<br>自分の点数とクラス平均点を表示した成績表を配布<br>自分の知識量がどのくらいなのか把握するよう指導する |

| 科目名 | 【介護福祉総合学Ⅱ 】 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 岡本　啓介 | | | | | | |
| 学科 | | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | | 昼間部 | ２年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |
| 授業の目的（ねらい） | ①介護福祉士国家試験合格を目指し、各科目の知識を更に上乗せしていく。<br>②現時点での自身の知識レベルを把握し、合格点を獲得できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①各科目の需要ポイントと出題傾向を把握し、正答を導き出せる。<br>②国家試験合格レベルに達することができる（7割（85/125問）以上の得点ができる）。<br>③定期試験では7割の得点以上、正答できる。 | | | | | | |
| 実務経験と授業内容への活用 | 介護福祉士養成校教員として、また社会人向け受験対策講座講師としての受験指導経験を踏まえ、各科目の頻出項目、重要ポイントの整理及び復習を行う。また、練習問題や過去問題を使いながら基礎力強化から応用力の養成まで行っていく。 | | | | | | |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 岡本 | 講義 | 内　　容　介護系科目解説（模擬問題演習①）<br>到達目標<br>模擬問題を活用し、知識の定着を図る。また、出題傾向の再確認を行い、自己学習方法の確立につなげる。 |
| | 2. | 岡本 | 講義 | 内　　容　人間と社会系科目解説（模擬問題演習①）<br>到達目標<br>模擬問題を活用し、知識の定着を図る。また、出題傾向の再確認を行い、自己学習方法の確立につなげる。 |
| | 3. | 岡本 | 講義 | 内　　容　こころとからだのしくみ系・医療的ケア科目解説（模擬問題演習①）<br>到達目標<br>模擬問題を活用し、知識の定着を図る。また、出題傾向の再確認を行い、自己学習方法の確立につなげる。 |
| | 4. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習①（午前問題）<br>到達目標<br>過去問題を解き、自身の不足知識を明確にする。 |
| | 5. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習①（午後問題）<br>到達目標<br>過去問題を解き、自身の不足知識を明確にする。 |
| | 6. | 岡本 | 講義 | 内　　容　介護系科目解説（模擬問題演習Ⅱ）<br>到達目標<br>過去問題を活用し、知識の定着を図る。<br>また、出題傾向の再確認を行い、自己学習方法の確立につなげる。 |
| | 7. | 岡本 | 講義 | 内　　容　人間と社会系科目解説（模擬問題演習②）<br>到達目標<br>模擬問題を活用し、知識の定着を図る。<br>また、出題傾向の再確認を行い、自己学習方法の確立につなげる。 |
| | 8. | 岡本 | 講義 | 内　　容　こころとからだのしくみ系・医療的ケア科目解説（模擬問題演習②）<br>到達目標<br>模擬問題を活用し、知識の定着を図る。<br>また、出題傾向の再確認を行い、自己学習方法の確立につなげる。 |
| | 9. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習②（午前問題）<br>到達目標<br>過去問題を解き、自身の不足知識を明確にする。<br>また、残りの期間の学習方法について検討する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習②（午前問題）<br><br>到達目標<br>　過去問題を解き、自身の不足知識を明確にする。<br>　また、残りの期間の学習方法について検討する。 |
| | 11. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習③（午前問題）<br><br>到達目標<br>　過去問題を解き、自身の不足知識を明確にする。<br>　また、残りの期間の学習方法について検討する。 |
| | 12. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習③（午前問題）<br><br>到達目標<br>　過去問題を解き慣れることで、さらなる得点力アップを図れる。 |
| | 13. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習④（午前問題）<br><br>到達目標<br>　過去問題を解き慣れることで、さらなる得点力アップを図れる。 |
| | 14. | 岡本 | 講義 | 内　　容　過去問題演習④（午前問題）<br><br>到達目標<br>　過去問題を解き慣れることで、さらなる得点力アップを図れる。 |
| | 15. | 岡本 | 試験 | 内　　容　定期試験<br><br>到達目標<br>　合格レベルに達する知識を身につけたかどうかを把握できる。 |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書<br>（参考文献） | 「目で覚える介護福祉士国試ナビ2025」中央法規出版<br>介護福祉士国家試験過去問題 |
| | その他、適宜プリントを配布 |
| その他<br>（留意点等） | 定期試験の合格だけでは、国家試験に合格することは難しいです。<br>毎回の授業に参加し、国家試験合格への実力を身につけていきましょう。 |

| 科目名 | 【介護福祉総合学Ⅱ】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 金城　隆 | | | | | |
| 学科 | 昼夜 | 学年 | 学期 | 形式 | 単位 | 授業回数 |
| 介護福祉学科 | 昼間部 | ２年 | 後期 | 講義 | 2 単位 | 15 回 |

| | |
|---|---|
| 授業の目的<br>（ねらい） | ①介護福祉士国家試験合格に向け、知識量を増やす |
| 到達目標 | ①分野「人間と社会」配点18点＝10点以上正解<br>②分野「こころとからだのしくみ」配点40点＝22点以上正解<br>③分野「医療的ケア」配点5点＝4点以上正解<br>④分野「介護」配点50点＝40問以上正解<br>⑤分野「総合問題」配点12問＝7問以上正解 |
| 実務経験と<br>授業内容への<br>活用 | ・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。<br>・現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリ・医療処置などを担当する。<br>・現場の事例を交えた講義をする。 |

| | | 担当 | 授業方法 | 内容・到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1. | 金城 | 講義 | 内　　容<br>介護福祉士国家試験<br>これからの試験勉強について<br><br>到達目標<br>国家試験合格に向け学習計画を考えることができる |
| | 2. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「人間と社会：18問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 3. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「こころとからだのしくみ：40問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 4. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「こころとからだのしくみ：40問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・自分の力量を把握することができる<br>・国家試験頻出問題を理解できる |
| | 5. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「医療的ケア：5問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 6. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 7. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 8. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 9. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「総合問題：12問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 10. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「総合問題：12問」と解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 11. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「人間と社会：18問」<br>「こころとからだのしくみ：40問」<br>「医療的ケア：5問」　　解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 12. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「人間と社会：18問」<br>「こころとからだのしくみ：40問」<br>「医療的ケア：5問」　　解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 13. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」<br>「総合問題：12問」　　解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 14. | 金城 | 講義 | 内　　容　分野別演習問題実施「介護：50問」<br>「総合問題：12問」　　解答解説<br><br>到達目標<br>・重要ポイントを理解する<br>・周辺知識も理解する |
| | 15. | 金城 | 試験 | 内　　容　定期試験（ゴ者択一20問）解答解説<br><br>到達目標<br>・20問中16問以上の正解をすることができる<br>・国家試験頻出問題を復習することができる |

| 成績評価 | 定期試験 | 小テスト（チェック） | レポート（提出物） | 実技試験 | プレゼンテーション | 演習問題2回の点差 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 80% | 0% | 0% | 0% | 0% | 20% | 100% |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 国司ナビ2025　中央法規出版 |
| 参考文献 | |
| その他<br>（留意点等） | 国家試験の科目を5分野に分け、各分野2回ずつ問題演習を実施し解答解説を行う<br>オリジナル解説・レジュメ使用<br>自分の点数とクラス平均点を表示した成績表を配布<br>得意・苦手分野を把握し自主的に勉強できるよう指導する |